

第3章 事業実施想定区域及びその周囲の概況

事業実施想定区域及びその周囲における自然的状況及び社会的状況について、環境要素の区分ごとに事業特性を踏まえ、計画段階配慮事項を検討するに当たり必要と考えられる範囲を対象に入手可能な最新の文献その他の資料により把握した。

3.1 自然的状況

3.1.1 大気環境の状況

1. 気象の状況

事業実施想定区域は鳥取県の東部に位置し、その周囲には南に中国山地が存在している。「千代川水系工事実施基本計画と千代川水系河川整備基本方針（案）対比表」（国土交通省、平成18年）によると日本海側型気候地域に属しており、冬季に積雪による降水量が多く、年間降水量は平均2,000mm程度で、三方の山地部において多くなっている。

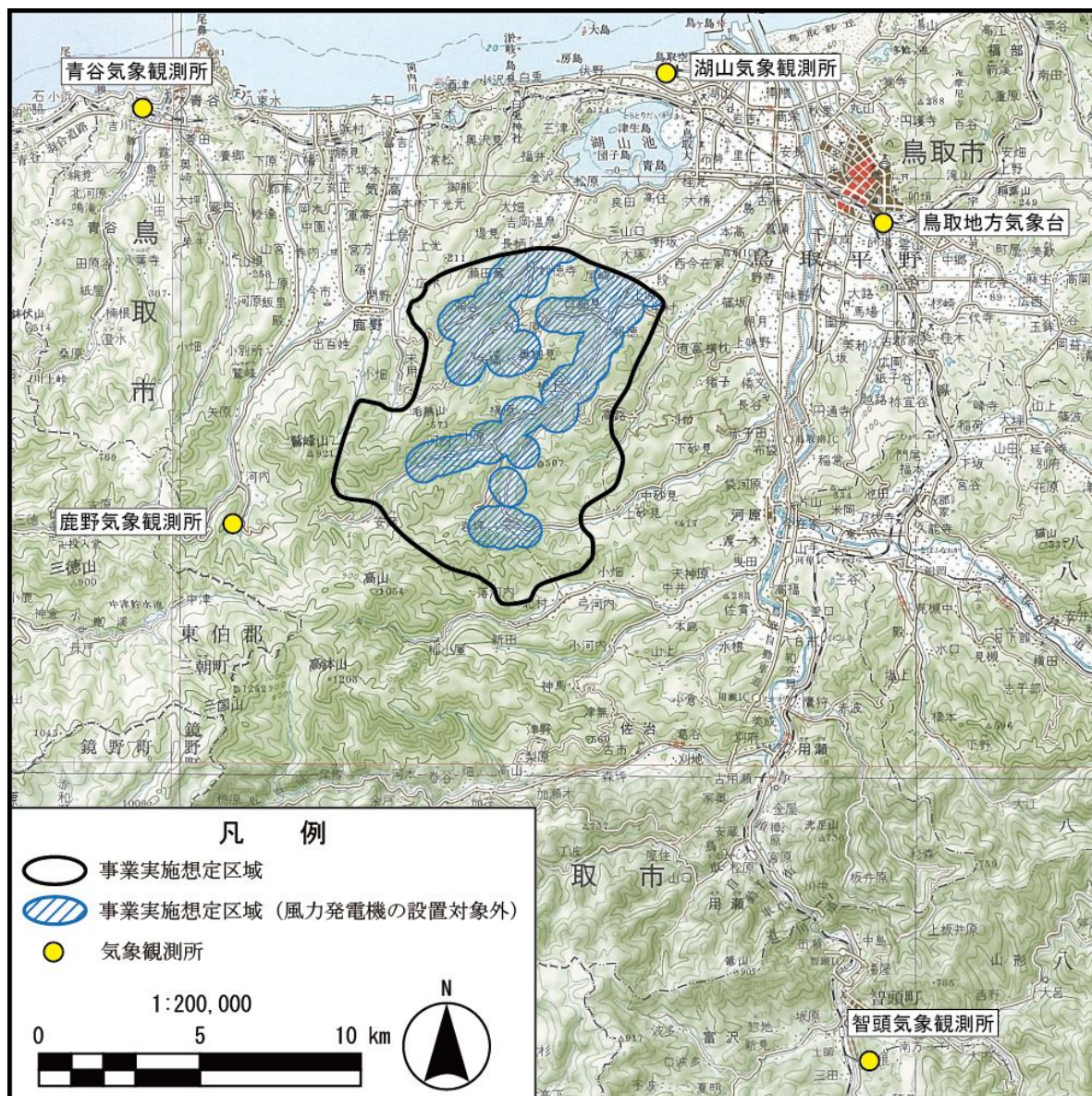
事業実施想定区域の近傍の気象観測所は第3.1-1表及び第3.1-1図のとおりである。

第3.1-1表 事業実施想定区域及びその周囲における気象観測所

観測所名	所在地	緯度経度	海面上の 高さ	風向・風速 計の高さ	観測種目				
					気温	風	降水量	日照	積雪
鳥取地方気象台	鳥取市吉方	緯度 35°29.2′ 経度 134°14.2′	7m	33.2m	○	○	○	○	○
青谷気象観測所	鳥取市 青谷町青谷	緯度 35°31.2′ 経度 133°59.7′	13m	10m	○	○	○	○	—
湖山気象観測所	鳥取市 湖山町西	緯度 35°31.8′ 経度 134°09.9′	15m	10.2m	○	○	○	—	—
鹿野気象観測所	鳥取市 鹿野町鹿野	緯度 35°31.8′ 経度 134°09.9′	7m	—	—	—	○	—	—
智頭気象観測所	八頭郡智頭町 智頭沖代	緯度 35°15.8′ 経度 134°14.4′	182m	6.5m	○	○	○	○	○

注：「○」は観測が行われていること、「—」は観測が行われていないことを示す。

「地域気象観測所一覧（平成29年7月11日現在）」（気象庁、平成29年）
「鳥取県内の気象観測所」（鳥取地方気象台HP、閲覧：平成29年7月）より作成



「鳥取県気象観測所配置図（平成 28 年 4 月 1 日現在）」
（鳥取地方気象台 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）より作成

第 3.1-1 図 気象台位置

鳥取地方気象台における平年値及び平成 28 年の気象概況は第 3.1-2 表、平成 28 年の風向頻度及び風向別平均風速は第 3.1-3 表、風配図は第 3.1-2 図のとおりである。平成 28 年の年平均気温は 17.9℃、年間降水量は 2,752.5mm、年平均風速は 1.7m/s、日照時間は 1,772.8h である。また、平成 28 年の風向出現頻度は、年間及び季節別ともに東南東が最も高く、年間の頻度は 25.7%である。

第 3.1-2 表(1) 鳥取地方気象台の気象概況（平年値）

要素名	年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
平均気温 (℃)	14.9	4.0	4.4	7.5	13.0	17.7	21.7	25.7	27.0	22.6	16.7	11.6	6.8
日最高気温 (℃)	19.7	7.7	8.5	12.4	18.7	23.3	26.6	30.4	32.2	27.4	22.0	16.4	11.0
日最低気温 (℃)	10.7	0.8	0.7	2.8	7.5	12.5	17.6	22.1	22.9	18.7	12.3	7.3	3.1
平均風速 (m/s)	3.1	3.3	3.3	3.3	3.4	3.2	2.8	2.7	2.8	2.6	2.8	3.0	3.2
最多風向	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東	東南東
日照時間 (時間)	1,663.2	70.2	79.5	124.3	177.3	197.4	158.2	163.0	206.8	139.9	148.5	108.8	89.5
降水量 (mm)	1,914.0	202.0	159.8	141.9	108.6	130.6	152.1	200.9	116.6	204.0	144.1	159.4	194.0
降雪の 深さ (cm)	合計	214	88	72	17	0	---	---	---	---	---	0	37
	日合計 の最大	32	22	19	8	0	---	---	---	---	---	0	15
最深積雪 (cm)	46	34	31	12	0	---	---	---	---	---	---	0	18

注：1. 「---」は該当現象、または該当現象による量等がないことを示す。
2. 平年値は 1981～2010 年の 30 年間の観測値をもとに算出した。ただし、最多風向については 1990～2010 年の 21 年間の値をもとに算出した。
〔「気象統計情報 平年値」（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）より作成〕

第 3.1-2 表(2) 鳥取地方気象台の気象概況（平成 28 年）

月	降水量(mm)				気温(℃)					風向・風速(m/s)					日照 時間 (h)	雪(cm)		
	合計	日最大	最大		平均			最高	最低	平均 風速	最大風速		最大瞬間 風速			降雪 の 合計	日降 雪の 最大	最深 積雪
			1 時間	10 分間	日平均	日最高	日最低				風速	風向	風速	風向				
1	183.5	44.0	5.5	2.5	4.7	8.7	1.5	16.5	-5.4	3.0	12.1	西	20.5	西北西	73.2	19	8	8
2	167.5	42.0	8.0	1.5	5.3	9.9	1.3	19.5	-3.1	3.1	10.2	西	18.2	北北西	99.2	29	17	16
3	70.0	24.0	6.5	1.5	9.1	14.4	4.5	21.8	-0.6	3.1	10.5	南	17.9	南南東	148.2	--	--	3
4	112.5	36.0	8.0	2.0	14.8	20.4	9.5	28.4	1.1	3.4	18.2	南南東	31.2	南南東	160.4	--	--	--
5	94.0	51.5	17.5	4.5	19.2	25.0	13.6	29.8	8.3	3.4	16.3	南	28.9	南南東	227.6	--	--	--
6	160.0	28.5	28.5	21.0	22.8	27.6	18.8	31.8	10.4	2.8	10.6	南	18.9	南	159.5	--	--	--
7	73.0	17.5	10.5	6.0	26.8	31.7	23.2	36.2	19.8	2.8	8.4	南	14.5	南	182.3	--	--	--
8	149.0	58.0	52.0	28.0	27.2	33.0	23.0	38.1	19.2	2.6	10.1	南	21.9	南南西	255.9	--	--	--
9	326.0	63.5	26.5	9.5	23.4	27.5	20.5	33.3	15.3	2.2	11.0	北	18.5	北北東	88.4	--	--	--
10	94.5	30.0	17.5	4.0	18.3	23.4	14.1	30.2	6.7	2.7	14.6	南	26.6	南西	116.4	--	--	--
11	120.0	22.0	6.0	3.0	11.9	16.5	8.0	21.5	3.2	2.8	9.4	北東	15.4	北東	105.9	--	--	--
12	245.0	35.0	11.5	3.0	8.4	12.9	4.6	22.0	0.6	3.4	15.7	南南東	25.4	南	96.4	--	--	0
年	2,752.5	164.5	68.0	17.0	17.9	23.0	13.8	37.2	-6.6	1.7	9.4	西北西	19.0	西	1,772.8	50	17	16

注：「--」は該当現象、または該当現象による量等がないことを示す。
〔「気象統計情報」（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）より作成〕

第 3.1-3 表 鳥取地方気象台の風向頻度及び風向別平均風速（平成 28 年）

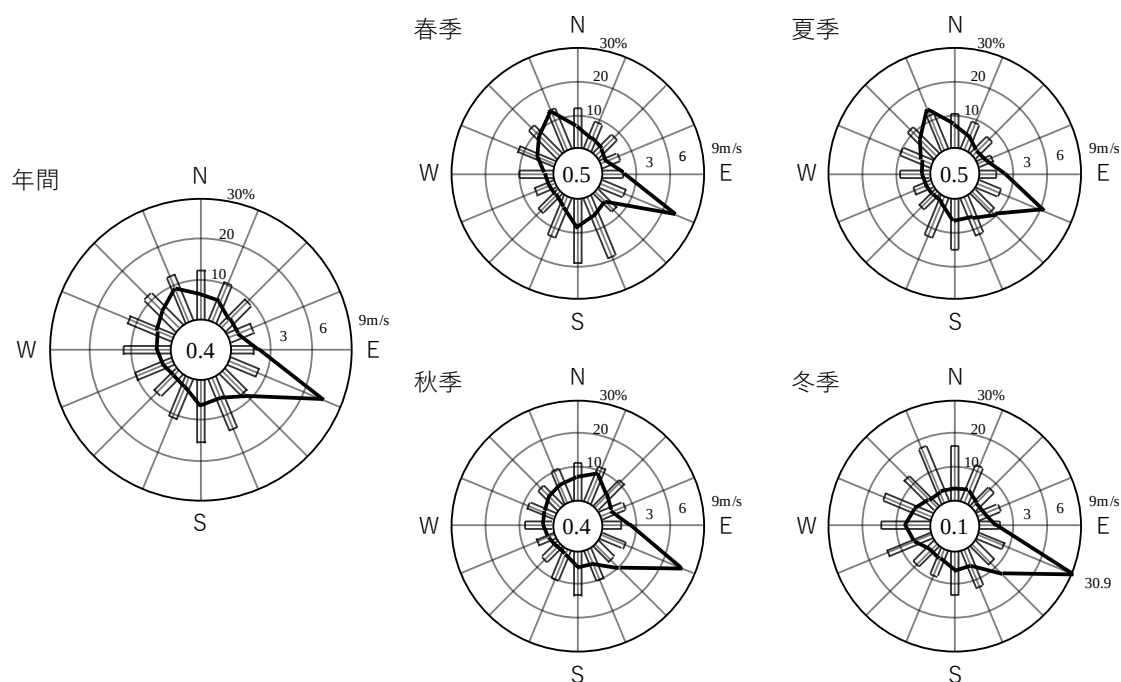
季節 風向	春季（3～5月）		夏季（6～8月）		秋季（9～11月）		冬季（1,2,12月）		年 間	
	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）
北北東	3.8	2.6	4.4	2.6	9.0	3.4	3.6	3.5	5.2	3.1
北東	2.8	2.3	2.0	2.1	5.1	3.3	1.8	2.3	2.9	2.7
東北東	1.8	1.7	2.8	1.4	3.5	2.2	2.2	2.0	2.6	1.9
東	6.5	1.8	7.6	1.5	8.4	1.7	5.0	1.8	6.9	1.7
東南東	24.3	2.3	21.6	2.1	26.3	2.2	30.9	2.5	25.7	2.3
南東	4.5	2.3	10.1	2.4	10.4	2.0	12.8	2.4	9.4	2.3
南南東	6.3	5.8	7.0	3.6	4.8	3.0	5.4	3.6	5.9	4.1
南	8.9	5.8	7.1	4.5	5.0	4.0	6.0	3.9	6.8	4.7
南南西	3.4	3.8	2.1	3.8	2.0	2.9	3.4	2.5	2.7	3.2
南西	1.5	2.4	1.6	2.0	1.3	2.0	2.6	2.6	1.8	2.3
西南西	1.5	1.9	1.7	1.7	1.8	1.7	5.2	4.2	2.6	3.0
西	2.0	3.0	2.3	2.6	2.5	2.4	6.9	4.4	3.4	3.5
西北西	5.0	3.5	2.9	2.9	2.9	2.5	5.0	4.6	4.0	3.6
北西	8.1	3.6	6.5	3.3	4.3	2.5	3.0	3.8	5.5	3.3
北北西	12.5	3.9	12.9	3.4	5.4	3.1	3.1	5.3	8.5	3.7
北	6.6	3.6	7.1	3.1	6.7	3.4	3.1	4.9	5.9	3.6
静穏	0.5	0.1	0.5	0.2	0.4	0.1	0.1	0.2	0.4	0.1
合計・平均	100	3.3	100	2.7	100	2.6	100	3.1	100	2.9
欠測	0		0		0		0		0	

注：1. 静穏は風速0.2m/s以下とする。

2. 四捨五入の関係での各風向の出現頻度の合計が100%にならないことがある。

3. 頻度の「0」は出現しなかったことを示す。

〔「過去の気象データ」（気象庁HP、閲覧：平成29年7月）より作成〕



注：1. 風配図の実線は風向出現頻度(%)、棒線は平均風速(m/s)を示す。

2. 風配図の円内の数字は、静穏率（風速 0.2m/s以下、%）を示す。

〔「過去の気象データ」（気象庁HP、閲覧：平成29年7月）より作成〕

第 3.1-2 図 鳥取地方気象台の風配図（平成 28 年）

青谷気象観測所における平年値及び平成 28 年の気象概況は第 3.1-4 表、平成 28 年の風向頻度及び風向別平均風速は第 3.1-5 表、風配図は第 3.1-3 図のとおりである。平成 28 年の年平均気温は 15.2℃、年間降水量は 1,923.0mm、年平均風速は 2.5m/s、日照時間は 1,636.0h である。また、平成 28 年の風向出現頻度は、年間及び季節別ともに南が最も高く、年間の頻度は 24.7%である。

第 3.1-4 表(1) 青谷気象観測所の気象概況（平年値）

要素名	年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
平均気温 (℃)	14.4	4.3	4.5	7.2	12.1	16.5	20.6	24.7	25.9	2.0	16.5	11.6	7.1
日最高気温 (℃)	18.9	8.0	8.4	11.7	17.2	21.5	24.8	28.8	30.5	26.4	21.4	16.3	11.3
日最低気温 (℃)	10.2	0.9	0.7	2.4	6.6	11.4	16.8	21.3	22.1	18.2	12.0	7.1	3.0
平均風速 (m/s)	1.7	2.3	2.3	2.0	1.8	1.6	1.4	1.3	1.4	1.4	1.5	1.8	2.2
日照時間 (時間)	1,631.8	65.7	78.3	127.8	178.3	195.9	153.5	164.6	204.4	139.4	142.5	101.0	80.4
降水量 (mm)	1,945.2	197.0	142.7	136.0	104.9	130.1	161.7	202.3	125.6	216.7	157.2	178.2	192.9
降雪の深さ 合計 (cm)	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
最深積雪 (cm)	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///

注：1. 「///」は欠測または観測を行っていない場合、欠測または観測を行っていないために合計値や平均値等が求められないことを示す。

2. 平年値は 1981～2010 年の 30 年間の観測値をもとに算出した。ただし、日照時間については 1987～2010 年の 24 年間の値をもとに算出した。

〔「気象統計情報 平年値」（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）より作成〕

第 3.1-4 表(2) 青谷気象観測所の気象概況（平成 28 年）

月	降水量(mm)				気温(℃)					風向・風速(m/s)				日照 時間 (h)	雪(cm)			
	合計	日最大	最大		平均			最高	最低	平均 風速	最大風速		最大瞬間 風速		降雪 の 合計	日降 雪の 最大	最深 積雪	
			1 時間	10 分間	日平均	日最高	日最低				風速	風向	風速					風向
1	221.5	42.5	8.0	2.5	4.7	8.4	1.5	15.4	-5.4	3.0	16.8	北西	24.2	北西	66.3	///	///	///
2	169.0	39.0	9.5	2.5	5.1	9.6	1.0	20.5	-2.8	3.0	13.2	北西	20.6	北西	94.2	///	///	///
3	74.5	22.0	4.5	1.5	8.3	12.7	3.7	21.7	-1.5	2.6	10.1	北北西	17.6	北西	142.9	///	///	///
4	130.5	35.0	7.5	2.5	13.4	18.5	8.2	27.4	1.3	2.6	12.1	南	24.9	南南西	164.4	///	///	///
5	86.0	38.0	9.0	2.5	17.8	22.7	12.6	30.6	7.4	2.2	14.5	南	26.6	南	221.4	///	///	///
6	164.5	38.0	10.5	6.0	21.4	25.6	17.8	30.6	9.6	1.9	8.3	南南西	18.7	南西	155.9	///	///	///
7	90.5	33.0	18.0	8.5	25.4	29.6	22.2	35.1	19.1	1.9	8.6	北西	15.9	北北西	172.2	///	///	///
8	134.0	62.5	21.5	11.0	26.2	30.5	22.4	33.7	18.9	2.2	11.2	北	16.8	北	251.5	///	///	///
9	408.0	89.0	36.5	12.5	22.5	25.9	19.7	31.9	14.5	2.1	10.8	北北東	17.8	北北東	82.6	///	///	///
10	84.0	24.5	13.0	5.5	17.9	22.0	14.0	31.2	6.3	2.5	11.3	西南西	24.9	西南西	106.1	///	///	///
11	130.5	24.0	8.5	4.5	11.8	15.9	7.8	22.0	3.5	2.7	11.3	北西	19.5	北東	90.5	///	///	///
12	230.0	41.5	14.0	3.0	8.3	12.5	4.5	22.3	0.6	3.1	14.4	北西	21.2	西北西	88.0	///	///	///
年	1,923.0	89.0	36.5	12.5	15.2	19.5	11.3	35.1	-5.4	2.5	16.8	北西	26.6	南	1,636.0	///	///	///

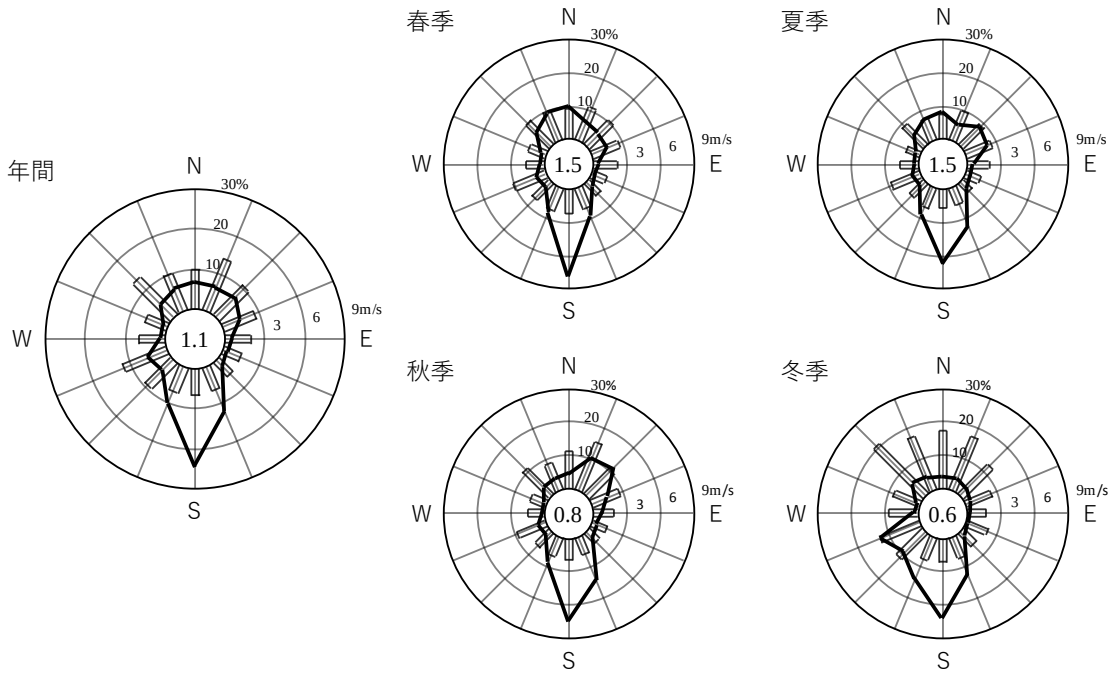
注：「///」は欠測または観測を行っていない場合、欠測または観測を行っていないために合計値や平均値等が求められないことを示す。

〔「気象統計情報」（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）より作成〕

第 3.1-5 表 青谷気象観測所の風向頻度及び風向別平均風速（平成 28 年）

季節 風向	春季（3～5月）		夏季（6～8月）		秋季（9～11月）		冬季（1,2,12月）		年 間	
	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）
北北東	6.0	3.2	5.2	2.9	10.6	4.7	3.9	5.2	6.4	4.1
北東	5.3	3.0	8.2	2.7	11.6	3.2	2.8	3.7	7.0	3.1
東北東	5.3	2.6	7.0	2.5	5.1	2.7	1.6	2.5	4.8	2.6
東	1.7	2.1	1.9	1.9	2.7	1.8	0.8	1.7	1.8	1.9
東南東	1.0	1.3	1.9	1.3	1.6	1.4	0.9	2.0	1.4	1.4
南東	2.5	1.5	3.2	1.1	2.5	1.3	2.2	1.7	2.6	1.4
南南東	9.6	2.0	13.0	1.6	14.4	1.7	12.6	2.0	12.4	1.8
南	26.3	2.2	22.9	1.7	25.2	1.9	24.4	2.1	24.7	2.0
南南西	8.3	2.2	9.4	1.9	8.7	1.8	13.9	2.2	10.1	2.0
南西	2.3	2.1	1.9	1.7	2.1	1.8	8.9	3.3	3.8	2.7
西南西	3.0	3.0	2.2	2.8	2.5	2.7	12.6	3.9	5.0	3.5
西	1.2	1.7	0.8	1.7	0.5	1.4	1.2	2.6	0.9	2.0
西北西	1.4	1.6	1.1	1.3	0.6	1.4	0.8	2.5	1.0	1.7
北西	6.0	3.0	4.6	2.7	3.1	3.3	5.0	6.3	4.7	3.9
北北西	9.0	2.9	7.0	2.1	3.4	2.6	4.1	5.2	5.9	3.0
北	9.6	2.7	8.3	2.2	4.3	3.3	3.6	5.3	6.5	3.0
静穏	1.5	0.1	1.5	0.1	0.8	0.1	0.6	0.0	1.1	0.1
合計・平均	100	2.4	100	2.0	100	2.4	100	3.0	100	2.5
欠測	0		0.1		0		0.2		0.1	

注：1. 静穏は風速0.2m/s以下とする。
2. 四捨五入の関係での各風向の出現頻度の合計が100%にならないことがある。
3. 頻度の「0」は出現しなかったことを示す。
〔「過去の気象データ」（気象庁HP、閲覧：平成29年7月）より作成〕



注：1. 風配図の実線は風向出現頻度（%）、棒線は平均風速（m/s）を示す。
2. 風配図の円内の数字は、静穏率（風速 0.2m/s以下、%）を示す。
〔「過去の気象データ」（気象庁HP、閲覧：平成29年7月）より作成〕

第 3.1-3 図 青谷気象観測所の風配図（平成 28 年）

湖山気象観測所における平年値及び平成 28 年の気象概況は第 3.1-6 表、平成 28 年の風向頻度及び風向別平均風速は第 3.1-7 表、風配図は第 3.1-4 図のとおりである。平成 28 年の年平均気温は 15.6℃、年間降水量は 1,616.5mm、年平均風速は 4.7m/s である。また、平成 28 年の風向出現頻度は、年間及び季節別ともに南東が最も高く、年間の頻度は 20.1%である。

第 3.1-6 表(1) 湖山気象観測所の気象概況（平年値）

要素名	年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
平均気温 (℃)	15.1	4.5	5.4	7.7	12.6	17.1	21.4	24.9	26.8	23.3	17.6	12.4	7.3
日最高気温 (℃)	///	8.2	9.2	11.9	17.1	21.4	25.0	28.2	30.7	27.1	///	16.6	11.1
日最低気温 (℃)	///	1.2	1.7	3.4	8.1	13.0	18.2	22.2	23.7	19.8	///	8.6	4.0
平均風速 (m/s)	4.9	5.8	5.9	5.6	5.1	4.6	3.6	3.8	4.0	4.5	4.8	5.0	5.8
日照時間 (時間)	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
降水量 (mm)	1,577.8	139.5	100.4	113.6	80.1	106.8	131.1	192.9	108.3	144.6	136.6	137.2	186.8
降雪の深さ 合計 (cm)	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
最深積雪 (cm)	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///

注：1. 「///」は欠測または観測を行っていない場合、欠測または観測を行っていないために合計値や平均値等が求められないことを示す。

2. 平年値は 2003～2010 年の 8 年間の観測値をもとに算出した。

〔「気象統計情報 平年値」（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）より作成〕

第 3.1-6 表(2) 湖山気象観測所の気象概況（平成 28 年）

月	降水量(mm)				気温(℃)					風向・風速(m/s)				日照 時間 (h)	雪(cm)			
	合計	日最大	最大		平均			最高	最低	平均 風速	最大風速		最大瞬間 風速		降雪 の 合計	日降 雪の 最大	最深 積雪	
			1 時間	10 分間	日平均	日最高	日最低				風速	風向	風速					風向
1	181.5	37.5	8.5	4.0	4.9	8.7	1.8	15.6	-5.8	5.2	20.8	西北西	25.2	西北西	///	///	///	///
2	123.0	37.0	8.5	2.5	5.5	9.9	1.8	19.3	-2.5	5.7	18.6	西北西	26.2	西北西	///	///	///	///
3	45.5	16.5	5.5	2.0	8.7	13.0	4.7	21.6	-0.1	4.9	14.9	北西	21.6	北北西	///	///	///	///
4	112.5	36.5	9.5	3.0	14.0	18.7	9.7	28.0	2.1	4.9	20.6	南南東	30.3	南	///	///	///	///
5	70.5	42.0	11.5	4.0	18.3	22.7	13.8	29.4	9.0	4.4	20.5	南南東	29.3	南南東	///	///	///	///
6	135.0	32.0	9.0	4.0	22.0	25.5	18.9	30.9	11.3	3.9	13.3	北東	18.5	南	///	///	///	///
7	69.5	31.0	15.5	6.0	25.7	29.2	23.1	34.6	19.6	3.6	12.5	西北西	15.9	西北西	///	///	///	///
8	126.5	43.5	26.0	9.0	26.4	30.5	23.1	35.3	19.2	3.8	15.4	北	19.0	北	///	///	///	///
9	330.0	80.5	25.5	11.0	22.9	26.0	20.4	32.2	15.3	3.9	17.8	北北東	22.1	北北東	///	///	///	///
10	67.0)	20.5)	13.0)	3.5)	18.4	22.3	14.7	30.4	7.9	5.1	17.8)	北	25.7	南西	///	///	///	///
11	132.5	21.5	9.0	5.0	12.1	16.2	8.4	21.6	4.1	5.2	14.9	北北東	19.0	北北西	///	///	///	///
12	223.0	41.5	11.5	4.0	8.6	12.6	5.2	21.0	1.1	5.8	19.7	北	23.7	北北東	///	///	///	///
年	1,616.5	80.5	26.0	11.0	15.6	19.6	12.1	35.3	-5.8	4.7	20.8	西北西	30.3	南	///	///	///	///

注：1. 「///」は欠測または観測を行っていない場合、欠測または観測を行っていないために合計値や平均値等が求められないことを示す。

2. 「）」は統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値資料が欠けていない」と同等に扱う（準正常値）。必要な資料数は、要素または現象、統計方法により若干異なるが、全体数の 80%を基準とする。

〔「気象統計情報」（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）より作成〕

第 3.1-7 表 湖山気象観測所の風向頻度及び風向別平均風速（平成 28 年）

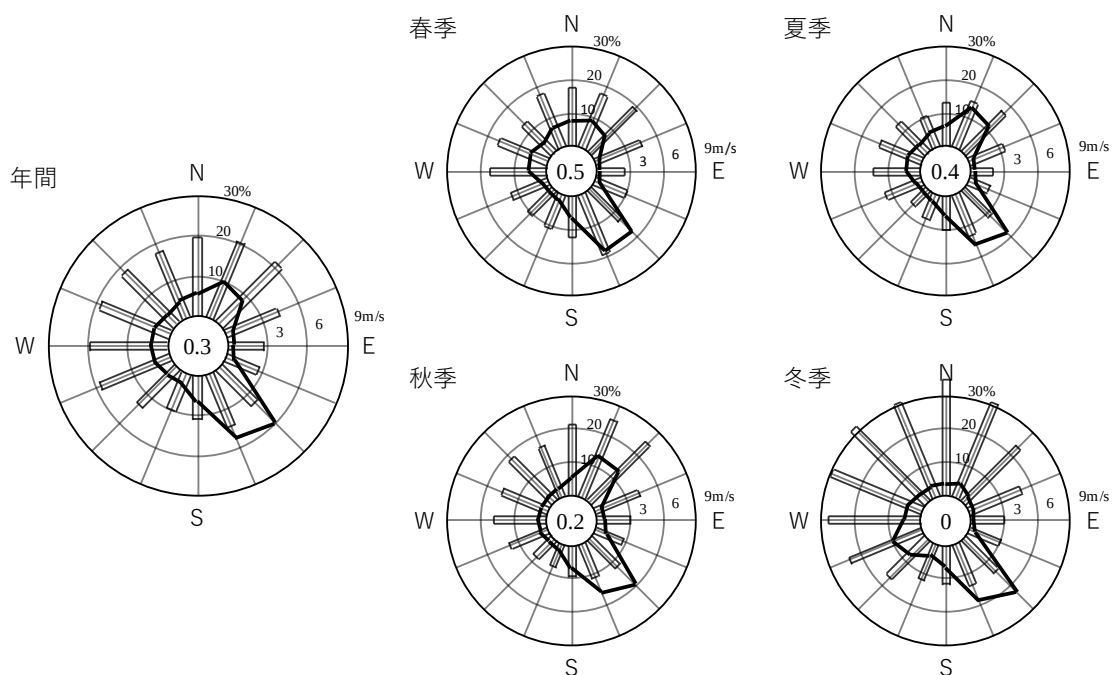
季節 風向	春季（3～5月）		夏季（6～8月）		秋季（9～11月）		冬季（1,2,12月）		年 間	
	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）
北北東	9.0	5.2	13.0	4.4	13.4	7.6	4.3	9.2	9.9	6.2
北東	7.2	5.8	11.2	5.2	13.0	7.4	2.5	7.0	8.5	6.3
東北東	2.0	4.5	1.8	3.4	2.7	4.3	1.8	5.1	2.1	4.3
東	1.3	2.5	1.5	2.0	2.9	3.1	1.1	3.0	1.7	2.7
東南東	1.9	3.0	2.4	2.0	4.0	2.7	2.3	3.0	2.7	2.7
南東	18.4	4.0	19.2	3.3	19.8	3.6	23.2	4.1	20.1	3.8
南南東	18.8	5.8	16.7	3.9	16.1	3.3	18.7	4.0	17.6	4.3
南	6.9	3.7	6.0	3.1	7.1	2.8	6.8	3.5	6.7	3.3
南南西	2.1	3.2	2.4	2.4	2.0	2.2	4.1	3.5	2.6	2.9
南西	1.5	3.1	1.5	1.9	1.5	2.4	7.1	4.9	2.9	4.0
西南西	1.9	3.6	1.9	3.5	2.4	3.7	9.2	7.1	3.9	5.7
西	5.2	5.2	3.9	4.3	2.6	4.7	4.7	8.4	4.1	5.8
西北西	5.5	4.8	4.3	4.2	2.3	4.5	4.5	8.8	4.1	5.7
北西	3.8	3.8	3.4	3.7	2.2	5.5	3.3	9.5	3.2	5.5
北北西	6.4	5.2	4.7	3.0	2.7	4.9	3.3	9.1	4.3	5.3
北	7.6	5.3	5.8	4.0	5.2	6.4	3.2	10.4	5.4	5.9
静穏	0.5	0.1	0.4	0.1	0.2	0.1	0	—	0.3	0.1
合計・平均	100	4.7	100	3.8	100	4.7	100	5.6	100	4.7
欠測	0		0		0.3		0		0.1	

注：1. 静穏は風速0.2m/s以下とする。

2. 四捨五入の関係での各風向の出現頻度の合計が100%にならないことがある。

3. 頻度の「0」は出現しなかったことを示す。

〔「過去の気象データ」（気象庁HP、閲覧：平成29年7月）より作成〕



注：1. 風配図の実線は風向出現頻度(%)、棒線は平均風速(m/s)を示す。

2. 風配図の円内の数字は、静穏率（風速 0.2m/s以下、%）を示す。

〔「過去の気象データ」（気象庁HP、閲覧：平成29年7月）より作成〕

第 3.1-4 図 湖山気象観測所の風配図（平成 28 年）

鹿野気象観測所における平年値及び平成 28 年の気象概況は第 3.1-8 表のとおりである。
平成 28 年の年間降水量は 3,161.5mm である。

第 3.1-8 表(1) 鹿野気象観測所の気象概況（平年値）

要素名	年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
平均気温 (℃)	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
日最高気温 (℃)	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
日最低気温 (℃)	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
平均風速 (m/s)	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
日照時間 (時間)	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
降水量 (mm)	2,874.9	287.7	263.5	235.6	150.8	154.2	205.5	252.8	192.6	357.0	258.0	265.6	254.5
降雪の深さ 合計 (cm)	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
最深積雪 (cm)	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///

注：1. 「///」は欠測または観測を行っていない場合、欠測または観測を行っていないために合計値や平均値等が求められないことを示す。

2. 平年値は 1982～2010 年の 29 年間の観測値をもとに算出した。

〔「気象統計情報 平年値」(気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 7 月) より作成〕

第 3.1-8 表(2) 鹿野気象観測所の気象概況（平成 28 年）

月	降水量(mm)				気温(℃)						風向・風速(m/s)				日照 時間 (h)	雪(cm)		
	合計	日最大	最大		平均			最高	最低	平均 風速	最大風速		最大瞬間 風速			降雪 の 合計	日降 雪の 最大	最深 積雪
			1 時間	10 分間	日平均	日最高	日最低				風速	風向	風速	風向				
1	250.0	44.0	5.5	2.0	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
2	277.5	41.5	9.5	2.5	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
3	96.5	33.5	5.0	1.5	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
4	178.5	49.0	9.0	2.5	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
5	105.0	43.5	10.0	3.0	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
6	226.5	37.0	16.0	8.5	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
7	155.0	23.5	15.5	6.5	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
8	325.5	77.0	36.0	10.0	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
9	668.0	171.5	33.0	9.0	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
10	130.5	29.0	18.0	4.5	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
11	298.0	56.0	10.5	3.5	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
12	450.5	93.5	12.5	4.0	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
年	3,161.5	171.5	36.0	10.0	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///

注：「///」は欠測または観測を行っていない場合、欠測または観測を行っていないために合計値や平均値等が求められないことを示す。

〔「気象統計情報」(気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 7 月) より作成〕

智頭気象観測所における平年値及び平成 28 年の気象概況は第 3.1-9 表、平成 28 年の風向頻度及び風向別平均風速は第 3.1-10 表、風配図は第 3.1-5 図のとおりである。平成 28 年の年平均気温は 13.9℃、年間降水量は 1,943.0mm、年平均風速は 1.2m/s である。また、平成 28 年の風向出現頻度は、年間及び季節別ともに東南東が最も高く、年間の頻度は 14.5%である。

第 3.1-9 表(1) 智頭気象観測所の気象概況（平年値）

要素名	年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
平均気温 (℃)	12.9	1.6	2.0	5.5	11.3	16.3	20.3	24.2	25.1	20.8	14.7	9.1	4.1
日最高気温 (℃)	18.6	6.1	6.8	11.1	18.0	22.8	26.0	29.5	31.0	26.2	20.6	15.0	9.3
日最低気温 (℃)	8.4	-1.9	-1.9	0.6	5.1	10.4	15.6	10.2	20.8	16.7	9.9	4.4	0.1
平均風速 (m/s)	1.2	1.0	1.1	1.4	1.5	1.4	1.3	1.3	1.3	1.3	1.1	1.0	0.9
日照時間 (時間)	1,462.8	69.4	81.3	117.1	160.9	170.7	131.0	131.8	166.4	120.2	131.5	101.1	82.6
降水量 (mm)	1,924.1	149.4	152.9	164.6	134.0	152.4	180.8	229.9	154.9	214.1	140.5	123.1	127.6
降雪の深さ 合計 (cm)	///	118	132	29	0	0	0	0	0	0	0	0	43
最深積雪 (cm)	///	33	40	13	0	0	0	0	0	0	0	0	18

- 注：1. 「///」は欠測または観測を行っていない場合、欠測または観測を行っていないために合計値や平均値等が求められないことを示す。
2. 平年値は 1981～2010 年の 30 年間の観測値をもとに算出した。ただし、日照時間は 1987 年～2010 年の 24 年間、降雪の深さの合計及び最深積雪は 1982 年～2010 年の 29 年間の観測値をもとに算出した。
 [「気象統計情報 平年値」(気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 7 月)より作成]

第 3.1-9 表(2) 智頭気象観測所の気象概況（平成 28 年）

月	降水量(mm)				気温(℃)					風向・風速(m/s)				日照 時間 (h)	雪(cm)			
	合計	日最大	最大		平均			最高	最低	平均 風速	最大風速		最大瞬間 風速		降雪 の 合計	日降 雪の 最大	最深 積雪	
			1 時間	10 分間	日平均	日最高	日最低				風速	風向	風速					風向
1	97.5	42.0	5.5	1.5	2.0	7.2	-1.7	15.4	-8.4	0.9)	4.9]	西北西	12.5)	北西	63.9	34	14	16
2	100.5	22.5	5.5	2.0	3.2	8.5	-1.0	17.1	-5.9	1.2)	6.2)	北北西	12.2)	北北西	96.6	39	19	20
3	57.0	25.5	5.0	1.5	6.9	13.2	1.4	20.8	-3.4	1.6	6.4	北西	13.1	東南東	132.4	0	0	14
4	151.5	40.5	7.0	3.0	13.1	19.6	6.9	25.6	-1.5	1.5	8.7	東南東	19.2	東南東	146.5	0	0	0
5	107.5	57.5	19.5	8.0	17.5	24.5	11.0	30.2	4.7	1.5	9.5	東南東	23.9	東南東	202.0	0	0	0
6	248.0	39.0	30.5	12.0	20.8	26.2	16.7	31.1	8.2	1.2	5.1	西北西	10.7	西北西	113.6	0	0	0
7	145.5	43.5	39.5	13.5	24.8	30.5	21.1	34.9	18.2	1.2	5.3	西北西	12.4	北北西	150.3	0	0	0
8	159.5	45.0	13.5	9.5	25.1	31.4	20.4	37.0	16.0	1.3	4.9	東南東	12.0	東南東	221.6	0	0	0
9	376.0	67.5	24.0	7.0	21.8	26.2	18.8	32.6	14.3	1.1	6.8	西北西	18.1	北西	74.2	0	0	0
10	102.5	32.0	22.0	6.5	16.5	21.8	12.1	30.5	4.7	1.2	8.8	東南東	21.8	東南東	90.4	0	0	0
11	113.5	23.0	6.5	2.0	9.6	14.7	5.7	20.0	0.5	1.0	5.6	西北西	11.2	北西	82.9	0	0	0
12	284.0	66.0	9.5	3.0	5.4	10.2	1.7	19.4	-2.4	1.1)	6.7)	南東	17.0)	東南東	81.0)	21	9	6
年	1,943.0	67.5	39.5	13.5	13.9	19.5	9.4	37.0	-8.4	1.2	9.5]	東南東	23.9	東南東	1,455.4	74	19	20

- 注：1. 「) 」は統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値資料が欠けていない）と同等に扱う（準正常値）。必要な資料数は、要素または現象、統計方法により若干異なるが、全体数の 80%を基準とする。
2. 「] 」は統計を行う対象資料が許容範囲を超えて欠けていることを示す（資料不足値）。値そのものを信用することはできず、通常は上位の統計に用いないが、極値、合計、度数等の統計ではその値以上（以下）であることが確実である、といった性質を利用して統計に利用できる。

〔「気象統計情報」（気象庁 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）より作成〕

第 3.1-10 表 智頭気象観測所の風向頻度及び風向別平均風速（平成 28 年）

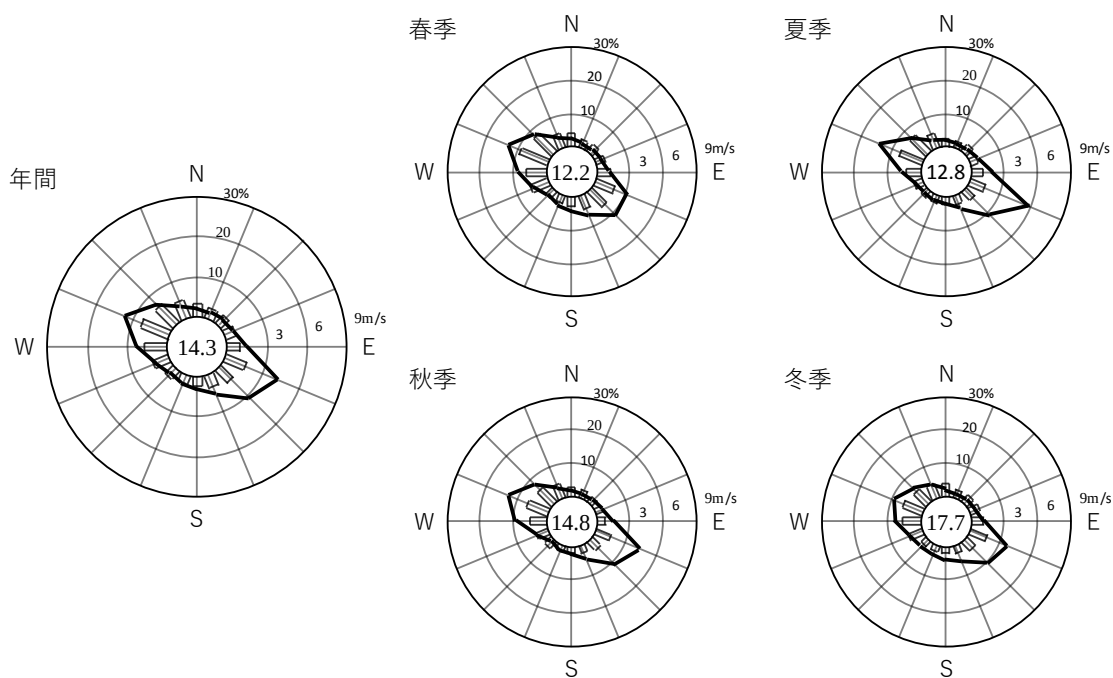
季節 風向	春季（3～5月）		夏季（6～8月）		秋季（9～11月）		冬季（1,2,12月）		年 間	
	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）	風向頻度 （%）	平均風速 （m/s）
北北東	1.5	0.8	1.5	0.7	1.3	0.8	1.4	0.8	1.4	0.8
北東	1.6	0.8	1.8	0.8	1.6	0.7	1.8	0.9	1.7	0.8
東北東	2.1	0.9	3.0	0.8	2.5	0.7	2.2	0.9	2.4	0.8
東	3.9	1.2	6.5	1.0	5.1	0.8	4.2	1.1	4.9	1.0
東南東	10.7	1.9	19.8	1.5	14.8	1.4	12.6	1.7	14.5	1.6
南東	11.5	1.9	11.1	1.1	10.9	1.0	10.6	1.2	11.0	1.3
南南東	6.9	1.3	4.6	0.8	5.1	0.7	5.9	0.8	5.6	1.0
南	4.4	0.9	2.4	0.7	2.6	0.6	4.3	0.6	3.4	0.7
南南西	3.5	0.7	1.9	0.7	2.2	0.5	3.1	0.6	2.7	0.6
南西	2.6	0.9	1.4	0.7	1.1	0.8	3.1	0.7	2.1	0.8
西南西	4.8	1.6	2.2	0.8	3.7	1.1	4.1	1.3	3.7	1.3
西	8.3	1.9	5.9	1.4	9.1	1.6	7.7	1.7	7.8	1.7
西北西	12.6	2.7	14.1	2.3	12.6	2.0	9.4	1.9	12.2	2.3
北西	7.9	2.3	6.7	2.0	7.8	1.8	6.1	1.5	7.1	1.9
北北西	3.2	1.4	2.5	1.4	3.2	1.4	4.0	1.3	3.2	1.4
北	2.2	1.2	1.8	0.8	1.7	0.8	1.9	1.1	1.9	1.0
静穏	12.2	0.1	12.8	0.1	14.8	0.1	17.7	0.1	14.3	0.1
合計・平均	100	1.5	100	1.2	100	1.1	100	1.1	100	1.2
欠測	0.0		0		0		4.1		1.0	

注：1. 静穏は風速0.2m/s以下とする。

2. 四捨五入の関係での各風向の出現頻度の合計が100%にならないことがある。

3. 頻度の「0」は出現しなかったことを示す。

〔「過去の気象データ」（気象庁HP、閲覧：平成29年7月）より作成〕



注：1. 風配図の実線は風向出現頻度（%）、棒線は平均風速（m/s）を示す。

2. 風配図の円内の数字は、静穏率（風速 0.2m/s以下、%）を示す。

〔「過去の気象データ」（気象庁HP、閲覧：平成29年7月）より作成〕

第 3.1-5 図 智頭気象観測所の風配図（平成 28 年）

2. 大気質の状況

鳥取県において、平成 27 年度は一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）4 局及び自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という。）2 局の計 6 局で大気汚染防止法に基づく常時監視測定を実施している。

事業実施想定区域の近傍には、一般局が 1 局、自排局が 1 局設置されており、各測定局の概要及び測定項目は第 3.1-11 表、位置は第 3.1-6 図のとおりである。

第 3.1-11 表 測定局の概要及び測定項目（平成 27 年度）

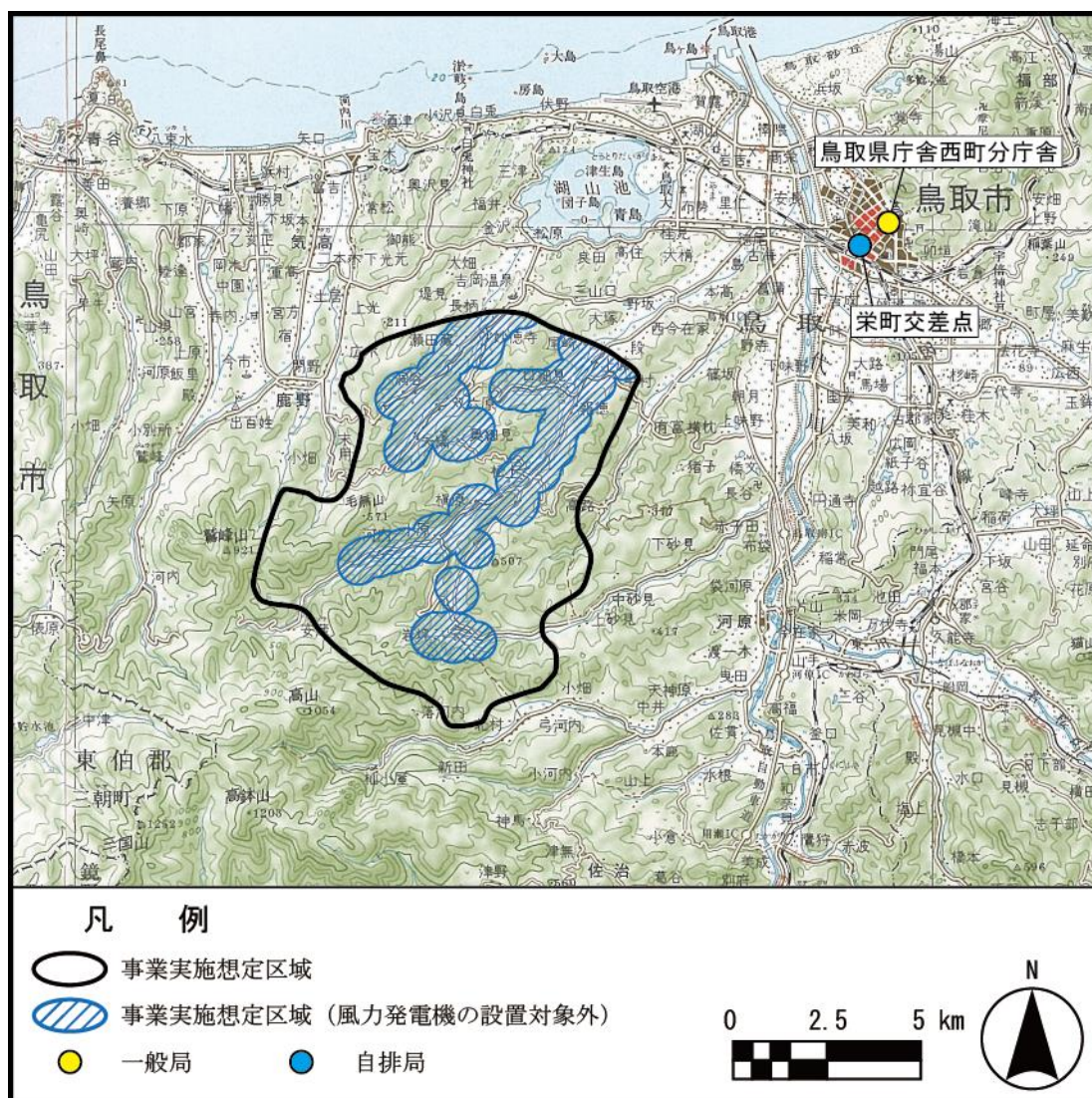
区分	測定局	設置場所	用途地域	二酸化 いおう (SO ₂)	二酸化 窒素 (NO ₂)	光化学オキ シダント (O _x)	浮遊粒子 状物質 (SPM)	微小粒子 状物質 (PM _{2.5})	一酸化 炭素 (CO)
一般局	鳥取	県庁西町分庁舎	未	○	○	○	○	○	○
自排局	鳥取	栄町交差点	未	—	○	—	○	—	○

注：1. 「○」は測定が行われていること、「—」は行われていないことを示す。

2. 用途地域については以下のとおりである。

未：「都市計画法」（昭和 43 年法律第 100 号）第 8 条第 1 項第 1 号、第 7 号及び第 9 号のいずれにも該当しない地域

（「平成 29 年環境白書」（鳥取県、平成 28 年）
「とっとり市地図情報サービス」（鳥取市、平成 29 年）
「大気測定局データファイル利用説明書」（国立環境研究所、平成 28 年）より作成）



〔「平成 29 年環境白書」（鳥取県、平成 29 年）より作成〕
第 3.1-6 図 大気測定局の位置

(1) 二酸化いおう

平成 27 年度の一般測定局における二酸化いおうの測定結果は第 3.1-12 表のとおりであり、環境基準を達成している。

また、過去 5 年間ににおける年平均値の経年変化は、第 3.1-13 表及び第 3.1-7 図のとおりである。

※ 環境基準とその評価

環境基準：日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。

短期的評価：日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。

長期的評価：日平均値の年間 2%除外値が 0.04ppm 以下であること。ただし、日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続しないこと。

第 3.1-12 表 二酸化いおうの測定結果（平成 27 年度）

区分	市	測定局	用途地域	有効測定日数	年平均値	1 時間値が 0.1ppm を超えた時間数とその割合		日平均値が 0.04ppm を超えた日数とその割合		1 時間値の最高値	日平均値の年間 2% 除外値	日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価
				日	ppm	時間	%	日	%	ppm	ppm	有×・無○	達成：○ 非達成：×
一般局	鳥取	県庁西町分庁舎	未	330	0.001	0	0	0	0	0.018	0.002	○	○

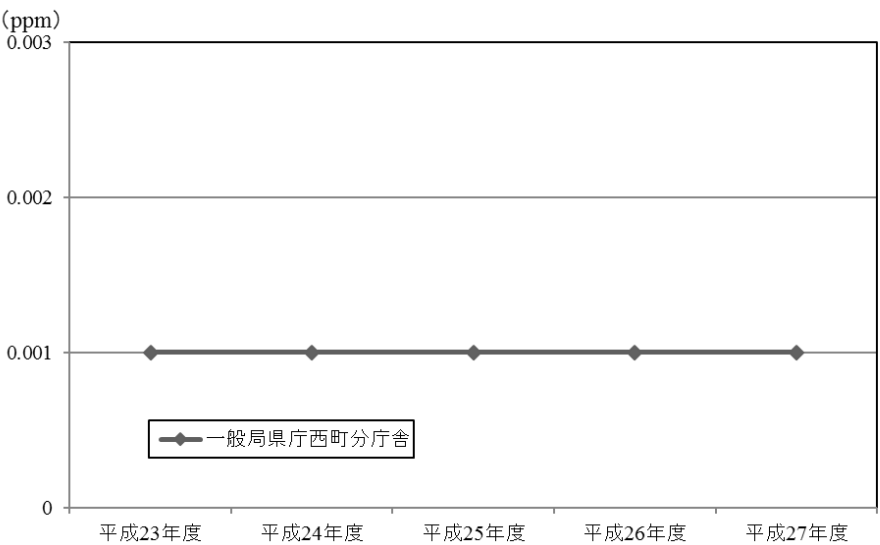
注：用途地域は、第 3.1-11 表の注：2 を参照。

〔平成 27 年度大気汚染調査結果報告書〕（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-13 表 二酸化いおうの年平均値の経年変化

区分	市	測定局	年平均値（ppm）				
			平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
一般局	鳥取	県庁西町分庁舎	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001

〔平成 27 年度大気汚染調査結果報告書〕（鳥取県、平成 28 年）より作成〕



〔平成 27 年度大気汚染調査結果報告書〕（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-7 図 二酸化いおうの年平均値の経年変化

(2) 二酸化窒素

平成 27 年度の各測定局における二酸化窒素の測定結果は第 3.1-14 表のとおりであり、いずれの測定局も環境基準を達成している。

また、過去 5 年間ににおける年平均値の経年変化は、第 3.1-15 表及び第 3.1-8 図のとおりである。

※ 環境基準とその評価

環境基準：日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内またはそれ以下であること。

長期的評価：日平均値の年間 98%値が 0.06ppm を超えないこと。

第 3.1-14 表 二酸化窒素の測定結果（平成 27 年度）

区分	市	測定局	用途地域	有効測定日数	年平均値	日平均値が 0.06ppm を超えた日数とその割合		日平均値が 0.04ppm 以上 0.06ppm 以下の日数とその割合		1 時間値の最高値	日平均値の年間 98% 値	環境基準の長期的評価
				日	ppm	日	%	日	%	ppm	ppm	達成：○ 非達成：×
一般局	鳥取市	県庁西町分庁舎	未	294	0.004	0	0	0	0	0.035	0.009	○
自排局	鳥取市	栄町交差点	未	323	0.009	0	0	0	0	0.044	0.017	○

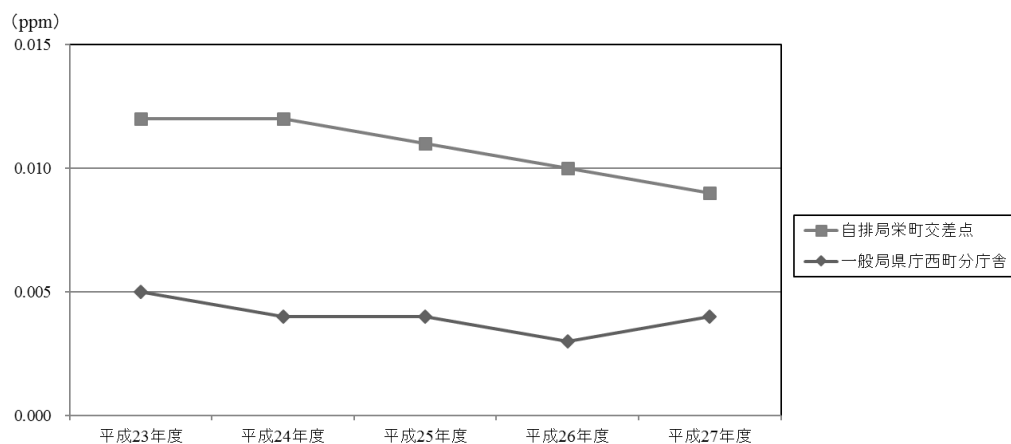
注：用途地域は、第 3.1-11 表の注：2 を参照。

〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-15 表 二酸化窒素の年平均値の経年変化

区分	市	測定局	年平均値（ppm）				
			平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
一般局	鳥取市	県庁西町分庁舎	0.005	0.004	0.004	0.003	0.004
自排局	鳥取市	栄町交差点	0.012	0.012	0.011	0.010	0.009

〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕



〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-8 図 二酸化窒素の年平均値の経年変化

(3) 浮遊粒子状物質

平成 27 年度の各測定局における浮遊粒子状物質の測定結果は第 3.1-16 表のとおりであり、いずれの測定局も環境基準を達成している。

また、過去 5 年間に於ける年平均値の経年変化は、第 3.1-17 表及び第 3.1-9 図のとおりである。

※ 環境基準とその評価

環境基準：日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1 時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること。

短期的評価：日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1 時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること。

長期的評価：日平均値の年間 2% 除外値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること、ただし、日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日が 2 日以上連続しないこと。

第 3.1-16 表 浮遊粒子状物質の測定結果（平成 27 年度）

区分	市	測定局	用途地域	有効測定日数	年平均値	1 時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ を越えた時間数とその割合		日平均値が $0.1\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合		1 時間値の最高値	日平均値の年間 2% 除外値	日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日が 2 日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数
				日	mg/m^3	時間	%	日	%	mg/m^3	mg/m^3	有×・無○	日
一般局	鳥取市	県庁西町分庁舎	未	332	0.014	0	0	0	0	0.104	0.036	○	0
自排局	鳥取市	栄町交差点	未	323	0.015	0	0	0	0	0.103	0.039	○	0

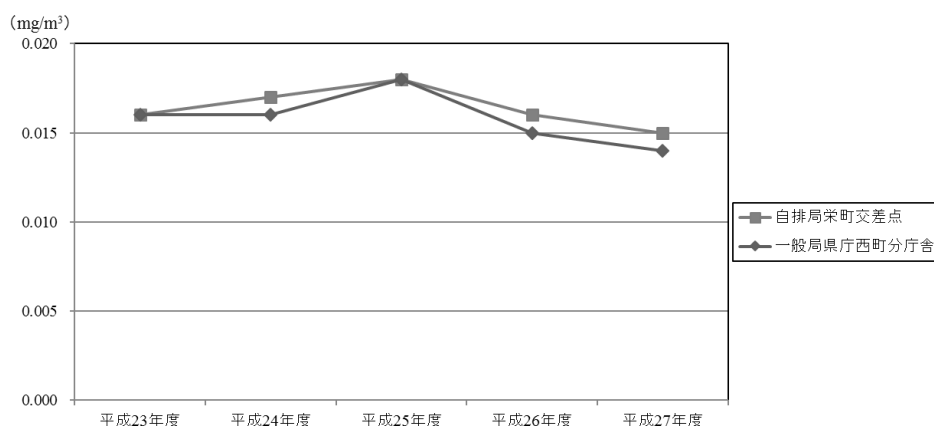
注：用途地域は、第 3.1-11 表の注：2 を参照。

〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-17 表 浮遊粒子状物質の年平均値の経年変化

区分	市	測定局	年平均値 (mg/m^3)				
			平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
一般局	鳥取市	県庁西町分庁舎	0.016	0.016	0.018	0.015	0.014
自排局	鳥取市	栄町交差点	0.016	0.017	0.018	0.016	0.015

〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕



〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-9 図 浮遊粒子状物質の年平均値の経年変化

(4) 微小粒子状物質

平成 27 年度の測定局における微小粒子状物質の測定結果は第 3.1-18 表のとおりであり、環境基準を達成している。

また、過去 5 年間における年平均値の経年変化は、第 3.1-19 表及び第 3.1-10 図のとおりである。

※ 環境基準とその評価

環境基準：年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

長期基準：年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

短期基準：日平均値のうち年間 98 パーセントタイル値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

第 3.1-18 表 微小粒子状物質の測定結果（平成 27 年度）

区分	市	測定局	用途地域	有効測定日数	年平均値	日平均値の 98 パーセントタイル値	日平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合		日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合		環境基準の評価
				日	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	日	%	日	%	
一般局	鳥取市	県庁西町分庁舎	未	336	15.4	35.8	—	—	8	2.4	×

注：1. 用途地域は、第 3.1-11 表の注：2 を参照。

2. 環境基準の評価は、測定値の 1 年平均値を長期基準（1 年平均値）と、1 日平均値の年間 98% 値を短期基準（1 日平均値）と比較し、両方を満足した場合に「達成」と評価する。

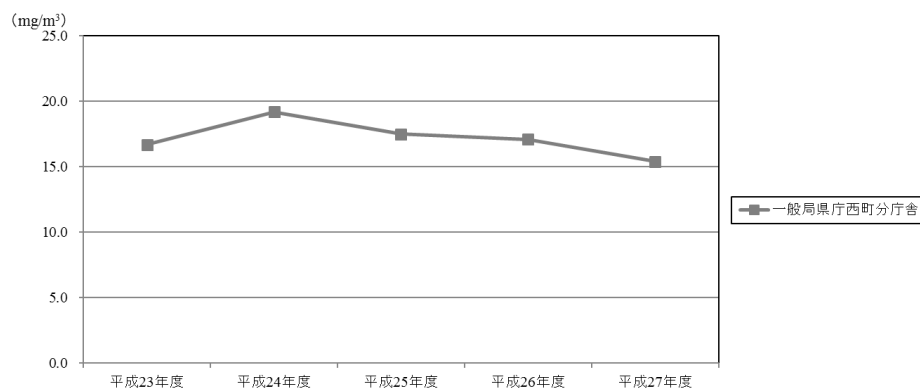
3. 「—」は測定が行われていないことを示す。

〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-19 表 微小粒子状物質の年平均値の経年変化

区分	市	測定局	年平均値（ $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）				
			平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
一般局	鳥取市	県庁西町分庁舎	16.7	19.2	17.5	17.1	15.4

〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕



〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-10 図 微小粒子状物質の年平均値の経年変化

(5) 光化学オキシダント

平成 27 年度の測定局における光化学オキシダントの測定結果は第 3.1-20 表のとおりであり、環境基準を達成していない。

また、過去 5 年間ににおける昼間の日最高 1 時間値の年平均値の経年変化は、第 3.1-21 表及び第 3.1-11 図のとおりである。

※ 環境基準とその評価

環境基準：1 時間値が 0.06ppm 以下であること。

環境基準の評価：昼間（5 時～20 時まで）の時間帯において、1 時間値が 0.06ppm 以下であること。

第 3.1-20 表 光化学オキシダントの測定結果（平成 27 年度）

区分	市	測定局	用途 地域	有効 測定 日数	昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた日数及 び時間数とその割合		昼間の 1 時間値が 0.12ppm 以上の日数及び 時間数とその割合		昼間の 1 時間値の 最高値	昼間の日最 高 1 時間値 の年平均値
				日	日	時間	日	時間	ppm	ppm
一般局	鳥取市	県庁西町 分庁舎	未	336	31	181	0	0	0.096	0.043

注：1. 用途地域は、第 3.1-11 表の注：2 を参照。

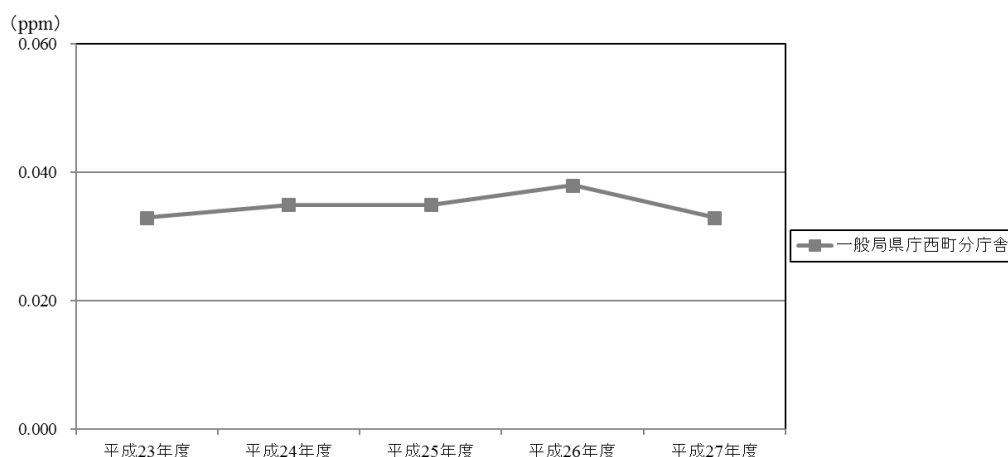
2. 昼間とは、5 時から 20 時までの時間内をいう。

〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-21 表 光化学オキシダントの昼間の日最高 1 時間値の年平均値の経年変化

区分	市	測定局	昼間の日最高 1 時間値の年平均値（ppm）				
			平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
一般局	鳥取市	県庁西町分庁舎	0.033	0.035	0.035	0.038	0.033

〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕



〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-11 図 光化学オキシダントの昼間の日最高 1 時間値の年平均値の経年変化

(6) 一酸化炭素

平成 27 年度の測定局における一酸化炭素の測定結果は第 3.1-22 表のとおりであり、環境基準を達成していない。

また、過去 5 年間ににおける昼間の日最高 1 時間値の年平均値の経年変化は、第 3.1-23 表及び第 3.1-12 図のとおりである。

※ 環境基準とその評価

長期基準：年間にわたる 1 時間値の 1 日平均値のうち、高い方から 2% の範囲にあるものを除外した値が 0.10ppm 以下であること。ただし、1 日平均値が 10ppm を超える日が 2 日以上連続しないこと。

短期基準：1 時間値の 1 日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であること。

第 3.1-22 表 一酸化炭素の測定結果（平成 27 年度）

区分	市	測定局	用途地域	有効測定日数	年平均値	8 時間値が 20ppm を超えた回数とその割合		日平均値が 10ppm を超えた日数とその割合		1 時間値の最高値	日平均値の 2% 除外値	日平均値が 10ppm を超えた日が 2 日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が 10ppm を超えた日数
				日	ppm	日	%	日	%	ppm	ppm	有：× 無：○	日
一般局	鳥取市	県庁西町分庁舎	未	263	0.3	0	0	0	0	1.1	0.5	○	0
自排局	鳥取市	栄町交差点	未	357	0.3	0	0	0	0	8.5	0.6	○	0

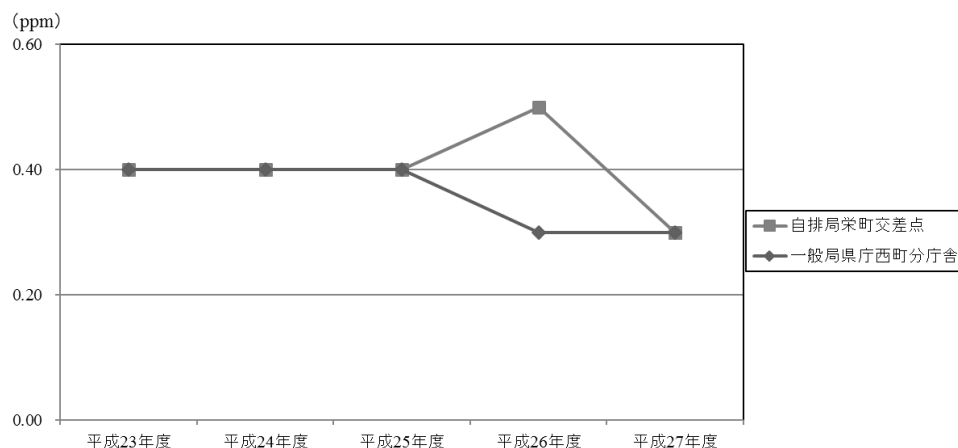
注：用途地域は、第 3.1-11 表の注：2 を参照。

〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-23 表 一酸化炭素の年平均値の経年変化

区分	市	測定局	昼間の日最高 1 時間値の年平均値（ppm）				
			平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
一般局	鳥取市	県庁西町分庁舎	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3
自排局	鳥取市	栄町交差点	0.4	0.4	0.4	0.5	0.3

〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕



〔「平成 27 年度大気汚染調査結果報告書」（鳥取県、平成 28 年）より作成〕

第 3.1-12 図 一酸化炭素の年平均値の経年変化

(7) 大気汚染に係る苦情の発生状況

大気汚染に係る公害苦情の受理件数は、「鳥取市の環境」（鳥取市、平成 28 年度版）によると、平成 27 年度は鳥取市で 14 件である。

3. 騒音の状況

(1) 環境騒音の状況

事業実施想定区域及びその周囲における一般環境騒音の状況について、鳥取県において公表された測定結果はない。

(2) 自動車騒音の状況

鳥取市における自動車騒音の状況について、「鳥取市の環境」（鳥取市、平成 28 年度版）によると、平成 27 年度は 7 地点で自動車騒音測定が実施されている。事業実施想定区域及びその周囲の自動車騒音評価区間は第 3.1-13 図、測定結果は第 3.1-24 表のとおりであり、昼夜とも基準値超過はない。

第 3.1-24 表 自動車騒音常時監視の面的評価結果（平成 27 年度）

番号	路線名	車線数	評価区間の 始点の住所	評価区間の 終点の住所	評価区間の 延長 (km)	評価対象住居 等戸数 (戸)	評価結果			
							昼間・夜間とも基準値以下 (戸)	昼間のみ基準値以下 (戸)	夜間のみ基準値以下 (戸)	昼間・夜間とも基準値超過 (戸)
1	一般国道 29 号	2	鳥取市宮永	鳥取市千代水	5.3	337	0	0	1	0

注：番号は第 3.1-13 図中の番号に対応する。

〔「平成 27 年度自動車騒音常時監視結果」（鳥取市 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）より作成〕

(3) 騒音に係る苦情の発生状況

騒音に係る公害苦情受理件数は、「鳥取市の環境」（鳥取市、平成 28 年度版）によると、平成 27 年度は鳥取市で 17 件である。

4. 振動の状況

(1) 環境振動の状況

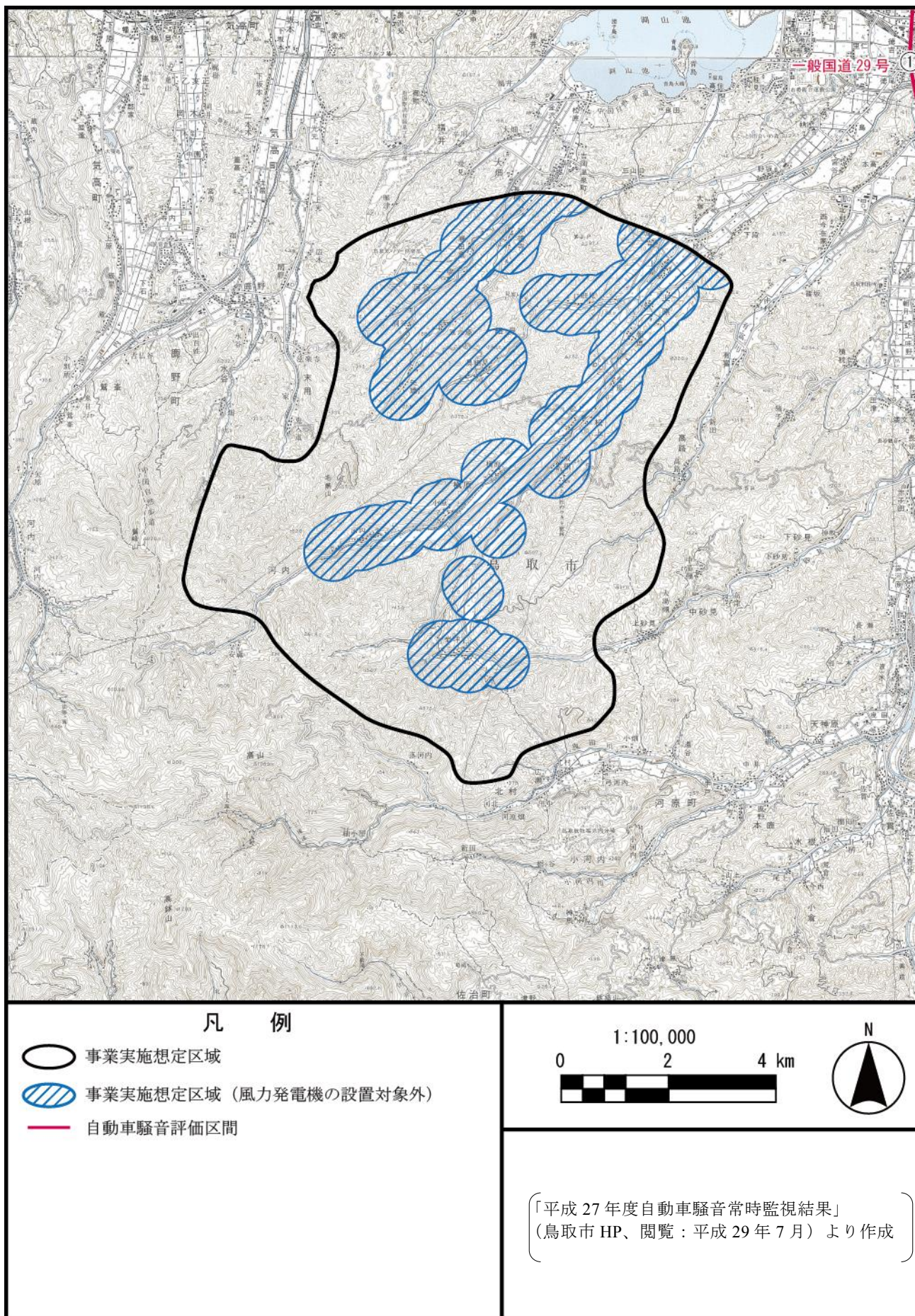
事業実施想定区域及びその周囲における環境振動の状況について、鳥取市において公表された測定結果はない。

(2) 道路交通振動の状況

事業実施想定区域及びその周囲における道路交通振動の状況について、鳥取県において公表された測定結果はない。

(3) 振動に係る苦情の発生状況

振動に係る公害苦情受理件数は、「鳥取市の環境」（鳥取市、平成 28 年度版）によると、平成 27 年度は鳥取市で 3 件である。



第 3.1-13 図 自動車騒音常時監視の評価区間

3. 1. 2 水環境の状況

1. 水象の状況

(1) 河川

事業実施想定区域及びその周囲の主要な河川の状況は第 3.1-14 図のとおりである。事業実施想定区域の北側には一級河川の湖山川、東側には一級河川の野坂川、南側には一級河川の砂見川、西側には二級河川の河内川などがある。

(2) 湖沼

事業実施想定区域及びその周囲には、第 3.1-14 図のとおり湖山池がある。

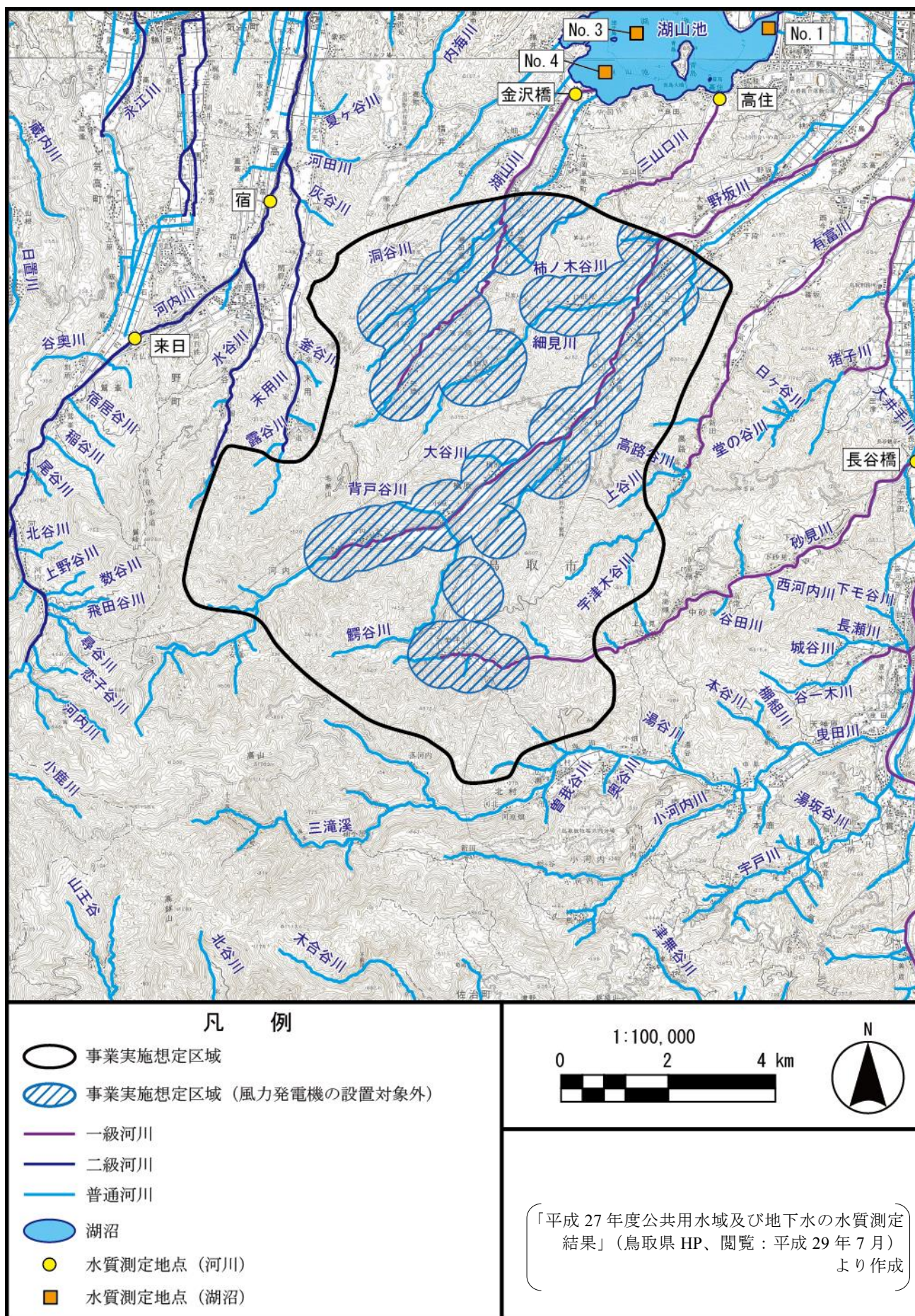
(3) 海域

事業実施想定区域及びその周囲に海域は存在しない。

2. 水質の状況

(1) 河川の水質

事業実施想定区域及びその近傍における平成 27 年度の水質測定地点は第 3.1-15 図、水質測定結果は、「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県、平成 27 年度）によると、第 3.1-25 表のとおりである。



第 3.1-15 図 水質測定地点

第 3.1-25 表(1) 河川の水質測定結果（生活環境項目）

水域名		湖山川						砂見川					
測定地点名		金沢橋						長谷橋					
類 型		—						—					
測定項目	単位	最小値	最大値	75%値	m	n	最小値	最大値	75%値	m	n		
水素イオン濃度(pH)	—	7.1	7.7	—	—	12	7.7	8	—	—	4		
溶存酸素量(DO)	mg/L	6.2	13	—	—	12	4.3	11	—	—	4		
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	<0.5	2.6	0.8	—	—	0.5	0.9	0.6	—	—		
浮遊物質量(SS)	mg/L	8	20	—	—	4	1	3	—	—	4		
大腸菌群数	MPN/100mL	330	220,000	—	—	4	110	13,000	—	—	4		

水域名		三山口川						河内川					
測定地点名		高住						宿					
類 型		—						—					
測定項目	単位	最小値	最大値	75%値	m	n	最小値	最大値	75%値	m	n		
水素イオン濃度(pH)	—	6.9	7.7	—	—	12	7.1	7.3	—	—	4		
溶存酸素量(DO)	mg/L	7.7	12	—	—	12	7.4	11	—	—	4		
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	<0.5	1.1	0.9	—	—	<0.5	0.9	0.8	—	—		
浮遊物質量(SS)	mg/L	<1	20	—	—	12	1	3	—	—	4		
大腸菌群数	MPN/100mL	350	54,000	—	—	12	790	220,000	—	—	4		

水域名		河内川					
測定地点名		来日					
類 型		—					
測定項目	単位	最小値	最大値	75%値	m	n	
水素イオン濃度(pH)	—	7.2	7.4	—	—	4	
溶存酸素量(DO)	mg/L	7.6	11	—	—	4	
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	<0.5	0.8	0.6	—	—	
浮遊物質量(SS)	mg/L	<1	2	—	—	4	
大腸菌群数	MPN/100mL	240	49,000	—	—	4	

注：1. 「<」は定量下限値未満であることを示す。

2. 「—」は該当がないことを示す。

3. 「m」は環境基準値を超える検体数、「n」は総検体数を示す。

〔「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）
「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号）より作成〕

第 3. 1-25 表(2) 河川の水質測定結果（健康項目）

水域名		湖山川	砂見川	環境基準
測定地点名		金沢橋	長谷橋	
カドミウム	mg/L	<0.0003	<0.0003	0.003 mg/L 以下
全シアン	mg/L	<0.1	<0.1	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.005	<0.005	0.01 mg/L 以下
六価クロム	mg/L	<0.005	<0.005	0.05 mg/L 以下
砒素	mg/L	<0.005	<0.005	0.01 mg/L 以下
総水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	0.0005 mg/L 以下
アルキル水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
PCB	mg/L	—	—	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	0.02 mg/L 以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	0.002 mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	<0.0004	0.004 mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	0.1 mg/L 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	<0.004	0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	1 mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	<0.0006	0.006 mg/L 以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	0.01 mg/L 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	0.01 mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	0.002 mg/L 以下
チウラム	mg/L	—	—	0.006 mg/L 以下
シマジン	mg/L	—	—	0.003 mg/L 以下
チオベンカルブ	mg/L	—	—	0.02 mg/L 以下
ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	0.01 mg/L 以下
セレン	mg/L	—	—	0.01 mg/L 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	0.2	0.4	10 mg/L 以下
ふっ素	mg/L	<0.08	<0.08	0.8 mg/L 以下
ほう素	mg/L	<0.1	<0.1	1 mg/L 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	<0.005	0.05 mg/L 以下

「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）
「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号）より作成

第 3. 1-25 表(3) 河川の水質測定結果（健康項目）

水域名		河内川	河内川	環境基準
測定地点名		宿	来日	
カドミウム	mg/L	<0.0003	<0.0003	0.003 mg/L 以下
全シアン	mg/L	<0.1	<0.1	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.005	<0.005	0.01 mg/L 以下
六価クロム	mg/L	<0.005	<0.005	0.05 mg/L 以下
砒素	mg/L	<0.005	<0.005	0.01 mg/L 以下
総水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	0.0005 mg/L 以下
アルキル水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
PCB	mg/L	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	0.02 mg/L 以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	0.002 mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	<0.0004	0.004 mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	0.1 mg/L 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	<0.004	0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	1 mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	<0.0006	0.006 mg/L 以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	0.01 mg/L 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	0.01 mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	0.002 mg/L 以下
チウラム	mg/L	<0.0006	<0.0006	0.006 mg/L 以下
シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	0.003 mg/L 以下
チオベンカルブ	mg/L	<0.002	<0.002	0.02 mg/L 以下
ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	0.01 mg/L 以下
セレン	mg/L	<0.002	<0.002	0.01 mg/L 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	0.3	0.3	10 mg/L 以下
ふっ素	mg/L	0.08	<0.08	0.8 mg/L 以下
ほう素	mg/L	<0.1	<0.1	1 mg/L 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	<0.005	0.05 mg/L 以下

「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）
「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号）より作成

(2) 湖沼の水質

事業実施想定区域及びその近傍における湖沼の水質について、平成 27 年度の水質測定地点は第 3.1-15 図、水質測定結果は、「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県、平成 27 年度）によると、第 3.1-26 表のとおりである。

第 3.1-26 表(1) 湖沼の水質測定結果（生活環境項目）

水域名		湖山池						湖山池						環境基準 A 類型 (湖沼)
測定地点名		布勢地先 (No.1)						中央部 (No.3)						
類 型		A						A						
測定項目	単位	最小値	最大値	75%値	m	n	最小値	最大値	75%値	m	n			
水素イオン濃度(pH)	－	7.8	9	－	10	24	7.8	9	－	11	24	6.5 以上 8.5 以下		
溶存酸素量(DO)	mg/L	5.9	12	－	3	24	5.9	12	－	4	24	7.5 以上		
化学的酸素要求量(COD)	mg/L	3.2	7.1	5.8	24	24	3.5	6.2	5.7	24	24	3 以下		
浮遊物質質量(SS)	mg/L	4	22	－	23	24	4	18	－	22	24	5 以下		
大腸菌群数	MPN/100mL	240	17,000	－	19	24	49	240,000	－	14	24	1,000 以下		

水域名		湖山池						環境基準 A 類型 (湖沼)
測定地点名		松原地先 (No.4)						
類 型		A						
測定項目	単位	最小値	最大値	75%値	m	n		
水素イオン濃度(pH)	—	7.8	8.8	—	9	24	6.5 以上 8.5 以下	
溶存酸素量(DO)	mg/L	8.1	12	—	3	24	7.5 以上	
化学的酸素要求量(COD)	mg/L	4.1	6.9	6.4	24	24	3 以下	
浮遊物質量(SS)	mg/L	7	24	—	24	24	5 以下	
大腸菌群数	MPN/100mL	220	4,900	—	17	24	1,000 以下	

注：1. 「<」は定量下限値未満であることを示す。

2. 「—」は該当がないことを示す。

3. 「m」は環境基準値を超える検体数、「n」は総検体数を示す。

〔「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）
「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号）より作成〕

第 3. 1-26 表(2) 湖沼の水質測定結果（健康項目）

水域名		湖山池	湖山池	環境基準
測定地点名		布勢地先 (No.1)	中央部 (No.3)	
カドミウム	mg/L	<0.0003	<0.0003	0.003 mg/L 以下
全シアン	mg/L	<0.1	<0.1	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.005	<0.005	0.01 mg/L 以下
六価クロム	mg/L	<0.005	<0.005	0.05 mg/L 以下
砒素	mg/L	<0.005	<0.005	0.01 mg/L 以下
総水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	0.0005 mg/L 以下
アルキル水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
PCB	mg/L	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	0.02 mg/L 以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	0.002 mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	<0.0004	0.004 mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	0.1 mg/L 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	<0.004	0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	1 mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	<0.0006	0.006 mg/L 以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	0.01 mg/L 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	0.01 mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	0.002 mg/L 以下
チウラム	mg/L	<0.0006	<0.0006	0.006 mg/L 以下
シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	0.003 mg/L 以下
チオベンカルブ	mg/L	<0.002	<0.002	0.02 mg/L 以下
ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	0.01 mg/L 以下
セレン	mg/L	<0.002	<0.002	0.01 mg/L 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	<0.1	<0.1	10 mg/L 以下
ふっ素	mg/L	0.24	0.2	0.8 mg/L 以下
ほう素	mg/L	0.5	0.6	1 mg/L 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	<0.005	0.05 mg/L 以下

「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）
「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号）より作成

第 3.1-26 表(3) 湖沼の水質測定結果（健康項目）

水域名		湖山池	環境基準
測定地点名		松原地先（No.4）	
カドミウム	mg/L	<0.0003	0.003 mg/L 以下
全シアン	mg/L	<0.1	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.005	0.01 mg/L 以下
六価クロム	mg/L	<0.005	0.05 mg/L 以下
砒素	mg/L	<0.005	0.01 mg/L 以下
総水銀	mg/L	<0.0005	0.0005 mg/L 以下
アルキル水銀	mg/L	<0.0005	検出されないこと
PCB	mg/L	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	0.02 mg/L 以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	0.002 mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	0.004 mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	0.1 mg/L 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	1 mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	0.006 mg/L 以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.002	0.01 mg/L 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	0.01 mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	0.002 mg/L 以下
チウラム	mg/L	<0.0006	0.006 mg/L 以下
シマジン	mg/L	<0.0003	0.003 mg/L 以下
チオベンカルブ	mg/L	<0.002	0.02 mg/L 以下
ベンゼン	mg/L	<0.001	0.01 mg/L 以下
セレン	mg/L	<0.002	0.01 mg/L 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	<0.1	10 mg/L 以下
ふっ素	mg/L	0.2	0.8 mg/L 以下
ほう素	mg/L	0.5	1 mg/L 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	0.05 mg/L 以下

「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）
「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号）より作成

(3) 地下水の水質

事業実施想定区域及びその周囲における地下水の水質の測定結果は、「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県、平成 27 年度）によると、第 3.1-27 表のとおりである。

第 3.1-27 表 地下水水質の測定結果（概況調査・平成 27 年度）

市		鳥取市	環境基準
地区名		高住	
用途区分		一般飲料用井戸	
カドミウム	mg/L	<0.0003	0.003mg/L 以下
全シアン	mg/L	<0.1	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.005	0.01 mg/L 以下
六価クロム	mg/L	<0.005	0.05 mg/L 以下
砒素	mg/L	<0.005	0.01 mg/L 以下
総水銀	mg/L	<0.0005	0.0005 mg/L 以下
アルキル水銀	mg/L	<0.0005	検出されないこと
PCB	mg/L	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	0.02 mg/L 以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	0.002 mg/L 以下
クロロエチレン（別名塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー）	mg/L	—	0.002 mg/L 以下※
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	0.004 mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.01	0.1 mg/L 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	0.04 mg/L 以下
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	0.004 mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	1 mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	0.006 mg/L 以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.002	0.01 mg/L 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	0.01 mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	0.002 mg/L 以下
チウラム	mg/L	<0.0006	0.006 mg/L 以下
シマジン	mg/L	<0.0003	0.003 mg/L 以下
チオベンカルブ	mg/L	<0.002	0.02 mg/L 以下
ベンゼン	mg/L	<0.001	0.01 mg/L 以下
セレン	mg/L	<0.002	0.01 mg/L 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	環境基準値以下	10 mg/L 以下
ふっ素	mg/L	環境基準値以下	0.8 mg/L 以下
ほう素	mg/L	<0.1	1 mg/L 以下
トランス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	0.002 mg/L 以下
塩化ビニルモノマー	mg/L	<0.0002	0.0002 mg/L 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	0.05 mg/L 以下

注：1. 「<」は定量下限値未満であること（検出されないこと）を示す。

2. 「—」は出典に未記載の項目を示す。

3. 「※」のクロロエチレン（別名塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー）の環境基準は平成 29 年 4 月 1 日から適用されており、水質測定時には適用されていない。

「平成 27 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（鳥取県 HP、閲覧：平成 29 年 5 月）
「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 9 号）より作成

(4) 水質に係る苦情の発生状況

「鳥取市の環境」（鳥取市、平成 28 年度版）によると、水質汚濁に係る公害苦情受理件数は、平成 27 年度は鳥取市で 16 件である。

3. 水底の底質の状況

「平成 29 年版環境白書」（鳥取県、平成 29 年）によると、鳥取県において、水底の底質の状況について、公表された調査結果はない。

3.1.3 土壌及び地盤の状況

1. 土壌の状況

(1) 土壌

事業実施想定区域及びその周囲における土壌の状況は第 3.1-16 図のとおりである。

事業実施想定区域は乾性褐色森林土壌及び褐色森林土壌からなっている。

(2) 土壌汚染

「土壌汚染対策法に基づく要措置区域・形質変更時要届出区域（平成 29 年 6 月 30 日現在）」（環境省、平成 29 年）によると、事業実施想定区域及びその周囲では、「土壌汚染対策法」（平成 14 年法律第 53 号）に基づいた要措置区域及び形質変更時要届出区域の指定はされていない。

(3) 土壌汚染に係る苦情の発生状況

土壌汚染に係る公害苦情受理件数は、「鳥取市の環境」（鳥取市、平成 28 年度版）によると、平成 27 年度は鳥取市では 0 件である。

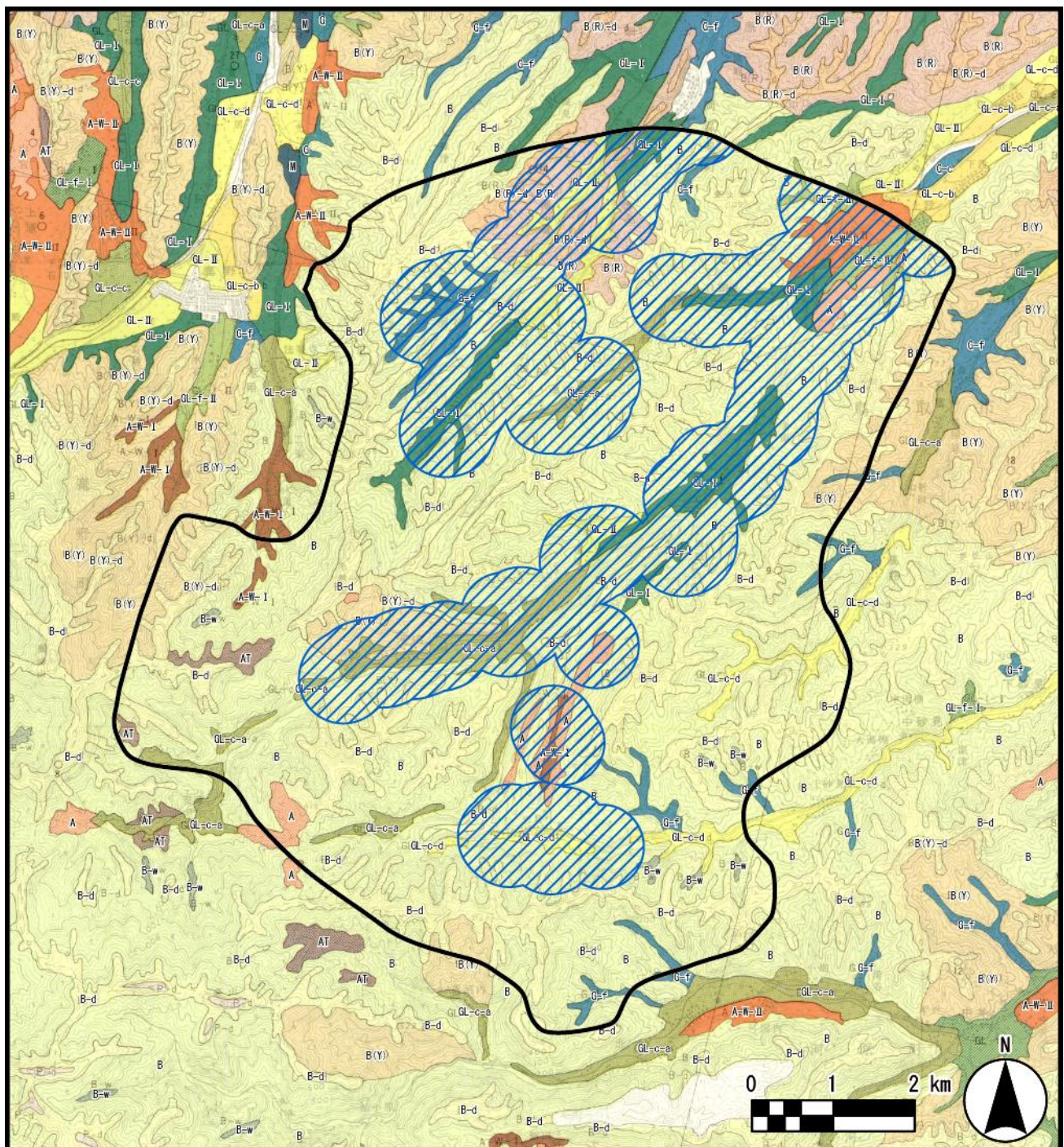
2. 地盤の状況

(1) 地盤沈下の状況

「平成 27 年度 全国の地盤沈下地域の概況」（環境省、平成 28 年）によると、鳥取市園田 4 丁目及び鳥取市秋里において地盤沈下が認められているが、事業実施想定区域及びその周囲において地盤沈下は認められない。

(2) 地盤沈下に係る苦情の発生状況

地盤沈下に係る公害苦情受理件数は、平成 27 年度は鳥取市では 0 件である。



凡 例



事業実施想定区域



事業実施想定区域（風力発電機の設置対象外）



AT 厚層黒ボク土壌



A 黒ボク土壌



A-W-I 多湿黒ボク土壌 I



A-W-II 多湿黒ボク土壌 II



B-d 乾性褐色森林土壌



B(Y)-d 乾性褐色森林土壌(黄褐色系)



B(R)-d 乾性褐色森林土壌(赤褐色系)



B 褐色森林土壌



B(Y) 褐色森林土壌(黄褐色系)



B(R) 褐色森林土壌(赤褐色系)



B-w 湿性褐色森林土壌



P-d 乾性ポドゾル化土壌



GL-f-I 細粒灰色低地土壌 I



GL-f-II 細粒灰色低地土壌 II



GL-I 灰色低地土壌 I



GL-II 灰色低地土壌 II



GL-c-a 粗粒灰色低地土壌a



GL-c-b 粗粒灰色低地土壌b



GL-c-c 粗粒灰色低地土壌c



GL-c-d 粗粒灰色低地土壌d



G-f 細粒グライ土壌



G グライ土壌



G-c 粗粒グライ土壌



M 黒泥土壌

○ 試杭点位置及び番号

「土地分類基本調査 土壌図 鳥取北部・鳥取南部」(国土庁、昭和 50 年)
(鳥取県、昭和 53 年)

より作成

第 3.1-16 図 土壌図

3.1.4 地形及び地質の状況

1. 地形の状況

事業実施想定区域及びその周囲における地形の状況は第 3.1-17 図のとおりであり、事業実施想定区域は、主に山地の起伏山地等からなっている。また、「日本の典型地形」（（財）日本地図センター発行、平成 11 年）によると第 3.1-28 表及び第 3.1-18 図のとおり、事業実施想定区域及びその周囲に「吉岡断層」、「鹿野断層」及び「岩坪断層」等が存在する。

第 3.1-28 表 事業実施想定区域及びその周囲における地形の状況（典型地形）

地形項目	名称
地震断層	吉岡断層
地震断層	鹿野断層
その他の断層崖	岩坪断層
柱状節理・板状節理	御熊（ミクマ）神社の柱状節理
河川争奪地形	吉岡温泉町付近
風隙	岩坪付近
谷中分水界	今市付近
河川争奪地形	今市付近
潟湖（ラグーン）	湖山池（コヤマイケ）
湧泉・湧泉群	布施の清水
三角州	鳥取平野

〔「日本の典型地形」（（財）日本地図センター、平成 11 年）より作成〕

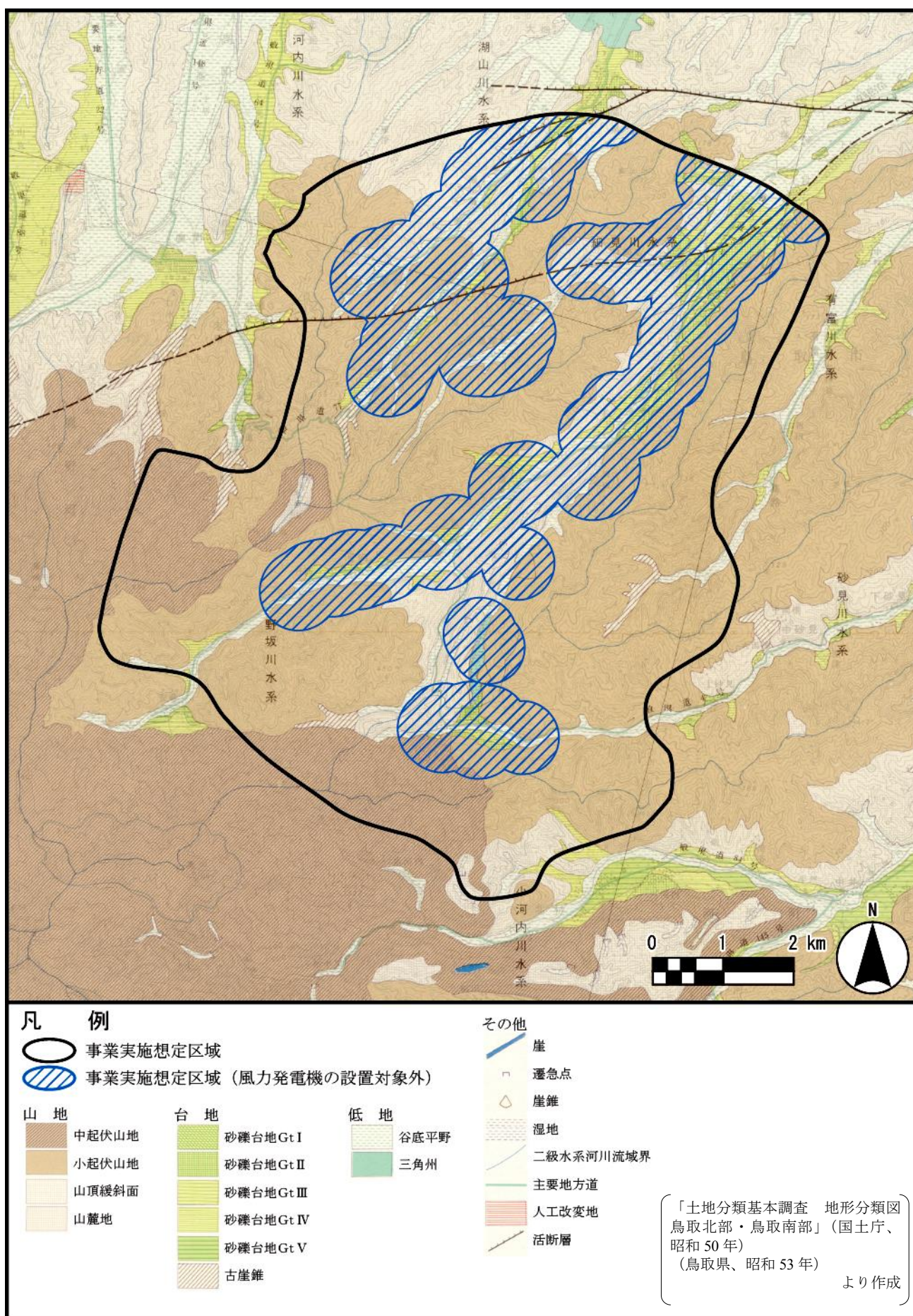
2. 地質の状況

事業実施想定区域及びその周囲における表層地質の状況は第 3.1-19 図のとおりである。事業実施想定区域は主に深成岩、火山性岩石等からなっている。

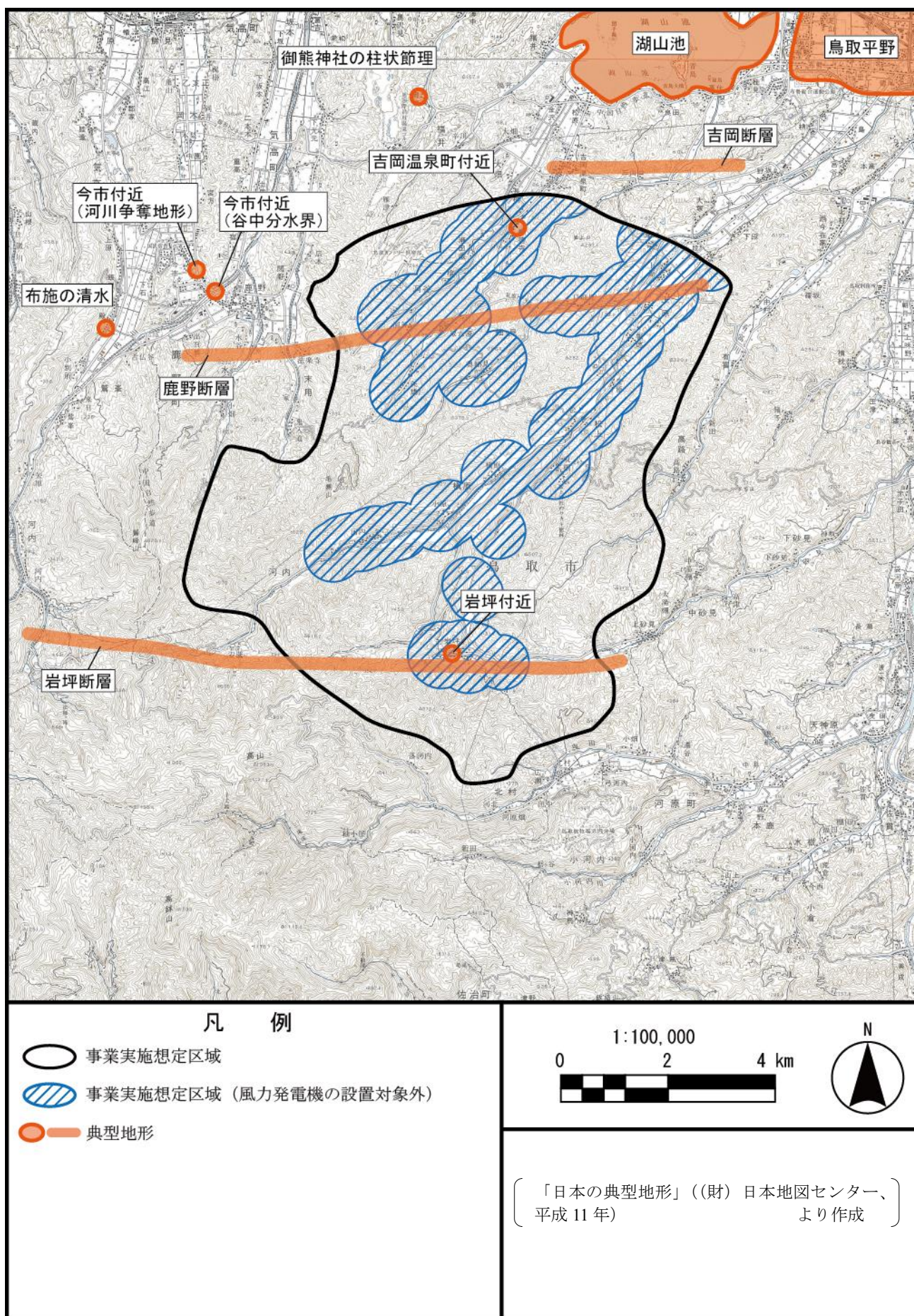
3. 重要な地形・地質

「日本の地形レッドデータブック第 1 集」（日本の地形レッドデータブック作成委員会、平成 12 年）において選定された保存すべき地形は存在しない。

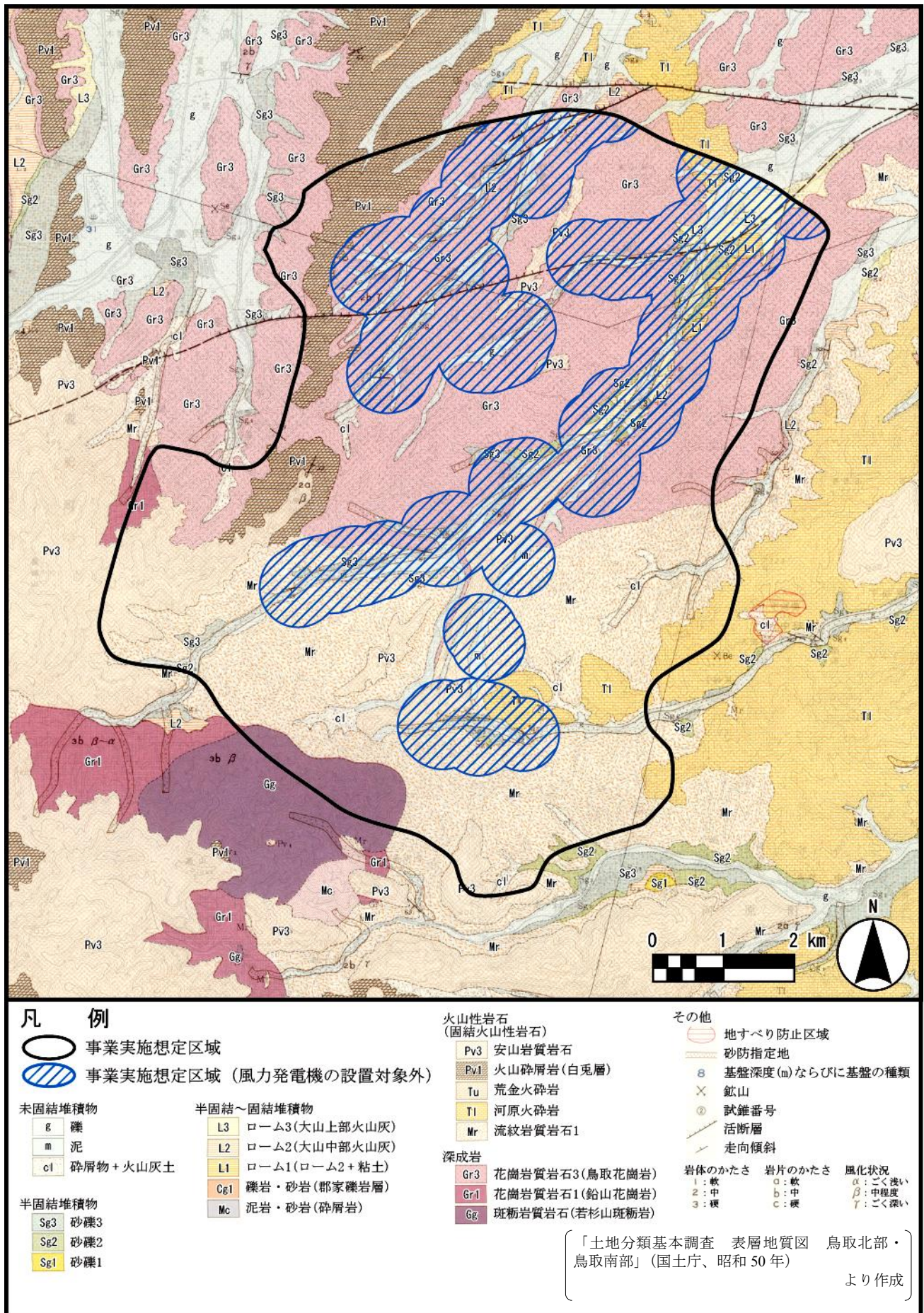
また、「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号）により指定されている重要な地質は存在しない。



第 3.1-17 図 事業実施想定区域及びその周囲における地形の状況（地形分類図）



第 3.1-18 図 事業実施想定区域及びその周囲における地形の状況 (典型地形)



第 3.1-19 図 表層地質の状況

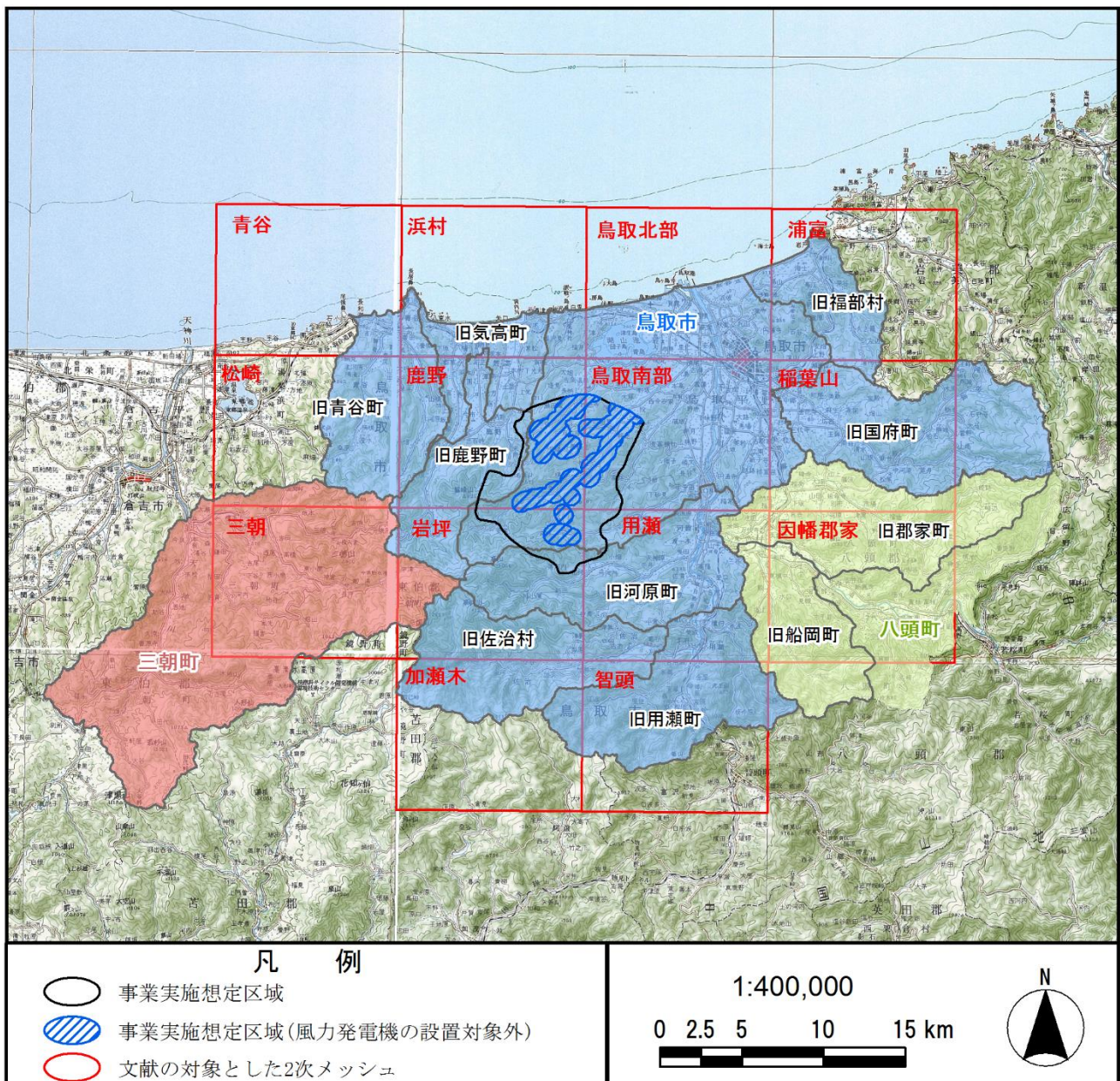
3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

1. 動物の生息の状況

動物の生息状況は、当該地域の自然特性を勘案し、事業実施想定区域及びその周囲を対象に、文献その他の資料（「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物」（鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年）、鳥取市（鳥取市、旧福部村、旧国府町、旧気高町、旧青谷町、旧鹿野町、旧佐治村、旧河原町、旧用瀬町）、八頭町（旧郡家町、旧船岡町）、三朝町の各町史等）により整理した。

また、「自然環境保全基礎調査」については、事業実施想定区域からおおよそ 7km の範囲が含まれる 2 次メッシュ^注として、「青谷」「浜村」「鳥取北部」「浦富」「松崎」「鹿野」「鳥取南部」「稲葉山」「旧国府町」「三朝」「岩坪」「用瀬」「因幡郡家」「旧郡家町」「鳥取北部」「鳥取南部」「用瀬」「智頭」「浦富」「稲葉山」「因幡郡家」を対象とした。調査範囲は第 3.1-20 図のとおりである。

注：国土地理院発行の 1/25,000 の地形図名称



第 3.1-20 図 文献その他の資料調査の範囲

(1) 動物相の概要

事業実施想定区域及びその周囲の動物相の概要は、第 3.1-29 表のとおりであり、哺乳類 37 種、鳥類 226 種、爬虫類 15 種、両生類 18 種、昆虫類 645 種、魚類 82 種及び底生動物 16 種の計 1,039 種が確認されている。

第 3.1-29 表(1) 動物相の概要

分類	文献名	確認 種数	主な確認種
哺乳類	「第 2 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査」(環境庁、昭和 54-56 年)	7 種	ジネズミ、カワネズミ、 ヒミズ、コウベモグラ、 コキクガシラコウモリ、 キクガシラコウモリ、ア ブラコウモリ、ニホンザ ル、ノウサギ、ニホンリス、ムササビ、ヤマネ、 スミスネズミ、ハタネズミ、アカネズミ、ツキノ ワグマ、タヌキ、テン、 チョウセンイタチ、ニホンアナグマ、イノシシ等 (合計 37 種)
	「第 4 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査」(環境庁、平成 5-6 年)	13 種	
	「第 5 回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査」(環境省、平成 13-14 年)	13 種	
	「第 6 回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査」(環境省、平成 16 年)	7 種	
	「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物-」 (鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年)	12 種	
	「国府町誌」(国府町、昭和 62 年)	8 種	
	「新編 福部村誌 下巻」(福部村、平成 12 年)	1 種	
	「河原町誌」(河原町役場、昭和 61 年)	19 種	
	「用瀬町誌」(用瀬町、昭和 48 年)	6 種	
	「佐治村誌」(鳥取県佐治村、昭和 58 年)	8 種	
	「鹿野町誌 上巻」(鹿野町、平成 4 年)	9 種	
	「青谷町誌」(青谷町、昭和 59 年)	6 種	
	「新編 郡家町誌」(八頭町、平成 18 年)	23 種	
	「新 船岡町誌」(船岡町、平成 14 年)	17 種	
	「新修 三朝町史」(三朝町、平成 21 年)	14 種	
	「鳥取県のすぐれた自然 動物編」(鳥取県、平成 5 年)	14 種	
鳥類	「第 2 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査」(環境庁、昭和 54-56 年)	94 種	ウズラ、ヤマドリ、ヒシ クイ、マガン、コブハク チョウ、オシドリ、カイ ツブリ、キジバト、コウ ノトリ、コグンカンド リ、ヒメウ、ヨシゴイ、 ヘラサギ、ヨタカ、ハリ オアマツバメ、タゲリ、 タシギ、ミツコビカモ メ、ウミスズメ、ハチク マ、サシバ、ノスリ、イ ヌワシ、クマタカ、コノ ハズク、コゲラ、ヤイロ チョウ、サンショウク イ、コガラ、ヤマガラ、 メボソムシクイ、マミジ ロ、トラツグミ等 (合計 226 種)
	「第 3 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査」(環境庁、昭和 63 年)	97 種	
	「第 6 回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査」(環境省、平成 16 年)	97 種	
	「生物多様性システム ガンカモ類の生息調査」(環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月)	23 種	
	「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物-」 (鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年)	68 種	
	「新修 鳥取市史」(鳥取市、昭和 58 年)	6 種	
	「国府町誌」(国府町、昭和 62 年)	42 種	
	「新編 福部村誌 下巻」(福部村、平成 12 年)	15 種	
	「河原町誌」(河原町役場、昭和 61 年)	73 種	
	「用瀬町誌」(用瀬町、昭和 48 年)	19 種	
	「佐治村誌」(鳥取県佐治村、昭和 58 年)	28 種	
	「新修 気高町誌」(鳥取市、平成 18 年)	77 種	
	「鹿野町誌 上巻」(鹿野町、平成 4 年)	186 種	
	「青谷町誌」(青谷町、昭和 59 年)	88 種	
	「新編 郡家町誌」(八頭町、平成 18 年)	123 種	
	「新 船岡町誌」(船岡町、平成 14 年)	48 種	
	「新修 三朝町史」(三朝町、平成 21 年)	52 種	
	「鳥取県のすぐれた自然 動物編」(鳥取県、平成 5 年)	132 種	
	「千代川の自然」(藤島弘純、平成 6 年)	46 種	
	「千代川の生物」(建設省鳥取工事事務所、昭和 55 年)	91 種	
	「湖山の歴史と文化 霞の里」(湖山地区自治会・湖山地区公民館、平成 24 年)	3 種	
	「とっとりの野鳥」(鳥取県農林水産部森林保全課、平成 15 年)	95 種	

第 3.1-29 表 (2) 動物相の概要

分類	文献名	確認 種数	主な確認種
爬虫類	「第 4 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査」(環境庁、平成 5-6 年)	0 種	ニホンイシガメ、クサガメ、ニホンスッポン、カミツキガメ、ニホンヤモリ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、タカチホヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ジムグリ、シロマダラ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシ (合計 15 種)
	「第 5 回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査」(環境省、平成 13-14 年)	9 種	
	「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物」(鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年)	4 種	
	「新修 鳥取市史」(鳥取市、昭和 58 年)	0 種	
	「河原町誌」(河原町役場、昭和 61 年)	11 種	
	「用瀬町誌」(用瀬町、昭和 48 年)	6 種	
	「佐治村誌」(鳥取県佐治村、昭和 58 年)	9 種	
	「鹿野町誌 上巻」(鹿野町、平成 4 年)	8 種	
	「青谷町誌」(青谷町、昭和 59 年)	0 種	
	「新編 郡家町誌」(八頭町、平成 18 年)	11 種	
	「新 船岡町誌」(船岡町、平成 14 年)	11 種	
	「新修 三朝町史」(三朝町、平成 21 年)	7 種	
	「鳥取県のすぐれた自然 動物編」(鳥取県、平成 5 年)	8 種	
	「千代川の生物」(建設省鳥取工事事務所、昭和 55 年)	0 種	
両生類	「第 4 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査」(環境庁、平成 5-6 年)	2 種	カスミサンショウウオ、ブチサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、オオサンショウウオ、アカハライモリ、ニホンヒキガエル、ニホンアマガエル、タゴガエル、ナガレタゴガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、トノサマガエル、ウシガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル、カジカガエル (合計 18 種)
	「第 5 回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査」(環境省、平成 13-14 年)	15 種	
	「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物」(鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年)	10 種	
	「新修 鳥取市史」(鳥取市、昭和 58 年)	2 種	
	「河原町誌」(河原町役場、昭和 61 年)	11 種	
	「用瀬町誌」(用瀬町、昭和 48 年)	9 種	
	「佐治村誌」(鳥取県佐治村、昭和 58 年)	6 種	
	「鹿野町誌 上巻」(鹿野町、平成 4 年)	8 種	
	「青谷町誌」(青谷町、昭和 59 年)	1 種	
	「新編 郡家町誌」(八頭町、平成 18 年)	13 種	
	「新 船岡町誌」(船岡町、平成 14 年)	10 種	
	「新修 三朝町史」(三朝町、平成 21 年)	8 種	
	「鳥取県のすぐれた自然 動物編」(鳥取県、平成 5 年)	13 種	
	「千代川の生物」(建設省鳥取工事事務所、昭和 55 年)	3 種	
昆虫類	「第 2 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査」(環境庁、昭和 54-56 年)	30 種	コバネアオイトトンボ、アオモンイトトンボ、ムカシトンボ、ハラビロカマキリ、ハマスズ、ヤマトマダラバッタ、ニホントビナナフシ、アカスジカメムシ、コガタシマトビケラ、ホシチャバネセセリ、オナガシジミ、コムラサキ、ジャコウアゲハ本土亜種、ニホンアミカモドキ、ゴヘイニクバエ、オオヒョウタンゴミムシ、ハラビロハンミョウ、クロゲンゴロウ、ツノアカヤマアリ、ニッポンハナダカバチ等 (合計 645 種)
	「第 4 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査」(環境庁、平成 5-6 年)	129 種	
	「第 5 回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査」(環境省、平成 13-14 年)	271 種	
	「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物」(鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年)	94 種	
	「新修 鳥取市史」(鳥取市、昭和 58 年)	2 種	
	「国府町誌」(国府町、昭和 62 年)	49 種	
	「新編 福部村誌 下巻」(福部村、平成 12 年)	73 種	
	「河原町誌」(河原町役場、昭和 61 年)	107 種	
	「用瀬町誌」(用瀬町、昭和 48 年)	113 種	
	「佐治村誌」(鳥取県佐治村、昭和 58 年)	33 種	
	「新修 気高町誌」(鳥取市、平成 18 年)	40 種	
	「鹿野町誌 上巻」(鹿野町、平成 4 年)	91 種	
	「新編 郡家町誌」(八頭町、平成 18 年)	188 種	
	「鳥取県のすぐれた自然 動物編」(鳥取県、平成 5 年)	145 種	
	「鳥取県立博物館研究報告 第 47 号 鳥取県のアリ類」(鳥取県立博物館、平成 22 年)	63 種	
	「千代川の生物」(建設省鳥取工事事務所、昭和 55 年)	87 種	

第 3.1-29 表(3) 動物相の概要

分類	文献名	確認 種数	主な確認種
魚類	「第 4 回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査」(環境庁、平成 5-6 年)	40 種	スナヤツメ南方種、カワ
	「第 5 回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査」(環境省、平成 13-14 年)	36 種	ヤツメ、ニホンウナギ、
	「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物」 (鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年)	17 種	コノシロ、コイ、ゲンゴ ロウブナ、ギンブナ、ヤ
	「新修 鳥取市史」(鳥取市、昭和 58 年)	2 種	リタナゴ、ドジョウ、シ
	「国府町誌」(国府町、昭和 62 年)	27 種	マドジョウ、ギギ、ゴン
	「新編 福部村誌 下巻」(福部村、平成 12 年)	19 種	ズイ、ワカサギ、アユ、
	「河原町誌」(河原町役場、昭和 61 年)	17 種	ニッコウイワナ、サクラ
	「用瀬町誌」(用瀬町、昭和 48 年)	15 種	マス、ニホンイトヨ、ド
	「佐治村誌」(鳥取県佐治村、昭和 58 年)	14 種	ンコ、カワアナゴ、シロ
	「新修 気高町誌」(鳥取市、平成 18 年)	35 種	ウオ、ミミズハゼ、チチ
	「鹿野町誌 上巻」(鹿野町、平成 4 年)	13 種	ブ等
	「新編 郡家町誌」(八頭町、平成 18 年)	25 種	(合計 82 種)
	「新 船岡町誌」(船岡町、平成 14 年)	22 種	
	「新修 三朝町史」(三朝町、平成 21 年)	22 種	
	「鳥取県のすぐれた自然 動物編」(鳥取県、平成 5 年)	6 種	
	「鳥取県立博物館研究報告 第 30 号 鳥取市湖山池の魚類について」 (鳥取県立博物館、平成 5 年)	28 種	
	「鳥取県立博物館研究報告 第 33 号 鳥取県千代川水系の魚類」 (鳥取県立博物館、平成 8 年)	51 種	
	「千代川の自然」(藤島弘純、平成 6 年)	54 種	
	「千代川の生物」(建設省鳥取工事事務所、昭和 55 年)	42 種	
	「湖山の歴史と文化 霞の里」(湖山地区自治会・湖山地区公民館、平成 24 年)	17 種	
底生動物	「新編 福部村誌 下巻」(福部村、平成 12 年)	3 種	マルタニシ、カワニナ、
	「河原町誌」(河原町役場、昭和 61 年)	7 種	モノアラガイ、マルドブ
	「鹿野町誌 上巻」(鹿野町、平成 4 年)	7 種	ガイ、マシジミ、テナガ
	「新編 郡家町誌」(八頭町、平成 18 年)	3 種	エビ、アメリカザリガ
	「新修 三朝町史」(三朝町、平成 21 年)	7 種	ニ、モクズガニ等
	「湖山の歴史と文化 霞の里」(湖山地区自治会・湖山地区公民館、平成 24 年)	2 種	(合計 16 種)
合計	1,039 種		

注：哺乳類、爬虫類、両生類、昆虫類、魚類、底生動物の種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省、平成 28 年)、鳥類の種名は、「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(日本鳥学会 平成 24 年)に準拠した。

事業実施想定区域及びその周囲では、哺乳類は、「第 2 回自然環境保全基礎調査」(環境庁、昭和 54～56 年)、「第 4 回自然環境保全基礎調査」(環境庁、平成 5～6 年)、「第 5 回自然環境保全基礎調査」(環境省、平成 13～14 年) 及び「第 6 回自然環境保全基礎調査」(環境省、平成 16 年) によるとジネズミ、キクガシラコウモリ、ノウサギ、ニホンリス、ツキノワグマ、テン、タヌキ、ニホンアナグマ等が確認されている。

鳥類は、「第 2 回自然環境保全基礎調査」(環境庁、昭和 54～56 年)、「第 3 回自然環境保全基礎調査」(環境庁、昭和 63 年) 及び「第 6 回自然環境保全基礎調査」(環境省、平成 16 年) では、ヤマドリ、オシドリ、ヨシゴイ、ヨタカ、サシバ、イヌワシ、コノハズク、ヤイロチョウ、サンショウクイ、コガラ、メボソムシクイ、トラツグミ等が確認されている。

「ガンカモ類の生息調査」(環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月) においては、ガン、カモ、ハクチョウ類の渡来数が掲載されている。事業実施想定区域及びその周囲にある調査地点は、第 3.1-21 図のとおり「湖山池」の 1 地点であった。平成 23 年度から平成 27 年度までの調査において、第 3.1-30 表のとおりマガモ、ヨシガモ、ホシハジロ、ミコアイサ等の計 14 種が確認されている。

「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」(環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版) によると、ノスリは第 3.1-22 図のとおり春季に事業実施想定区域内及び周囲で渡り経路が確認されている。ハチクマは第 3.1-24 図のとおり春季及び秋季に事業実施想定区域及びその周囲において渡り経路が確認されている。また、サシバは第 3.1-23 図のとおり事業実施想定区域の周囲において渡り経路は確認されていない。クマタカ及びイヌワシについては第 3.1-25 図のとおり事業実施想定区域を含むメッシュで確認されている。

爬虫類は、「第 4 回自然環境保全基礎調査」(環境庁、平成 5～6 年)、「第 5 回自然環境保全基礎調査」(環境省、平成 13～14 年) によると、ニホンイシガメ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、ジムグリ、ヒバカリ等が確認されている。

両生類は、「第 4 回自然環境保全基礎調査」(環境庁、平成 5～6 年)、「第 5 回自然環境保全基礎調査」(環境省、平成 13～14 年) によると、ヒダサンショウウオ、ブチサンショウウオ、カスミサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、オオサンショウウオ、アカハライモリ、トノサマガエル、ニホンヒキガエル、カジカガエル、モリアオガエル等が確認されている。

昆虫類は、「第 2 回自然環境保全基礎調査」(環境庁、昭和 54～56 年)、「第 4 回自然環境保全基礎調査」(環境庁、平成 5～6 年)、「第 5 回自然環境保全基礎調査」(環境省、平成 13～14 年) によると、ホソミオツネントンボ、ムカシトンボ、ハラビロカマキリ、ニホントビナナフシ、アカスジカメムシ、コガタシマトビケラ、オナガシジミ、コムラサキ、ジャコウアゲハ本土亜種、ハラビロハンミョウ等が確認されている。

魚類は、「第 4 回自然環境保全基礎調査」(環境庁、平成 5～6 年)、「第 5 回自然環境保全基礎調査」(環境省、平成 13～14 年) によると、スナヤツメ南方種、ニホンウナギ、ギギ、サクラマス、サツキマス、ニホンイトヨ、ドンコ、チチブ等が確認されている。

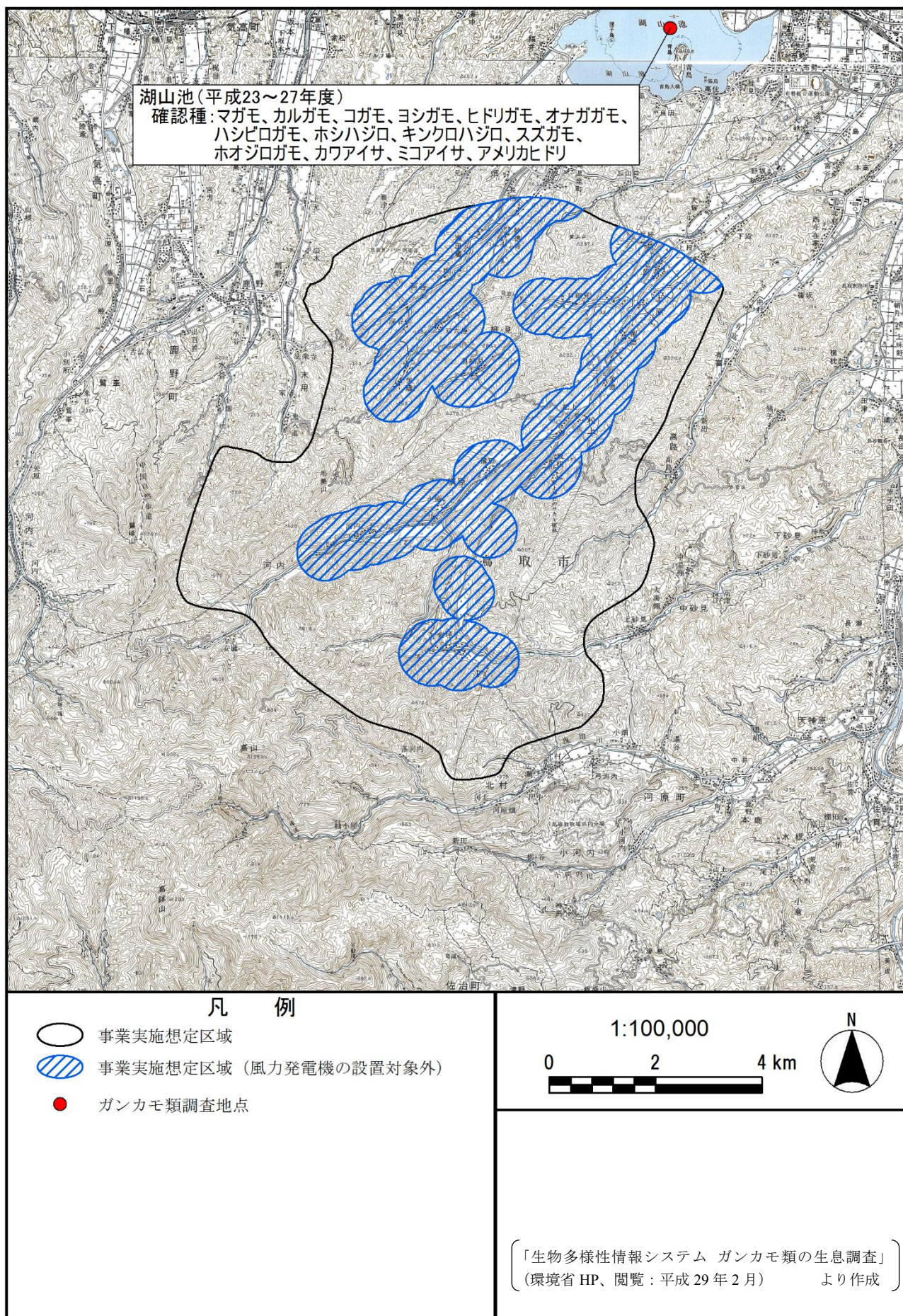
底生動物は、「河原町誌」(河原町役場、昭和 61 年) によると、マルタニシ、マルドブガ

イ、マシジミ、テナガエビ、アメリカザリガニ、モクズガニ等が確認されている。

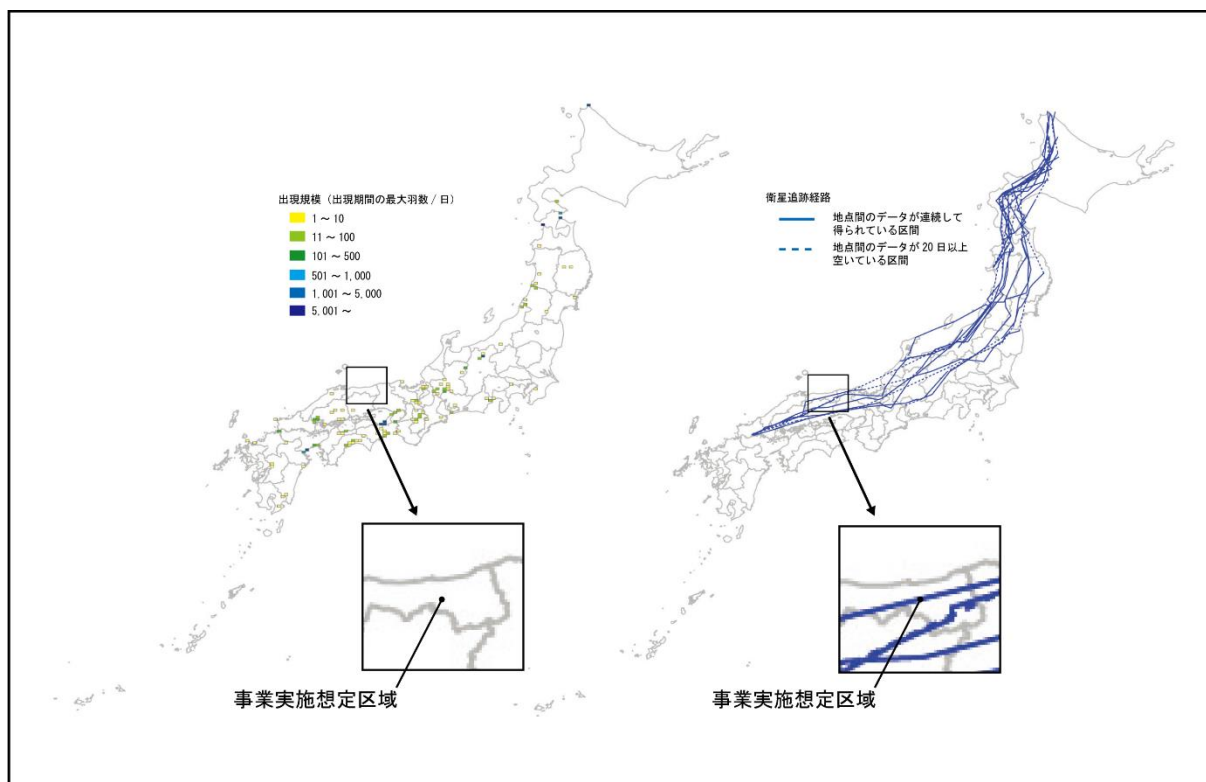
第 3.1-30 表 ガンカモ類の渡来数

調査地点名 (事業実施区域まで のおよその距離)	調査年度	マガモ	カルガモ	コガモ	ヨシガモ	ヒドリガモ	オナガガモ	ハシビロガモ	ホシハジロ	キンクロハジロ	スズガモ	ホオジロガモ	カワアイサ	ミコアイサ	アメリカヒドリ
湖山池 (約 2km)	平成 23 年度	755	426	7		184	20		92	81		10		6	
	平成 24 年度	259	491	10	7	157			454	237	10	13	1	11	
	平成 25 年度	667	436	14	14	192	6		373	407	9	24		15	1
	平成 26 年度	780	401	7		533	1		107	171	8	19		5	
	平成 27 年度	598	237	11	1	483	13	1	65	104		4		3	

「生物多様性情報システム ガンカモ類の生息調査」(環境省 HP、閲覧：平成 29 年 2 月)
より作成

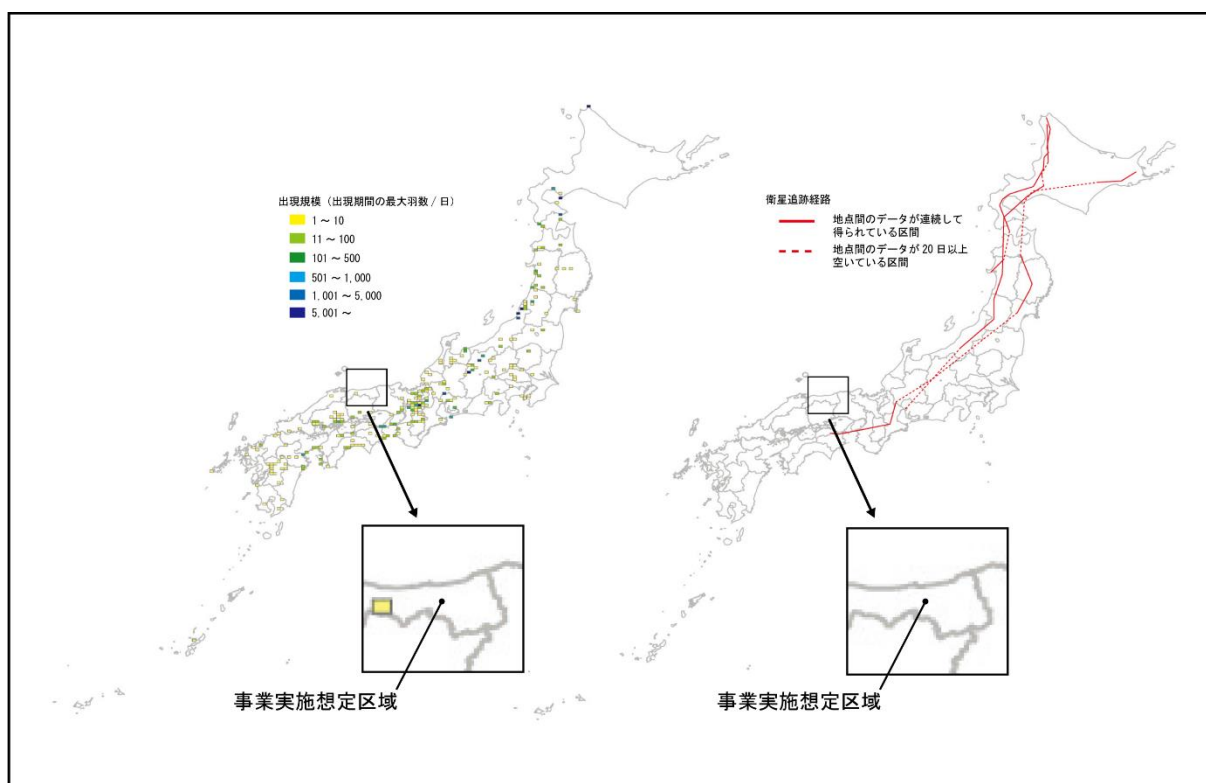


第 3.1-21 図 ガンカモ類の調査地点



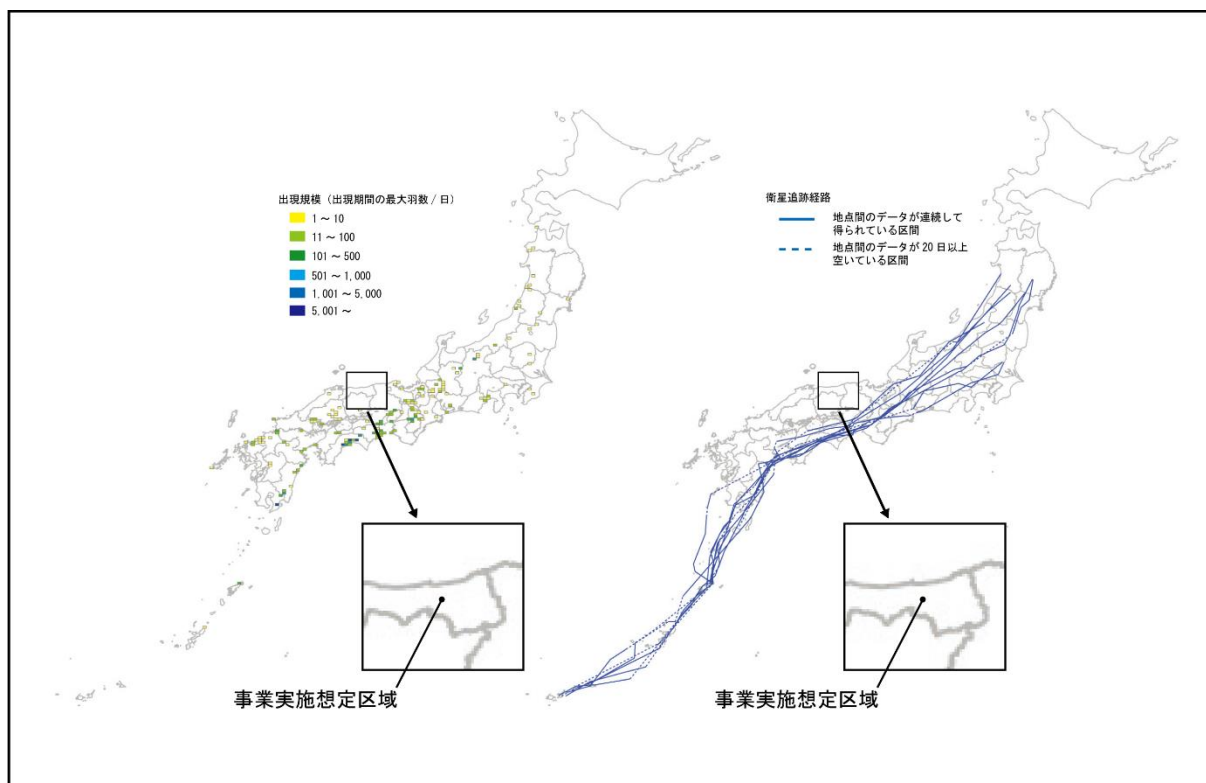
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成23年、平成27年修正版）より作成〕

第3.1-22 図(1) ノスリの渡り経路（春季）



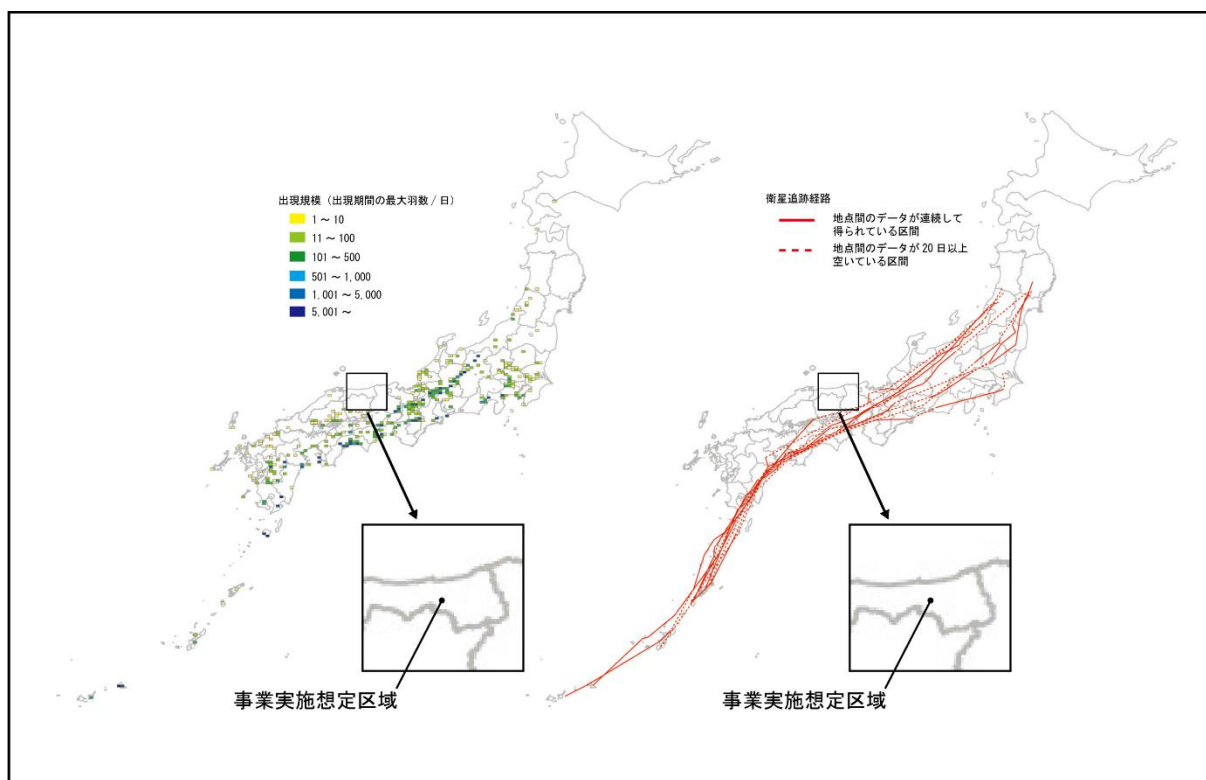
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成23年、平成27年修正版）より作成〕

第3.1-22 図(2) ノスリの渡り経路（秋季）



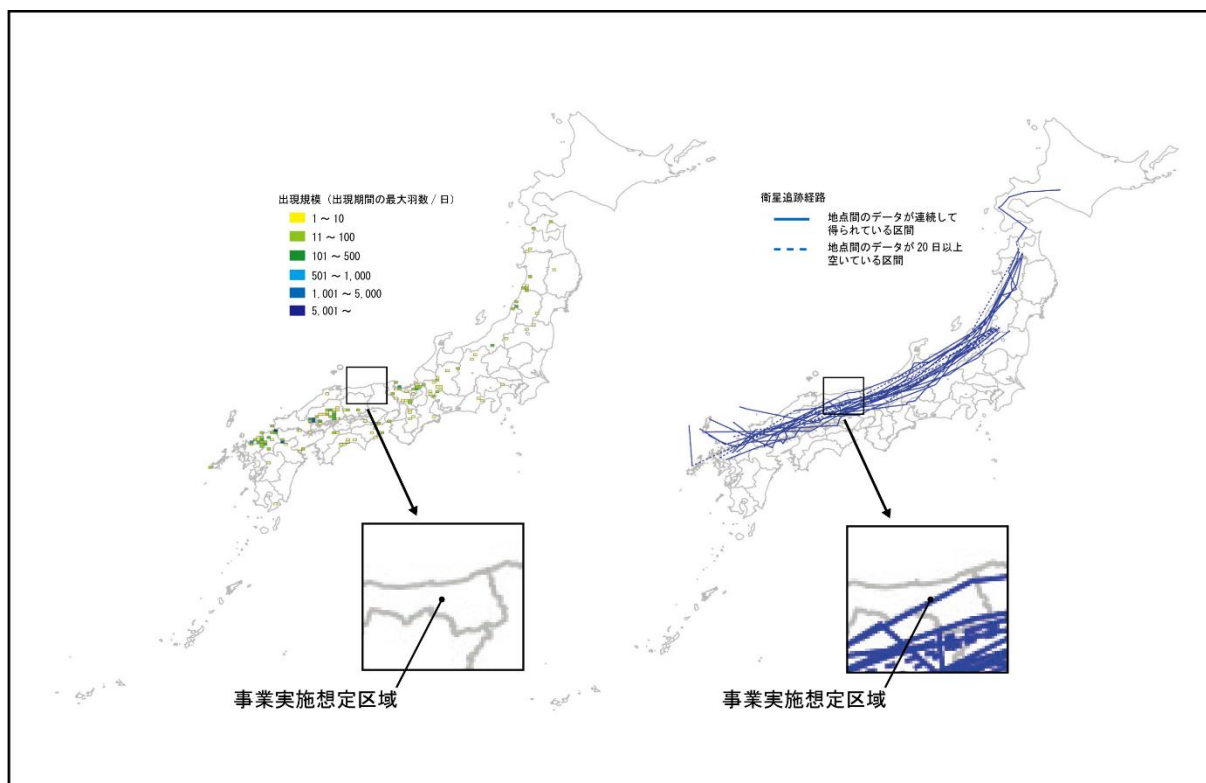
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）より作成〕

第 3.1-23 図(1) サシバの渡り経路（春季）



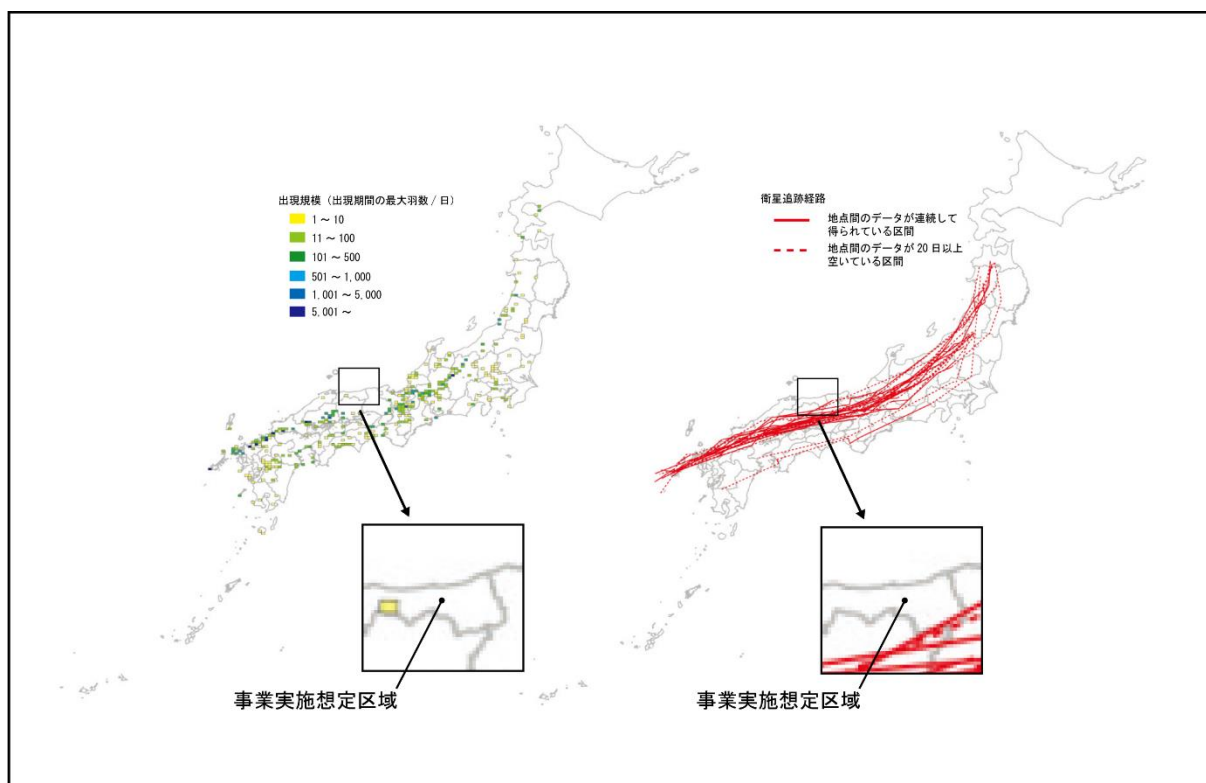
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）より作成〕

第 3.1-23 図(2) サシバの渡り経路（秋季）



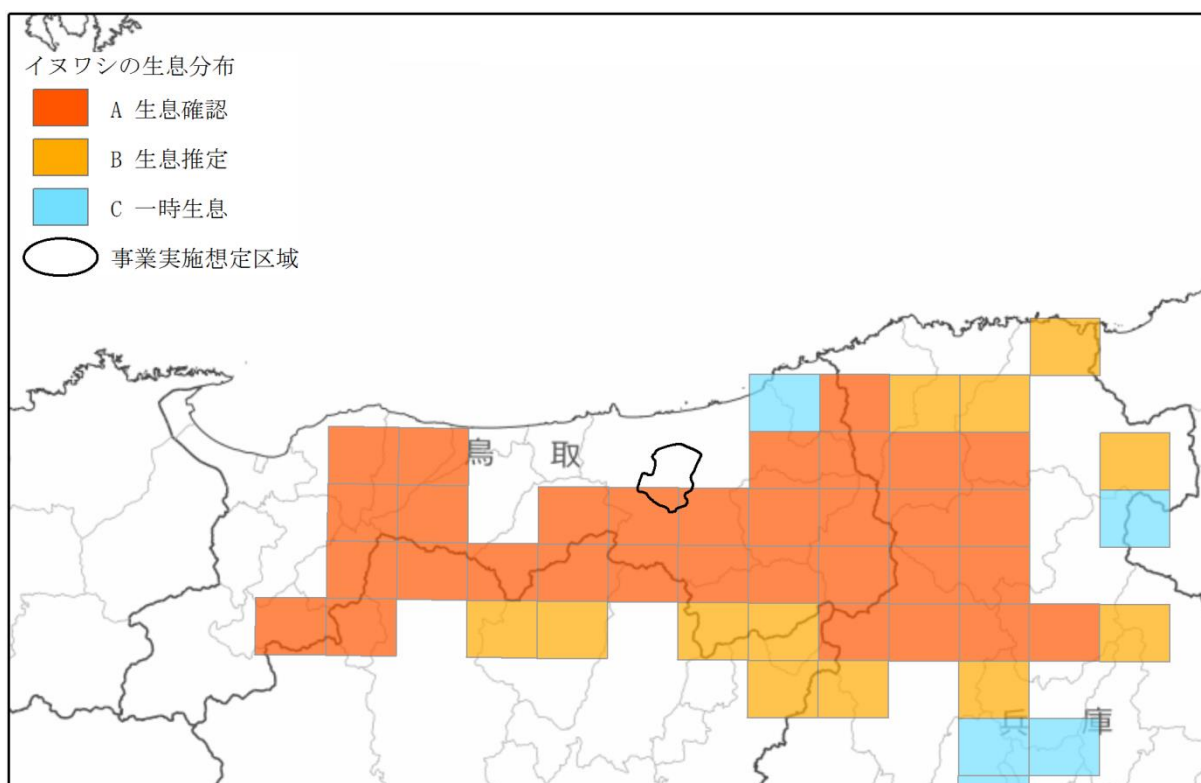
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）より作成〕

第 3.1-24 図(1) ハチクマの渡り経路（春季）



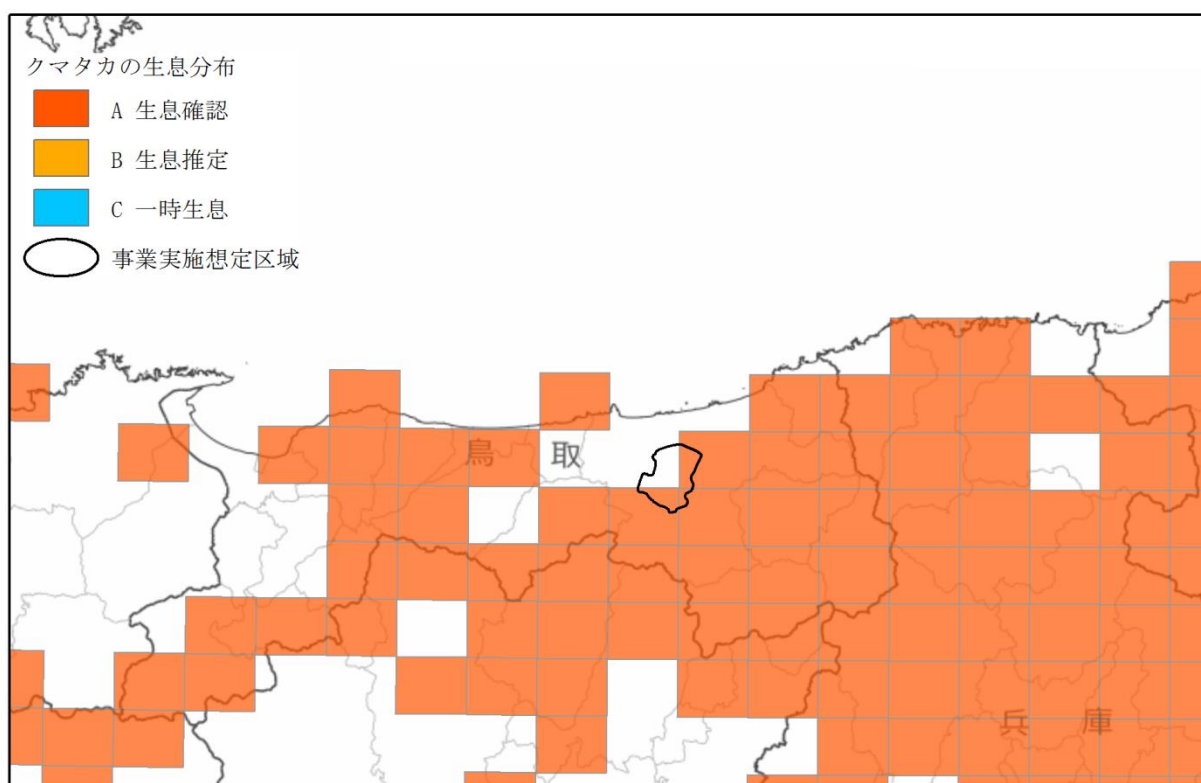
〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）より作成〕

第 3.1-24 図(2) ハチクマの渡り経路（秋季）



〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）より作成〕

第3.1-25図(1) 2次メッシュにおけるイヌワシの生息分布



〔「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成 23 年、平成 27 年修正版）より作成〕

第3.1-25図(2) 2次メッシュにおけるクマタカの生息分布

(2) 動物の重要な種

動物の重要な種は、「(1) 動物相の概要」の文献その他の資料で確認された種について、第 3.1-31 表の選定根拠に基づき、学術上または希少性の観点から選定した。その結果は第 3.1-32 表のとおり、哺乳類ではカワネズミ、コキクガシラコウモリ、ニホンザル、ニホンリス、ムササビ、ヤマネ、ツキノワグマ等の 14 種が確認されている。また、鳥類ではヒシクイ、オシドリ、コウノトリ、ヨシゴイ、ヨタカ、タマシギ、ハチクマ、イヌワシ、クマタカ、ハヤブサ、サンコウチョウ、セッカ、トラツグミ、カヤクグリ、ホオアカ等 84 種、爬虫類ではニホンイシガメ、ニホンスッポン、タカチホヘビ、シロマダラの 4 種、両生類ではカスミサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、オオサンショウウオ、ニホンヒキガエル、トノサマガエル等の 11 種、昆虫類ではコバネアオイトトンボ、ハッチョウトンボ、ヒメハルゼミ、ゴマシジミ中国・九州亜種、ツノアカヤマアリ等の 109 種が確認されている。魚類では、カワヤツメ、スナヤツメ南方種、ニホンウナギ、ワカサギ、サクラマス、ニホンイトヨ等の 26 種が確認されている。底生動物では、マルタニシ、オオタニシ、モノアラガイ、タガイ、カラスガイ、イシガイ及びマシジミの 7 種が確認されている。

第 3.1-31 表(1) 動物の重要な種の選定基準

選定基準		文献その他の資料
①	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号、最終改正：平成 26 年法律第 69 号)に基づく天然記念物 「鳥取県文化財保護条例」(昭和 34 年鳥取県条例第 50 号)及び「鳥取市文化財保護条例」(昭和 48 年鳥取市条例第 2 号)、「三朝町文化財保護条例」(昭和 48 年三朝町条例第 20 号)、「八頭町文化財保護条例」(平成 17 年八頭町条例第 94 号)に基づく指定文化財	特天：国指定特別天然記念物 天：国指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号、最終改正：平成 26 年法律第 69 号)に基づく国内希少野生動物等	「国指定文化財等データベース」(文化庁 HP、閲覧：平成 29 年 7 月)、「とっとり文化財ナビ」(鳥取県 HP、閲覧：平成 29 年 7 月)
	国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成 5 年 政令第 17 号)

第 3.1-31 表 (2) 動物の重要な種の選定基準

選定基準		文献その他の資料
③	「環境省レッドリスト 2017」(環境省、平成 29 年)の掲載種	EX: 絶滅...我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW: 野生絶滅...飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種 CR+EN: 絶滅危惧種 I 類...絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの CR: 絶滅危惧 IA 類...ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの EN: 絶滅危惧 IB 類...IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの VU: 絶滅危惧 II 類...絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの NT: 準絶滅危惧...存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの DD: 情報不足...評価するだけの情報が不足している種 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群...地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
④	「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物」(鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年)の掲載種	EX: 絶滅...鳥取県では既に絶滅したと考えられる種 EW: 野生絶滅...野生では絶滅し、栽培下でのみ存続している種 CR+EN: 絶滅危惧 I 類...絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの VU: 絶滅危惧 II 類...絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの NT: 準絶滅危惧...存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの DD: 情報不足...評価するだけの情報が不足している種 OT: その他の保護上重要な種...鳥取県の地理的な自然特性等から保護上重要度の高い種
⑤	鳥取県条例:「鳥取県希少野生動植物の保護に関する条例」(平成 13 年 12 月 21 日鳥取県条例第 51 号)に基づく希少野生動植物等	鳥取県条例:「鳥取県希少野生動植物の保護に関する条例」(平成 13 年 12 月 21 日鳥取県条例第 51 号)に基づく希少野生動植物等

第 3.1-32 表(1) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類群	目名	科名	種名	確認市町			選定基準				
					鳥 取 市	三 朝 町	八 頭 町	①	②	③	④	⑤
1	哺乳類	モグラ目（食虫）	トガリネズミ	カワネズミ	○		○				NT	
2			モグラ	ミズラモグラ		○				NT	VU	希少
3		コウモリ（翼手）	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ	○		○				NT	
4				キクガシラコウモリ	○	○	○				DD	
5			ヒナコウモリ	ヤマコウモリ	○		○			VU	DD	
6				ユビナガコウモリ	○						NT	
7			オヒキコウモリ	オヒキコウモリ	○					VU	CR+EN	
8		サル（霊長）	オナガザル	ニホンザル	○	○	○				DD	
9		ネズミ（齧歯）	リス	ニホンリス	○	○	○			LP ^{□1}	NT	
10				ホンドモモンガ	○	○	○				NT ^{□2}	希少
11				ムササビ	○	○	○				NT	
12			ヤマネ	ヤマネ	○		○	天			VU	希少
13		ネコ（食肉）	クマ	ツキノワグマ	○	○	○			LP ^{□3}	VU	希少
14			イタチ	イタチ	○	○	○				NT ^{□4}	
15	鳥類	キジ	キジ	ウズラ	○					VU		
16		カモ	カモ	ヒシクイ	○			天		VU	VU	希少
17				マガン	○			天		NT	NT	
18				コハクチョウ	○		○				NT	
19				オオハクチョウ	○						VU	希少
20				ツクシガモ	○	○	○			VU	VU	希少
21				オシドリ	○	○	○			DD	NT	
22				ヨシガモ	○	○	○				NT	
23				トモエガモ	○	○	○			VU	VU	希少
24				シノリガモ	○						VU	希少
25				ホオジロガモ	○	○	○				NT	
26				ミコアイサ	○	○	○				NT	
27		コウノトリ	コウノトリ	コウノトリ	○			特天	国内	CR	EX	
28		カツオドリ	ウ	ヒメウ	○					EN		
29		ペリカン	サギ	ヨシゴイ	○					NT	NT	
30				ミゾゴイ	○	○	○			VU	CR+EN	
31				ササゴイ	○	○	○				NT	
32				チュウサギ	○	○	○			NT	NT	
33				クロサギ	○	○	○				NT	
34			トキ	ヘラサギ	○					DD	CR+EN	希少
35				クロツラヘラサギ	○					EN	CR+EN	希少

第 3.1-32 表(2) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類群	目名	科名	種名	確認市町			選定基準				
					鳥 取 市	三 朝 町	八 頭 町	①	②	③	④	⑤
36	鳥類	ツル	クイナ	シマクイナ	○					EN		
37				クイナ	○						NT	
38				ヒクイナ	○					NT		
39		ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	○	○	○			NT	VU	
40		チドリ	チドリ	タゲリ	○	○	○				NT	
41				イカルチドリ	○	○	○				NT	
42				シロチドリ	○		○			VU		
43			シギ	オオソリハシシギ	○					VU		
44				ホウロクシギ	○					VU		
45				ツルシギ	○					VU		
46				タカブシギ	○					VU		
47				ハマシギ	○					NT		
48			タマシギ	タマシギ	○					VU	DD	
49			カモメ	ワシカモメ	○						NT	
50				シロカモメ	○	○	○				NT	
51				コアジサシ	○		○			VU	CR+EN	特定
52			ウミスズメ	ウミスズメ	○					CR		
53		タカ	ミサゴ	ミサゴ	○	○	○			NT	NT	
54			タカ	ハチクマ	○	○	○			NT	NT	
55				オジロワシ	○			天	国内	VU	CR+EN	希少
56				オオワシ	○			天	国内	VU	CR+EN	希少
57				チュウヒ	○	○	○			EN	VU	希少
58				ハイイロチュウヒ	○	○	○				VU	希少
59				ツミ	○	○	○				NT	
60				ハイタカ	○	○	○			NT	NT	
61				オオタカ	○	○	○		国内	NT	NT	希少
62				サシバ	○	○	○			VU	VU	
63				ノスリ	○	○	○				NT	
64				イヌワシ	○	○	○	天	国内	EN	CR+EN	特定
65				クマタカ	○	○	○		国内	EN	CR+EN	特定
66		フクロウ	フクロウ	コノハズク	○	○	○				VU	希少
67				フクロウ	○	○	○				NT	
68				アオバズク	○	○	○				NT	
69				トラフズク	○						NT	
70				コミミズク	○		○				CR+EN	希少

第 3.1-32 表(3) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類群	目名	科名	種名	確認市町			選定基準				
					鳥 取 市	三 朝 町	八 頭 町	①	②	③	④	⑤
71	鳥類	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン	○	○	○				NT	
72				ヤマセミ	○	○	○				NT	
73			ブッポウソウ	ブッポウソウ	○	○	○			EN	CR+EN	特定
74		キツツキ	キツツキ	オオアカゲラ	○	○	○				NT	
75		ハヤブサ	ハヤブサ	コチョウゲンボウ	○	○	○				NT	
76				ハヤブサ	○	○	○		国内	VU	VU	希少
77		スズメ	ヤイロチョウ	ヤイロチョウ	○	○	○		国内	EN	CR+EN	希少
78			サンショウクイ	サンショウクイ	○	○	○			VU	NT	
79			カササギヒタキ	サンコウチョウ	○	○	○				NT	
80			モズ	アカモズ	○		○			EN		
81			カラス	ホシガラス	○	○	○				VU	希少
82			キクイタダキ	キクイタダキ	○	○	○				NT	
83			ツバメ	コシアカツバメ	○	○	○				VU	
84			ムシクイ	メボソムシクイ	○	○	○				CR+EN	
85				エゾムシクイ	○	○	○				DD	
86			セッカ	セッカ	○	○	○				NT	
87			ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	○	○	○				NT	
88			ヒタキ	マミジロ	○		○				NT	
89				トラツグミ	○	○	○				NT	
90				コマドリ	○	○	○				NT	
91				コルリ	○	○	○				NT	
92				ルリビタキ	○	○	○				DD	
93			イワヒバリ	カヤクグリ	○		○				CR+EN	希少
94			セキレイ	ビンズイ	○	○	○				NT	
95			アトリ	ベニヒワ	○	○	○				NT	
96			ホオジロ	ホオアカ	○		○				CR+EN	
97				ノジコ	○	○				NT		
98				クロジ	○		○				NT	
99	爬虫類	カメ	イシガメ	ニホンイシガメ	○		○			NT	NT	
100			スッポン	ニホンスッポン	○	○	○			DD	DD	
101		有鱗	タカチホヘビ	タカチホヘビ	○						DD	
102			ナミヘビ	シロマダラ	○		○				DD	
103	両生類	有尾	サンショウウオ	カスミサンショウウオ	○	○	○			VU	VU	希少
104				ブチサンショウウオ	○	○	○			NT	NT	
105				ヒダサンショウウオ	○	○	○			NT	NT	

第 3.1-32 表(4) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類群	目名	科名	種名	確認市町			選定基準				
					鳥 取 市	三 朝 町	八 頭 町	①	②	③	④	⑤
106	両生類	有尾	サンショウウオ	ハコネサンショウウオ	○	○	○				NT	
107			オオサンショウウオ	オオサンショウウオ	○	○	○	特天		VU	VU	希少
108			イモリ	アカハライモリ	○	○	○			NT	OT ^{□5}	
109		無尾	ヒキガエル	ニホンヒキガエル	○	○	○				OT	
110			アカガエル	ナガレタゴガエル	○						NT	
111				ニホンアカガエル	○		○				NT	
112				トノサマガエル	○	○	○			NT		
113			アオガエル	カジカガエル	○	○	○				OT	
114	昆虫類	トンボ (蜻蛉)	アオイトトンボ	コバネアオイトトンボ	○					EN	EX	希少
115			イトトンボ	アオモンイトトンボ	○	○					NT	
116				モートンイトトンボ	○					NT	DD	
117			カワトンボ	アオハダトンボ	○	○	○			NT	NT	
118				ニホンカワトンボ	○	○	○				OT	
119				アサヒナカワトンボ	○	○					OT	
120			ヤンマ	ネアカヨシヤンマ	○					NT	VU	希少
121				アオヤンマ	○	○				NT	VU	希少
122				ルリボシヤンマ	○	○	○				NT	
123			サナエトンボ	ヒロシマサナエ		○					VU	
124				ホンサナエ	○	○					NT	
125				オグマサナエ	○	○	○			NT	VU	
126			ムカシヤンマ	ムカシヤンマ	○	○	○				DD	
127			エゾトンボ	ハネヒロエゾトンボ	○					VU	VU	希少
128				エゾトンボ	○	○	○				NT	
129			トンボ	ハッチョウトンボ	○	○	○				VU	希少
130				コノシメトンボ	○	○					NT	
131				ナニワトンボ	○					VU	EX	希少
132				マイコアカネ	○						CR+EN	希少
133				ヒメアカネ	○	○					NT	
134		カマキリ (蟷螂)	カマキリ	ウスバカマキリ	○					DD	DD	
135		バッタ (直翅)	ヒバリモドキ	ハマスズ	○	○					NT	
136			バッタ	ヤマトマダラバッタ	○	○					NT	
137				カワラバッタ	○		○				EX	
138				ショウリョウバッタモドキ	○	○					NT	
139			イナゴ	ヤマトフキバッタ	○	○					OT ^{□6}	
140				セグロイナゴ	○	○					DD	

第 3.1-32 表(5) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類群	目名	科名	種名	確認市町			選定基準				
					鳥 取 市	三 朝 町	八 頭 町	①	②	③	④	⑤
141	昆虫類	カメムシ (半翅)	セミ	ヒメハルゼミ	○	○	○				NT	
142				ハルゼミ	○	○	○				NT	
143			キジラミ	エノキカイガラキジラミ	○					NT	DD	
144			サシガメ	ゴミアシナガサシガメ	○					VU	DD	
145			ハナカメムシ	ズイムシハナカメムシ	○					NT	DD	
146			ツチカメムシ	ハマベツチカメムシ	○						NT	
147			イトアメンボ	イトアメンボ	○					VU	DD	
148			ミズムシ	ホッケミズムシ	○					NT	DD	
149			コオイムシ	コオイムシ	○					NT	NT	
150				タガメ	○	○	○			VU	VU	希少
151			タイコウチ	ヒメミズカマキリ	○						DD	
152		アミメカゲロウ (脈翅)	ウスバカゲロウ	ハマベウスバカゲロウ	○						NT	希少
153		チョウ (鱗翅)	セセリチョウ	ホシチャバネセセリ	○					EN	CR+EN	希少
154				ギンイチモンジセセリ	○					NT	NT	
155				コキマダラセセリ	○	○	○				VU	希少
156			シジミチョウ	オナガシジミ	○		○				OT	
157				スギタニルリシジミ本州亜種	○	○					NT ^{□7}	
158				キシマミドリシジミ本州以南亜種	○	○					NT ^{□8}	
159				ヒサマツミドリシジミ	○	○	○				NT	
160				ヒロオビミドリシジミ	○	○	○				NT	
161				オオミドリシジミ	○	○					NT	
162				ウラジロミドリシジミ	○	○	○				NT	
163				ミヤマカラスシジミ	○	○					NT	
164				ウラナミアカシジミ	○	○	○				CR+EN	希少
165				ミドリシジミ	○	○					NT	
166				クロシジミ	○	○				EN	CR+EN	希少
167				ゴマシジミ中国・九州亜種		○				EN ^{※9}	VU ^{□10}	希少 ^{□10}
168				ヒメシジミ本州・九州亜種	○	○				NT	VU ^{□11}	希少 ^{□11}
169				キマダラルリツバメ	○	○	○			NT	NT	希少
170				シルビアシジミ	○					EN	CR+EN	希少
171			タテハチョウ	ウラギンスジヒョウモン	○	○				VU	CR+EN	希少
172				ヒメヒカゲ本州西部亜種	○	○				EN ^{※12}	CR+EN	希少
173				メスグロヒョウモン	○	○					CR+EN	希少
174				キマダラモドキ	○					NT	VU	希少

第 3.1-32 表(6) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類群	目名	科名	種名	確認市町			選定基準				
					鳥 取 市	三 朝 町	八 頭 町	①	②	③	④	⑤
175	昆虫類	チョウ（鱗翅）	タテハチョウ	ウスイロヒョウモンモドキ	○	○			国内	CR	CR+EN	特定
176				ヒョウモンモドキ	○	○	○		国内	CR	EX	
177				クモガタヒョウモン	○	○	○				VU	希少
178				ミスジチョウ	○	○	○				DD	
179				ホシミスジ	○						NT	
180				オオヒカゲ	○	○					NT	
181				シータテハ	○						EX	
182				オオムラサキ	○	○	○			NT	NT	
183				ウラナミジャノメ本土亜種	○		○			VU※ ¹³	CR+EN□ ¹⁴	
184			アゲハチョウ	ジャコウアゲハ本土亜種	○	○					NT□ ¹⁵	
185				ギフチョウ	○	○	○			VU	NT	
186			シロチョウ	ツマグロキチョウ	○	○	○			EN	NT	希少
187				スジボソヤマキチョウ	○	○	○				VU	
188			スズメガ	モンホソバズメ	○	○					DD	
189			ヤガ	コシロシタバ	○	○				NT	DD	
190				ヒメシロシタバ	○	○				NT		
191		ハエ（双翅）	アミカモドキ	ニホンアミカモドキ	○	○				VU	VU	希少
192			ニクバエ	ゴヘイニクバエ	○					VU	VU	
193		コウチュウ（鞘翅）	オサムシ	オオヒョウタンゴミムシ	○	○				NT	VU	希少
194			ハンミョウ	ハラビロハンミョウ	○		○			VU	CR+EN	希少
195				カワラハンミョウ	○		○			EN	VU	希少
196				アイヌハンミョウ		○				NT		
197				ホソハンミョウ	○					VU	VU	希少
198			ゲンゴロウ	クロゲンゴロウ	○					NT	VU	
199				ゲンゴロウ	○					VU	CR+EN	希少
200				コガタノゲンゴロウ	○	○				VU	CR+EN	特定
201				シマゲンゴロウ	○					NT		
202				ケシゲンゴロウ	○					NT		
203			ミズスマシ	オオミズスマシ	○					NT		
204				ミズスマシ	○					VU		
205			クワガタムシ	オオクワガタ	○					VU	VU	希少
206			コガネムシ	アカマダラハナムグリ			○			DD	DD□ ¹⁶	
207				ダイコクコガネ	○					VU	CR+EN	希少
208				オオチャイロハナムグリ	○					NT	NT	
209			ヒメドロムシ	ヨコミヅドロムシ	○		○			VU	NT	希少

第 3.1-32 表(7) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類群	目名	科名	種名	確認市町			選定基準				
					鳥 取 市	三 朝 町	八 頭 町	①	②	③	④	⑤
210	昆虫類	コウチュウ（鞘翅）	タマムシ	トオヤマシラホシナガタマムシ	○						DD	
211			ジョウカイボン	ジョウカイボン	○	○					OT	
212			ホタル	ヒメボタル	○						DD	
213			カミキリムシ	アカネキスジトラカミキリ	○						DD	
214				クロサワヘリグロハナカミキリ	○						DD	
215				シラユキヒメハナカミキリ	○						OT	
216			ハムシ	キヌツヤミズクサハムシ	○						VU ^{□17}	希少 ^{※17}
217		ハチ（膜翅）	アリ	ツノアカヤマアリ	○	○				DD		
218				トゲアリ	○					VU		
219			ドロバチモドキ	ニッポンハナダカバチ	○					VU	VU	希少
220			アナバチ	フクイアナバチ	○	○	○			NT	DD	
221			ハキリバチ	キヌゲハキリバチ	○						NT ^{※18}	
222				キバラハキリバチ	○					NT	DD	
223	魚類	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ南方種	○	○	○			VU	VU ^{□19}	
224				カワヤツメ	○	○	○			VU	DD	
225		ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	○	○	○			EN		
226		コイ	コイ	ヤリタナゴ	○	○	○			NT	NT	
227				ミナミアカヒレタビラ	○					CR	CR+EN	希少
228				ニッポンバラタナゴ	○					CR		
229			ドジョウ	ドジョウ	○	○	○			DD		
230				サンインコガタスジシマドジョウ	○	○	○			EN	NT ^{□20}	
231				ナガレホトケドジョウ	○					EN	CR+EN	
232		ナマズ	アカザ	アカザ		○				VU	CR+EN	
233		サケ	キュウリウオ	ワカサギ	○	○					NT	
234			サケ	ニッコウイワナ	○	○	○			DD	NT	
235				ゴギ	○	○	○			VU	VU	
236				アメマス類	○	○	○			DD	NT	
237				サクラマス	○	○	○			NT	NT ^{□21}	
238				サクラマス（ヤマメ）	○	○	○			NT	NT ^{※21}	
239				サツキマス	○					NT		
240				サツキマス（アマゴ）	○	○	○			NT		
241		ダツ	メダカ	メダカ類	○	○	○			VU ^{※22}	VU ^{※22}	
242			サヨリ	クルメサヨリ	○					NT		

第 3.1-32 表(8) 文献その他の資料による動物の重要な種

No.	分類群	目名	科名	種名	確認市町			選定基準				
					鳥 取 市	三 朝 町	八 頭 町	①	②	③	④	⑤
243	魚類	トゲウオ	トゲウオ	ニホンイトヨ	○					LP※23	CR+EN※24	
244		カサゴ	カジカ	カマキリ	○	○	○			VU	NT□25	
245				カジカ	○	○	○			NT□26	VU※26	
246		スズキ	カワアナゴ	カワアナゴ	○						NT	
247			ハゼ	シロウオ	○					VU		
248				オオヨシノボリ	○		○				NT	
249	底生動物	原始紐舌	タニシ	マルタニシ						VU	NT	
250				オオタニシ	○	○	○			NT	NT	
251		基眼	モノアラガイ	モノアラガイ	○	○				NT	NT	
252		イシガイ	イシガイ	タガイ	○						VU	
253				カラスガイ		○				NT	CR+EN	特定
254		マルスダレガイ	シジミ	イシガイ		○					NT	
255				マシジミ	○					VU	NT	
合計	7 類	45 目	119 科	255 種	246 種	149 種	131 種	8 種	10 種	140 種	226 種	66 種

注：1. 哺乳類、爬虫類、両生類、昆虫類及び魚類の種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト」（河川環境データベース 国土交通省、平成 28 年）、鳥類の種名は、「日本鳥類目録 改訂第 7 版」（日本鳥学会、平成 24 年）に準拠した。

2. 選定基準は、第 3.1-31 表に対応する。各選定基準の原記載は次のとおりである。

※1：中国地方のニホンリスで掲載、※2：ニホンモモンガで掲載、※3：東中国地域のツキノワグマで掲載、※4：ニホンイタチで掲載、※5：アカハライモリ（イモリ）で掲載、※6：セトウチフキバツタで掲載、※7：スギタニルシジミで掲載、※8：キシマミドリシジミで掲載、※9：ゴマシジミ中国地方・九州亜種で掲載、※10：ゴマシジミで掲載、※11：ヒメシジミで掲載、※12：ヒメヒカゲ本州中部・近畿・中国地方亜種で掲載、※13：ウラナミジャノメ日本本土亜種で掲載、※14：ウラナミジャノメで掲載、※15：ジャコウアゲハで掲載、※16：アカマダラハナムグリ（アカマダラコガネ）で掲載、※17：スゲハムシで掲載、※18：コウベキヌゲハキリバチで掲載、※19：スナヤツメで掲載、※20：スジシマドジョウ種群小型種山陰型で掲載、※21：ヤマメ・サクラマスで掲載、※22：メダカで掲載、※23：本州のイトヨ日本海型で掲載、※24：イトヨ日本海型で掲載、※25：アユカケで掲載、※26：カジカ大卵型で掲載

3. アメマス類は、「ニッコウイワナ」である可能性が、メダカ類は、「ミナミメダカ」である可能性があるため、重要種として扱った。

4. ホトケドジョウは、鳥取県 RDB 改訂時に「ナガレホトケドジョウ」の誤同定であるとされ除外された。ただし、元となる記載文献が不明なため、リストには残し、重要種の対象から除外した。

5. コイ、ゲンゴロウブナ、ワタカ、ハス、カワヒガイ、デメモロコ（以上魚類）、マルドブガイ（以上底生動物）は、当該水域では国内外来種にあたるため、重要種の対象から除外した。

(3) 動物の注目すべき生息地

動物の注目すべき生息地としては、「鳥取のすぐれた自然 動物編」(平成 5 年、鳥取)より事業実施想定区域の南西側に位置する高鉢山・高山・三滝溪及び南側に位置する鷲峰山の 2 ヶ所が挙げられる。高鉢山・高山・三滝溪は、イヌワシの営巣地として著名でオシドリ、ヤマセミの繁殖地、クマタカ、ゴジュウカラ等の鳥類の生息地、ギフチョウ、ヒサマツミドリシジミ等の昆虫類の生息地となっている。鷲峰山は、ゴジュウカラ、ツツドリ、ウソ等の鳥類、ヒバカリ、モリアオガエル等の爬虫類・両生類、ギフチョウ、ニホンカワトンボ等の昆虫類も確認されており、キリシマミドリシジミは県内の数少ない産地の一つとなっている。

第 3.1-33 表 天然記念物（動物関係）

指定	名称	指定年月日	所在地
国	イヌワシ	昭和 40 年 5 月 12 日	地域を定めず

〔「とっとり文化財ナビ」(鳥取県 HP、閲覧：平成 29 年 7 月)
より作成〕

2. 植物の生育及び植生の状況

植物相及び植生の状況は、当該地域の自然特性を勘案し、事業実施想定区域及びその周囲を対象に、文献その他の資料（「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物」（鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年）、鳥取市（鳥取市、旧福部村、旧国府町、旧気高町、旧青谷町、旧鹿野町、旧佐治村、旧河原町、旧用瀬町）、八頭町（旧郡家町、旧船岡町）、三朝町の各町史等）により整理した。

また、「自然環境保全基礎調査 植生調査」については、事業実施想定区域が含まれる 2 次メッシュとして「浜村」及び「鹿野」「岩坪」「鳥取北部」「鳥取南部」「用瀬」を対象とした。調査範囲は第 3.1-20 図のとおりである。

(1) 植物相の概要

事業実施想定区域及びその周囲の植物相の概要は第 3.1-34 表のとおりであり、維管束植物（シダ植物及び種子植物）1,190 種が確認されている。

第 3.1-34 表 植物の概要

分 類				主な確認種	
シダ植物				ミズスギ、カタヒバ、ミズニラ、スギナ、オオハナワラビ、ヤマドリゼンマイ、オオキジノオ、コシダ、カニクサ、ハイホラゴケ等 (22 科 148 種)	
種 子 植 物	裸子植物			イチヨウ、モミ、スギ、ヒノキ、イヌマキ、イヌガヤ、イチイ等 (7 科 19 種)	
	被 子 植 物	双 子 葉 類	離 弁 花 類	オニグルミ、アカメヤナギ、ヤシャブシ、クリ、ムクノキ、ヒメコウゾ、ヤブマオ、ツクバネ、ヒノキバヤドリギ、ミズヒキ等 (79 科 520 種)	
			合 弁 花 類	イワカガミ、リョウブ、ウメガサソウ、ペニドウドン、マンリョウ、オカトラノオ、リュウキュウマメガキ、エゴノキ、タンナサワフタギ、アオダモ等 (33 科 272 種)	
			単 子 葉 類		ヘラオモダカ、オオカナダモ、エビモ、ホンゴウソウ、ノギラン、ヒガンバナ、ヤマノイモ、コナギ、ヒオウギ、ハナビゼキシヨウ等 (21 科 231 種)
合 計				162 科 1,190 種	

「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物-」
 （鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年）
 「新修 鳥取市史」（鳥取市、昭和 58 年）
 「国府町誌」（国府町、昭和 62 年）
 「新編 福部村誌 下巻」（福部村、平成 12 年）
 「河原町誌」（河原町役場、昭和 61 年）
 「用瀬町誌」（用瀬町、昭和 48 年）
 「新修 気高町誌」（鳥取市、平成 18 年）
 「鹿野町誌 上巻」（鹿野町、平成 4 年）
 「青谷町誌」（青谷町、昭和 59 年）
 「新編 郡家町誌」（八頭町、平成 18 年）
 「新 船岡町誌」（船岡町、平成 14 年）
 「新修 三朝町史」（三朝町、平成 21 年）
 「鳥取県のすぐれた自然 植物編」（鳥取県、平成 5 年）
 「鳥取県立博物館研究報告 第 18 号 鳥取県のスマレ」（鳥取県立博物館、昭和 56 年）

「鳥取県立博物館研究報告 第 37・38 合併号 鳥取県三朝町内に依存するミツガシワ湿原の植生」
 (鳥取県立博物館、平成 13 年)
 「鳥取県立博物館研究報告 第 49 号 鳥取県において新たに分布が確認された 5 種の植物」
 (鳥取県立博物館、平成 24 年)
 「鳥取県立博物館研究報告 第 52・53 号 鳥取県におけるヒノキバヤドリギの初記録」
 (鳥取県立博物館、平成 28 年)
 「千代川の自然」(藤島弘純、平成 6 年)
 「三徳山の植生永遠に」(鳥取県三朝町教育委員会、平成 22 年)

より作成

(2) 植生の概要

事業実施想定区域及びその周囲の現存植生図は第 3.1-26 図のとおりである。

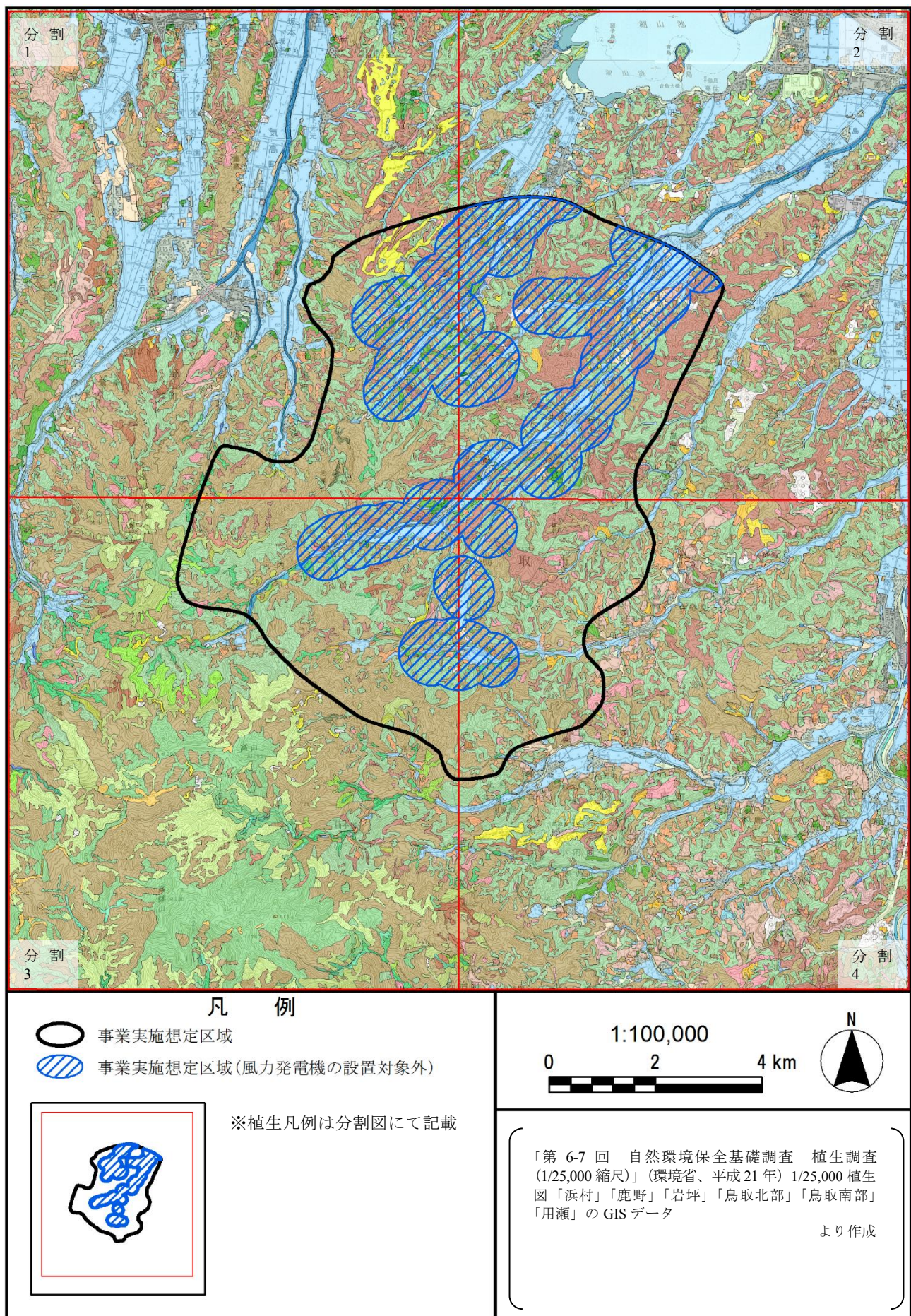
山斜面には植林、耕作地植生のスギ・ヒノキ・サワラ植林、アカマツ植林などが主に分布しているが、代償植生のコナラ群落（Ⅶ）も多く見られる。また、牧草地が点在しており、ゴルフ場・芝生も見られる。

谷底平野の平坦地や緩傾斜地は主に耕作地として利用されており、市街地等の分布は北側に集中している。

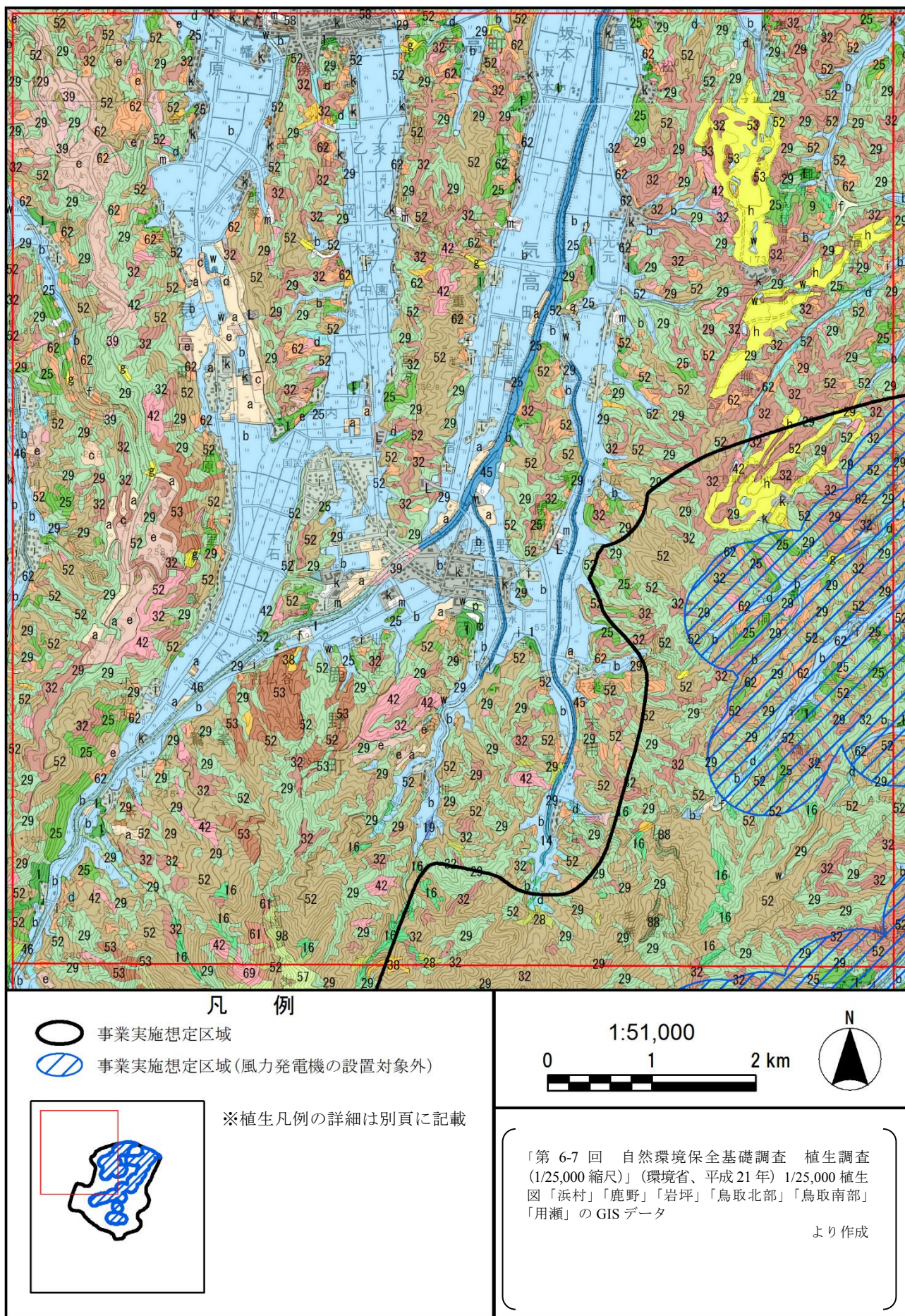
事業実施想定区域西側の鷲峰山頂付近には、自然植生のクロモジブナ群集、ブナミズナラ群落、コナラ群落（Ⅴ）、ケヤキ群落（Ⅵ）が分布しており、伐採跡地群落（Ⅴ）、伐採跡地群落（Ⅶ）も一部に分布している。

事業実施想定区域南西側の高鉢山一帯は、ブナクラス域自然植生が主となっており、クロモジブナ群集やブナミズナラ群落が広く分布し、イヌシデアカシデ群落、ササ群落（Ⅴ）、ジュウモンジーサワグルミ群集、アカマツ群落（Ⅴ）が点在している。その他にも、植林地であるスギ・ヒノキ・サワラ植林も広く分布している。

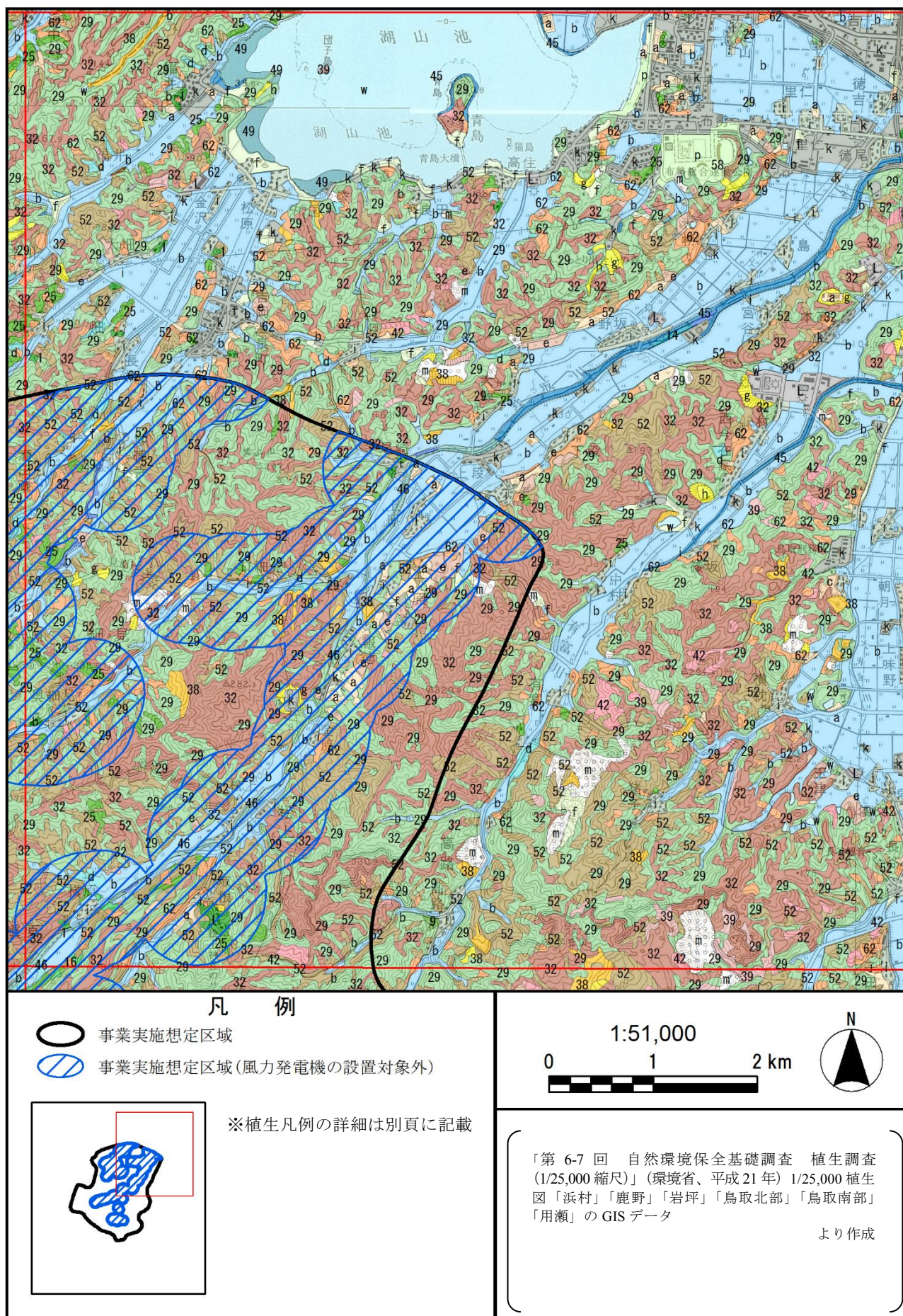
事業実施想定区域にはヤブツバキクラス域代償植生のアカマツ群落（Ⅶ）、コナラ群落（Ⅶ）や、植林地、耕作地植生であるスギ・ヒノキ・サワラ植林、水田雑草群落が多く分布する。また、小面積ではあるが、自然植生のスダジイ群落、ケヤキ群落（Ⅵ）が点在している。



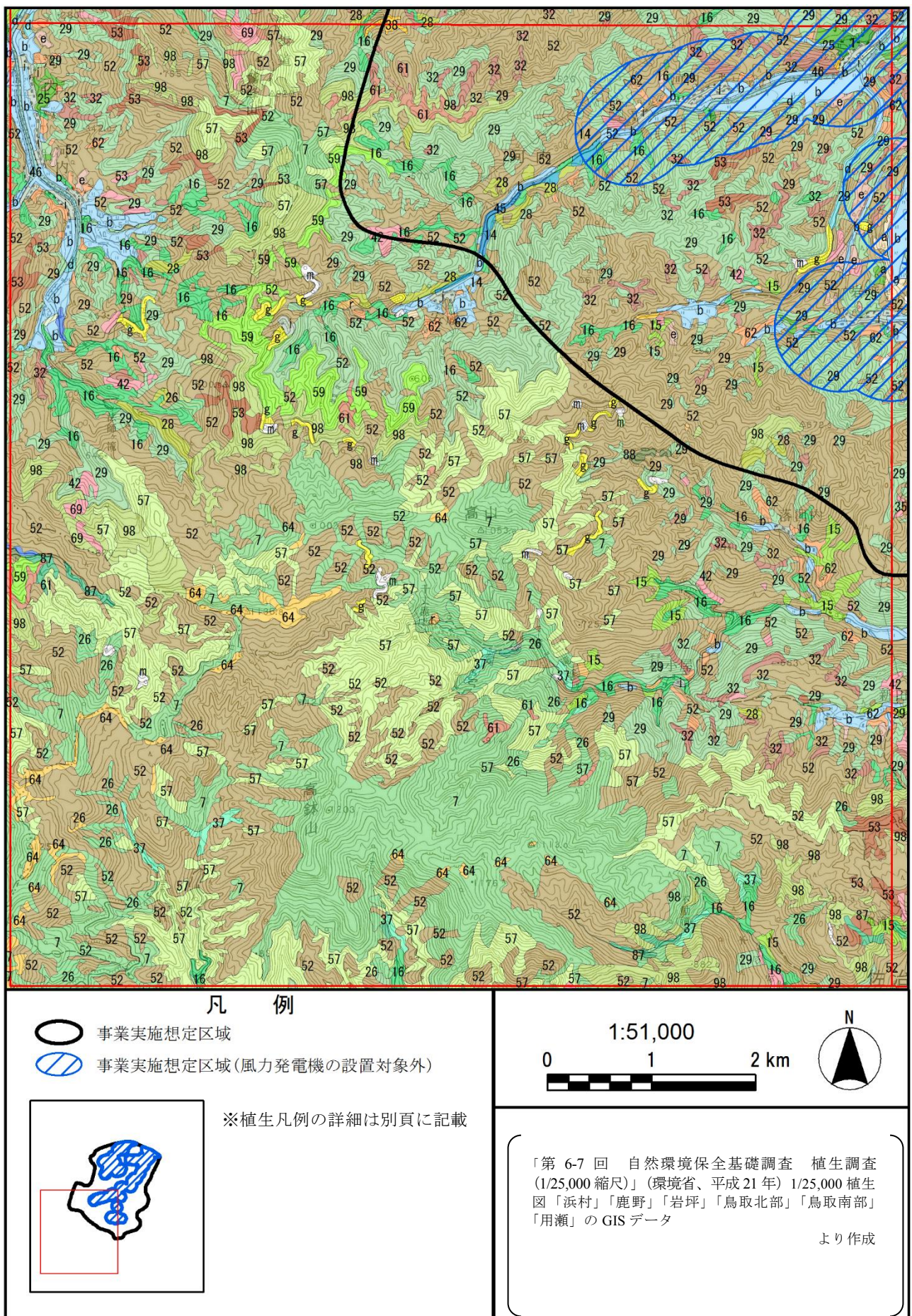
第 3.1-26 図(1) 文献その他の資料調査による現存植生図(全体)



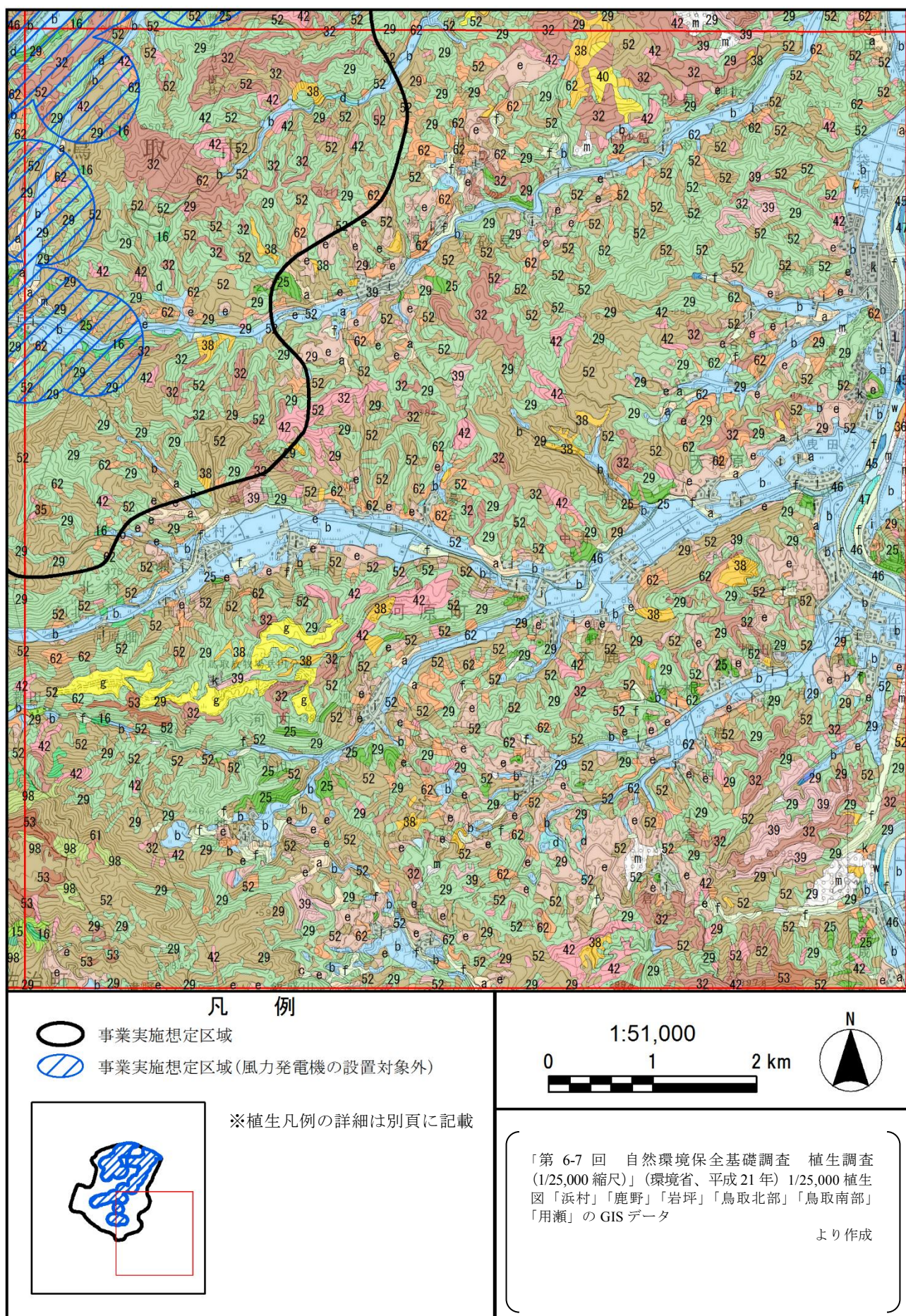
第 3.1-26 図(2) 文献その他の資料調査による現存植生図(分割 1)



第 3.1-26 図(3) 文献その他の資料調査による現存植生図(分割 2)



第 3.1-26 図(4) 文献その他の資料調査による現存植生図(分割 3)



第 3.1-26 図(5) 文献その他の資料調査による現存植生図(分割 4)

第 3.1-35 表 文献その他の資料調査による現存植生図(凡例)

植生区分	図中 No.	凡例名	統一凡例 No.
ブナクラス域自然植生	 7	クロモジブナ群集	110104
	 26	イヌシデーアカシデ群集	130401
	 37	ジュウモンジシダーサワグルミ群集	160101
	 87	ケヤキ群落 (IV)	160400
ブナクラス域代償植生	 57	ブナーミズナラ群落	220100
	 98	クリーミズナラ群集	220102
	 59	コナラ群落 (V)	220500
	 61	アカマツ群落 (V)	230100
	 64	ササ群落 (V)	250100
	 69	伐採跡地群落 (V)	260000
ヤブツバキクラス域自然植生	 1	スダジイ群落	271200
	 9	タブノキ群落	271600
	 16	ケヤキ群落 (VI)	300100
	 15	イヌシデーアカシデ群落 (VI)	300401
	 19	ヤナギ高木群落 (VI)	320100
	 14	ヤナギ低木群落 (VI)	320200
ヤブツバキクラス域代償植生	 25	シイ・カシ二次林	400100
	 29	コナラ群落 (VII)	410100
	 28	アカシデーイヌシデ群落 (VII)	410400
	 32	アカマツ群落 (VII)	420100
	 35	タケ・ササ群落	430000
	 36	メダケ群落	430200
	 38	低木群落	440000
	 39	クズ群落	440200
	 40	ススキ群団 (VII)	450100
	 42	伐採跡地群落 (VII)	460000
河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等	 45	ヨシクラス	470400
	 46	ツルヨシ群集	470501
	 47	オギ群集	470502
	 49	ヒルムシロクラス	470600
植林地、耕作地植生	 52	スギ・ヒノキ・サワラ植林	540100
	 53	アカマツ植林	540200
	 54	クロマツ植林	540300
	 58	その他植林	541000
	 88	オオバヤシャブシ植林	541203
	 62	竹林	550000
	 h	ゴルフ場・芝地	560100
	 g	牧草地	560200
	 f	路傍・空地雑草群落	570100
	 c	放棄畑雑草群落	570101
	 e	果樹園	570200
	 a	畑雑草群落	570300
	 b	水田雑草群落	570400
	 d	放棄水田雑草群落	570500
その他	 k	市街地	580100
	 i	緑の多い住宅地	580101
	 p	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	580200
	 l	工場地帯	580300
	 m	造成地	580400
	 w	開放水域	580600
	r	自然裸地	580700

注：1.図中 No.は現存植生図内の番号に対応する。

2.統一凡例番号とは、「生物多様性情報システム自然環境保全基礎調査 植生調査（植生自然度調査）」（環境省 HP）の 1/25,000 に示される 6 桁統一凡例番号（凡例コード）である。

(3) 植物の重要な種及び重要な群落

植物の重要な種及び重要な群落の選定基準を第 3.1-36 表のとおりである。

また、文献その他の資料により確認された植物の重要な種を第 3.1-37 表に、重要な植物群落及びその分布位置を第 3.1-38 表及び第 3.1-27 図のとおりである。

事業実施想定区域及びその周囲では、ミズスギ、コバノチョウセンエノキ、ジュンサイ、アサノハカエデ、イワウチワ、ヤマザトタンポポ、マルバオモダカ、オオミクリ等の 219 種の重要な植物種が確認されている。また、重要な植物群落では、「第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（環境庁、平成 12 年）によると、事業実施想定区域の周辺環境には、4 つの特定植物群落が分布している。事業実施想定区域の南側に権現の森（アサダーヤブツバキ群落）が存在するほか、南西側の三滝溪谷のブナ林、西側の高鉢山北谷の自然林、北側の湖山池の傍には日吉神社のスダジイ林がある。なお、事業実施想定区域内に特定植物群落は分布していない。

第 3.1-36 表(1) 植物の重要な種及び重要な群落の選定基準

選定基準			文献その他の資料	重要な種	重要な群落
①	「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号、最終改正：平成 26 年法律第 69 号）に基づく天然記念物 「鳥取県文化財保護条例」（昭和 34 年鳥取県条例第 50 号）及び「鳥取市文化財保護条例」（昭和 48 年鳥取市条例第 2 号）、「三朝町文化財保護条例」（昭和 48 年三朝町条例第 20 号）、「八頭町文化財保護条例」（平成 17 年八頭町条例第 94 号）に基づく指定文化財	特天：国指定特別天然記念物 天：国指定天然記念物	「国指定文化財等データベース」（文化庁 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）、「とっとり文化財ナビ」（鳥取県 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）	○	○
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年法律第 75 号、最終改正：平成 26 年法律第 69 号）に基づく国内希少野生動物等	国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」（平成 5 年 政令第 17 号）	○	

第 3.1-36 表(2) 植物の重要な種及び重要な群落の選定基準

選定基準			文献その他の資料	重要な種	重要な群落
③	「環境省レッドリスト 2017」 (環境省、平成 29 年) の掲載種	EX：絶滅・・・我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW：野生絶滅・・・飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種 CR+EN：絶滅危惧種 I 類・・・絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの CR：絶滅危惧 IA 類・・・ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの EN：絶滅危惧 IB 類・・・IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの VU：絶滅危惧 II 類・・・絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの NT：準絶滅危惧・・・存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの DD：情報不足・・・評価するだけの情報が不足している種 LP：絶滅のおそれのある地域個体群・・・地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの	「環境省レッドリスト 2017」の公表について」 (環境省報道発表資料、平成 29 年)	○	
④	「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物」(鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年) の掲載種	EX：絶滅・・・鳥取県では既に絶滅したと考えられる種 EW：野生絶滅・・・野生では絶滅し、栽培下でのみ存続している種 CR+EN：絶滅危惧 I 類・・・絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの VU：絶滅危惧 II 類・・・絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの NT：準絶滅危惧・・・存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの DD：情報不足・・・評価するだけの情報が不足している種 OT：その他の保護上重要な種・・・鳥取県の地理的な自然特性等から保護上重要度の高い種	「レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物」(鳥取県生活環境部公園自然課、平成 24 年)	○	

第 3.1-36 表 (3) 植物の重要な種及び重要な群落の選定基準

選定基準			文献その他の資料	重要な種	重要な群落
⑤	鳥取県条例：「鳥取県希少野生動植物の保護に関する条例」（平成 13 年 12 月 21 日鳥取県条例第 51 号）に基づく希少野生動植物等	特定：特定希少野生動植物・・・希少野生動植物のうち、特に保護を図る必要があるものとして第 4 条の規定により知事が指定する種に該当するものをいう。 希少：希少野生動植物・・・県内に生息し、又は生育する動植物の種（亜種又は変種がある種にあつては、その亜種又は変種とする。以下同じ。）のうち、次の各号のいずれかに該当するものとして知事が公告する種に該当するものをいう。 (1) 種の存続に支障を来す程度にその個体の数が著しく少ない野生動植物の種 (2) その個体の数が著しく減少しつつある野生動植物の種 (3) その個体の主要な生息地又は生育地が消滅しつつある野生動植物の種 (4) その個体の生息又は生育の環境が著しく悪化しつつある野生動植物の種	鳥取県条例：「鳥取県希少野生動植物の保護に関する条例」（平成 13 年 12 月 21 日鳥取県条例第 51 号）に基づく希少野生動植物等	○	
⑥	「第 2 回 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（環境庁、昭和 54 年）「第 3 回 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（環境庁、昭和 63 年）「第 5 回 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（環境庁、平成 12 年）に掲載されている特定植物群落	A：原生林もしくはそれに近い自然林 B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群 C：比較的普通に見られるものであつても、南限・北限・隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群 D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であつても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの G：乱獲、その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群 H：その他、学術上重要な植物群落	「第 2 回 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（環境庁、昭和 54 年）「第 3 回 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（環境庁、昭和 63 年）「第 5 回 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（環境庁、平成 12 年）		○
⑦	「植物群落レッドデータ・ブック」（NACS-J,WWF Japan、平成 8 年）に掲載の植物群落	4：緊急に対策必要 3：対策必要 2：破壊の危機 1：要注意	「植物群落レッドデータ・ブック」（NACS-J,WWF Japan、平成 8 年）		○

第 3.1-37 表(1) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	確認市町			選定基準				
				鳥取市	三朝市	八頭町	①	②	③	④	⑤
1	シダ植物	ヒカゲノカズラ	ミズスギ	○		○				VU	
2			スギラン		○				VU	CR+EN	特定
3			マンネシスギ	○						VU	
4		イワヒバ	カタヒバ	○	○	○				NT	
5			ヒモカズラ		○					VU	希少
6			イワヒバ	○	○					NT	
7		ミズニラ	ミズニラ	○					NT	VU	希少
8		ハナヤスリ	コヒロハハナヤスリ	○						VU	
9		コバノイシカグマ	オウレンシダ	○						VU	希少※1
10			オオフジシダ	○		○				NT	
11			フジシダ			○				VU	
12		シノブ	シノブ	○	○	○				NT	
13		ミズワラビ	ハコネシダ		○					CR+EN	希少
14		シシラン	タキミシダ	○					EN	CR+EN	特定
15		チャセンシダ	ヌリトラノオ	○		○				NT	
16			カミガモシダ	○		○				NT	
17		シシガシラ	オサシダ	○	○					NT	
18			ミヤマシシガシラ	○	○	○				VU	希少
19		オシダ	ミヤコヤブソテツ	○						VU	希少
20			ヒロハヤブソテツ		○					CR+EN	希少
21			ハチジョウベニシダ	○						NT	
22			キヨズミオオクジャク	○						VU	希少※2
23			ナガバノイタチシダ			○				VU	希少
24			ツルデンダ	○	○	○				VU	
25		メシダ	ミヤコイヌワラビ			○				VU	
26			シマイヌワラビ	○					CR	CR+EN	希少
27			イッポンワラビ	○						CR+EN	希少
28			ハコネシケチシダ			○				VU	
29			イワヤシダ	○	○					NT	
30			フクロシダ	○	○	○				VU	
31			イワデンダ	○	○	○				NT	
32	シダ植物	ウラボシ	クラガリシダ		○				EN	EX	
33			ホテイシダ			○				VU	希少
34			サジラン	○	○					NT	
35			クリハラン	○		○				NT	希少
36			アオネカズラ	○		○				VU	希少
37			ビロードシダ	○	○	○				VU	希少
38	裸子植物	マツ	ツガ			○				NT	
39		イチイ	イチイ	○						OT	
40	離弁花類	ニレ	コバノチョウセンエノキ	○						VU	
41		ビャクダン	ツクバネ	○		○				NT	
42		タデ	ハルトラノオ	○						NT	
43			ナガバノウナギツカミ	○	○				NT		
44			ノダイオウ	○		○			VU	VU	希少
45		ナデシコ	エゾカワラナデシコ		○					VU	特定

第 3. 1-37 表 (2) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	確認市町			選定基準				
				鳥取市	三朝市	八頭町	①	②	③	④	⑤
46	離弁花類	キンポウゲ	ユキワリイチゲ	○		○				VU	希少
47			キクザキイチゲ	○		○				NT	
48			アズマイチゲ	○	○	○				NT	
49			リュウキンカ	○	○					VU	希少
50			トリガタハンショウヅル	○						VU	希少
51			バイカオウレン	○						VU	希少
52			サンインシロカネソウ	○	○	○				OT	
53			ミスミソウ	○	○				NT	VU	希少
54			オキナグサ		○				VU	VU	特定
55			バイカモ	○		○				CR+EN	
56			モミジカラマツ		○					CR+EN	希少
57		メギ	サンカヨウ	○	○	○				NT	
58		スイレン	ジュンサイ		○					VU	希少
59			コウホネ	○						NT	
60			ヒツジグサ	○		○				NT	
61		ドクダミ	ハンゲショウ	○		○				NT	
62		ウマノスズクサ	マルバウマノスズクサ	○					VU	VU	希少
63			フタバアオイ	○	○					NT	
64			ウスバサイシン	○	○	○				NT	
65			ミヤマアオイ	○					VU		
66		ボタン	ヤマシャクヤク	○	○	○			NT	NT	
67		ツバキ	ハマヒサカキ	○						NT	
68		オトギリソウ	ダイセンオトギリ		○					OT	
69		アブラナ	コイヌガラシ	○					NT	NT	
70		ベンケイソウ	ミツバベンケイソウ		○					NT	
71			メノマンネングサ	○	○	○				NT	
72			アズマツメクサ	○					NT	CR+EN	
73		ユキノシタ	オオシラヒゲソウ	○	○	○				VU	特定
74			ウメバチソウ	○						NT	
75			バイカウツギ	○	○					NT	
76			ヤシャビシヤク	○	○	○			NT	NT	
77		バラ	オニシモツケ	○	○	○				NT	
78			オオウラジロノキ	○	○	○				NT	
79			イスザクラ	○	○					NT	
80			リンボク	○	○	○				VU	希少
81			ハマナス	○						VU	希少
82			ハスノハイチゴ			○			NT		
83			イワガサ		○					VU	特定
84		マメ	フジキ	○		○				VU	希少
85		カタバミ	ヒョウノセンカタバミ	○	○	○				OT	
86		ハマビシ	ハマビシ	○					EN		
87		トウダイグサ	ナツトウダイ	○	○					NT	
88		ミカン	コクサギ	○		○				NT	
89			フユザンショウ	○	○	○				NT	
90		カエデ	アサノハカエデ	○	○	○				NT	
91			メグスリノキ		○					VU	希少
92			ヒナウチワカエデ			○				VU	
93		クロウメモドキ	ヨコグラノキ		○					VU	希少
94		ジンチョウゲ	コショウノキ	○						VU	希少

第 3. 1-37 表 (3) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	確認市町			選定基準				
				鳥取市	三朝市	八頭町	①	②	③	④	⑤
95	離弁花類	グミ	マメグミ	○	○	○				VU	
96		スマレ	ツルタチツボスマレ	○	○	○				NT	
97			アカネスミレ	○	○	○				NT	
98			イソスマレ	○					VU	VU	
99			ヒゴスマレ	○	○	○				NT	
100		ウリ	ミヤマニガウリ			○				NT	
101		ミソハギ	エゾミソハギ		○					NT	
102		ヒシ	ヒメビシ	○					VU		
103		アカバナ	エゾミズタマソウ	○	○	○			VU	CR+EN	
104		ミズキ	ゴゼンタチバナ		○					CR+EN	特定
105		セリ	オオハナウド	○	○	○				NT	
106	合弁花類	イワウメ	イワウチワ	○	○					NT	
107		ツツジ	ベニドウダン		○					VU	希少
108			ダイセンミツバツツジ	○	○	○				OT	
109			バイカツツジ	○						NT	
110			アラゲナツハゼ	○						VU	
111		カキノキ	リュウキュウマメガキ	○		○				NT	
112		マチン	ホウライカズラ	○						VU	希少
113		ミツガシワ	ミツガシワ	○	○					VU	希少
114		ガガイモ	フナバラソウ	○					VU	VU	希少
115			スズサイコ	○	○				NT	VU	希少
116		アカネ科	ホソバオオアリドオシ	○	○					NT※3	
117			オオバノヨツバムグラ	○	○	○				NT	
118			キヌタソウ		○					NT	
119			サツマイナモリ	○	○					NT	
120		ヒルガオ	マメダオシ	○					CR		
121		ムラサキ	スナビキソウ	○						NT	
122		シソ	ジュウニヒトエ		○					VU	
123			ジャコウソウ	○	○	○				NT	
124			ミカエリソウ			○				CR+EN	希少
125			タジマタムラソウ	○		○			VU	NT	希少
126			ヒメナミキ	○						VU	
127			ナミキソウ	○						NT	
128		ナス	アオホオズキ			○			VU	VU	
129		ゴマノハグサ	マルバノサワトウガラシ	○	○	○			VU	NT	希少
130			キュウシュウコゴメグサ		○					OT	
131			スズメハコベ	○					VU	CR+EN	希少
132			オオバミゾホオズキ	○		○				CR+EN	希少
133			サンインクワガタ	○	○	○				OT	
134			カワヂシャ	○		○			NT	NT	
135			ナンゴククガイソウ	○	○				VU	NT	
136		イワタバコ	シシンラン		○				VU	CR+EN	特定
137			イワギリソウ	○					VU	VU	特定
138		ハマウツボ	ナンバンギセル			○				NT	
139			オオナンバンギセル		○					VU	
140			ハマウツボ	○					VU	VU	
141		タヌキモ	コウシンソウ	○					VU		
142			イヌタヌキモ	○		○			NT	VU	希少

第 3. 1-37 表 (4) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	確認市町			選定基準				
				鳥取市	三朝市	八頭町	①	②	③	④	⑤
143	合弁花類	スイカズラ	ダイセンヒョウタンボク		○					OT	
144			カンボク		○					NT	
145		マツムシソウ	マツムシソウ		○					NT	希少
146		キキョウ	サワギキョウ	○	○	○				NT	
147			キキョウ	○	○				VU	NT	
148		キク	チョウジギク	○	○	○				VU	希少
149			ウスゲタマブキ		○					NT	
150			シマカンギク	○						OT	
151			ワカサハマギク	○					NT	VU	希少
152			フジバカマ	○					NT	EW	希少
153			ハマベノギク	○						NT	
154			カセンソウ	○	○					NT	
155			メタカラコウ		○					VU	希少
156			ヒメヒゴタイ		○				VU	CR+EN	希少
157			コウリンカ		○				VU	CR+EN	
158			ヤマザトタンポポ	○	○	○			NT	NT	
159			カンサイタンポポ	○		○				NT	
160			クシバタンポポ	○						NT	
161			オナモミ	○		○			VU		
162	単子葉植物	オモダカ	マルバオモダカ	○					VU	CR+EN	希少
163			アギナシ	○	○				NT	VU	希少
164		トチカガミ	ミズオオバコ	○					VU	CR+EN	希少
165		ヒルムシロ	カワツルモ	○					NT	CR+EN	希少
166		ホンゴウソウ	ホンゴウソウ	○					VU	CR+EN	
167		ユリ	カタクリ	○						NT	希少
168			キバナノアマナ	○		○				VU	希少
169			タケシマラン	○	○	○				VU	希少
170			ハナゼキショウ	○						CR+EN	特定
171			タマガワホトトギス		○					VU	特定
172			バイケイソウ	○	○					NT	
173		ヒガンバナ	オオキツネノカミソリ	○	○	○				NT	
174		アヤメ	ヒオウギ	○						NT	
175			ノハナショウブ		○					NT	
176			カキツバタ	○					NT	NT	
177		イネ	イワタケソウ	○		○				NT	
178		サトイモ	ウラシマソウ	○		○				NT	
179			ザゼンソウ	○	○	○				NT	
180		ミクリ	オオミクリ	○					VU		
181			ミクリ	○		○			NT	NT	希少
182			ナガエミクリ	○		○			NT	VU	希少
183			ヒメミクリ	○					VU	CR+EN	希少
184		カヤツリグサ	ウキヤガラ	○		○				NT ^{※4}	
185			エゾウキヤガラ	○						NT	
186			ダイセンスゲ	○	○	○				OT	
187			オニスゲ		○					NT	
188			ケスゲ	○						DD	
189			ヒロバスゲ	○						VU	
190			サンインヒエスゲ	○						NT	
191			サツマスゲ	○						VU	希少

第 3.1-37 表 (5) 文献その他の資料による植物の重要な種

No.	分類	科名	種名	確認市町			選定基準				
				鳥取市	三朝市	八頭町	①	②	③	④	⑤
192	単子葉植物	カヤツリグサ	オタルスゲ	○	○	○				NT	
193			コマツカサススキ	○						VU	
194		ラン	ヒナラン	○					EN	CR+EN	特定
195			ムギラン	○	○				NT	CR+EN	希少
196			エビネ	○	○	○			NT	NT	希少
197			ナツエビネ	○	○	○			VU	NT	希少
198			ユウシュンラン	○					VU	CR+EN	特定
199			キンラン	○	○	○			VU	VU	希少
200			ササバギンラン		○					CR+EN	特定
201			トケンラン	○					VU	CR+EN	特定
202			イチヨウラン	○						CR+EN	希少
203			セッコク	○	○	○				VU	特定
204			オニノヤガラ		○	○				NT	
205			クロヤツシロラン	○						NT	
206			ツリシュスラン	○						CR+EN	希少
207			ミヤマウズラ	○	○	○				NT	
208			サギソウ	○					NT	CR+EN	特定
209			ミズトンボ	○					VU	VU	希少
210			ホクリクムヨウラン	○						VU	
211			クモキリソウ	○	○	○				NT	
212			コ克蘭	○						NT	
213			フウラン	○	○				VU	VU	希少
214			ヨウラクラン	○	○					CR+EN	特定
215			ジンバイソウ	○	○	○				NT	
216			ミズチドリ	○	○					CR+EN	希少
217			トキソウ	○	○				NT	VU	希少
218			カヤラン	○						CR+EN	特定
219			ショウキラン	○	○	○				NT	
合計	5 類	78 科	219 種	173 種	108 種	89 種	0 種	0 種	62 種	210 種	87 種

注：1. 種名については「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト」（河川環境データベース 国土交通省、平成 28 年）に準拠した。

2. 選定基準は、第 3.1-36 表に対応する。

※1：オオレンシダで掲載、※2：キヨスミオオクジャクで掲載、

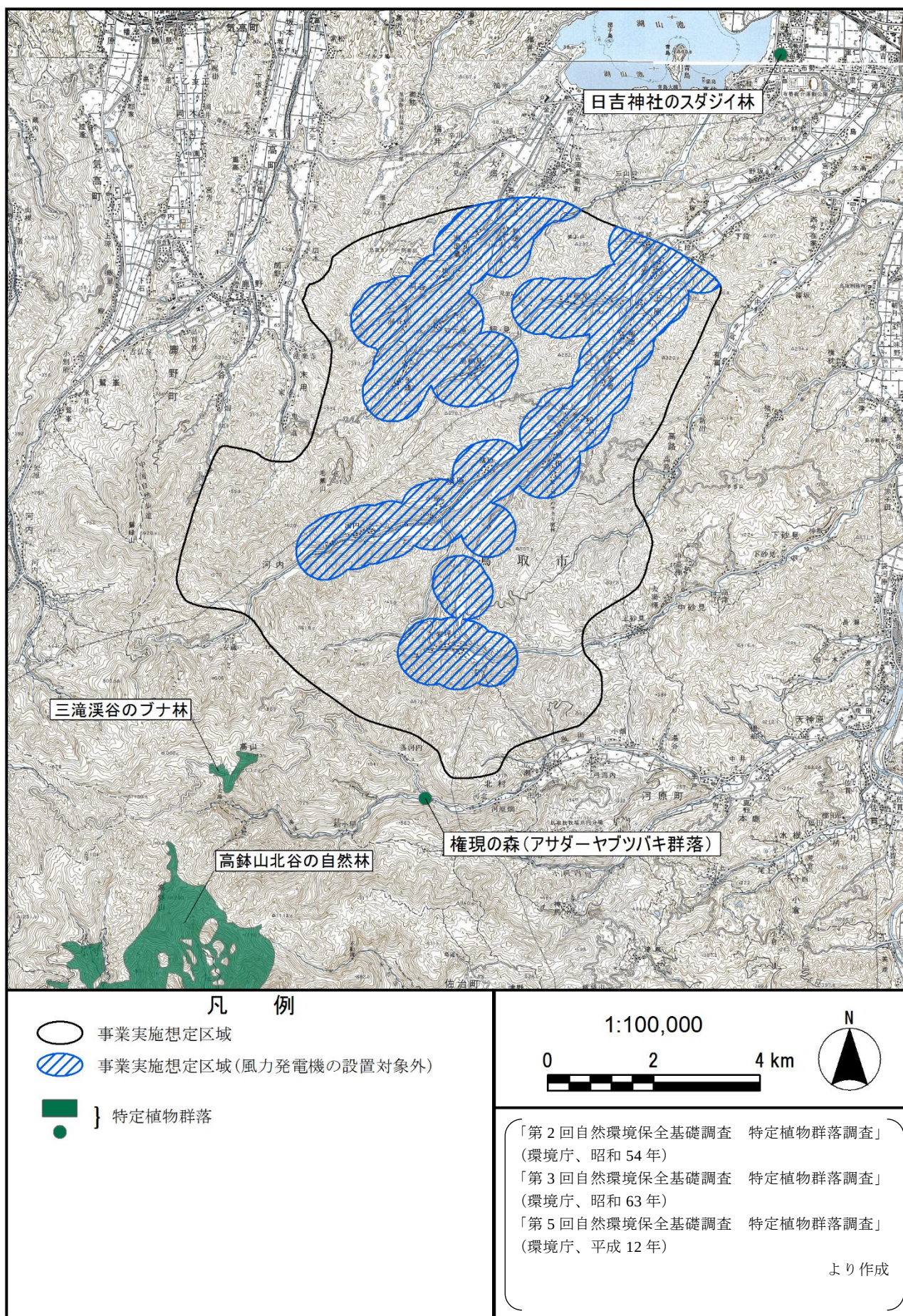
※3：ホソバオオアリドシ（ホソバニセシュズネノキ）で掲載、※4：コウキヤガラで掲載

第 3.1-38 表 重要な植物群落

所在市町	名称	選定基準		
		⑥		⑦
		ランク	面積 (ha)	ランク
鳥取市	日吉神社のスタジイ林	E	0.5ha	1
	権現の森 (アサダーヤブツバキ群落)	EH	0.8ha	1
	松上神社のスタジイ・サカキ林	-	-	1
	矢矯神社社叢	-	-	1
	ハマゴウ群落	-	-	3
	オニシバ群落	-	-	3
	ケカモノハシ群落	-	-	3
	コウボウシバ群落	-	-	3
	ネコノシタ群落	-	-	3
	ハマヒルガオ群落	-	-	3
	大野見倉弥命神社社叢	-	-	1
鳥取市 (旧河原町)	三滝溪谷のスギ・シャクナゲ群落	-	-	1
	三滝溪谷のブナ林	AG	不明	1
鳥取市 (旧佐治村)	高鉢山北谷の自然林	A	不明	1
鳥取市 (旧鹿野町)	鷲峰神社社叢	-	-	1
三朝町	三国山のブナ林	-	-	-

注：選定基準は、第 3.1-36 表に対応する。

「第 2 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査」(環境庁、昭和 54 年)
「第 3 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査」(環境庁、昭和 63 年)
「第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査」(環境庁、平成 12 年)
「植物群落レッドデータ・ブック」(NACS-J,WWF Japan、平成 8 年)
より作成



第 3.1-27 図 重要な植物群落の分布位置

(4) 巨樹・巨木林・天然記念物

事業実施想定区域及びその周囲の植物に係る天然記念物を第 3.1-39 表に、巨樹・巨木林を第 3.1-40 表のとおりである。また、それぞれの分布位置をに第 3.1-28 図のとおりである。

事業実施想定区域の周囲には、国指定 2、県指定 7、計 9 の天然記念物が分布している。また、「巨樹・巨木林データベース」（環境省 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）によると、事業実施想定区域の周囲には、樹林 1、並木 1、単木 22、区分不明 51、計 75 の巨樹・巨木林が分布している。

なお、事業実施想定区域には天然記念物が 2、巨樹・巨木林が 5、分布しているが、いずれも風力発電機の設置対象外である。

第 3.1-39 表 天然記念物（植物関係）

市	指定	所在地	指定年月日	所在の場所
鳥取市	国	大野見宿禰命神社	昭和 9 年 8 月 9 日	鳥取市徳尾
	国	松上神社のサカキ樹林	昭和 19 年 3 月 7 日	鳥取市松上
	県	長瀬の大シダレザクラ	昭和 34 年 6 月 5 日	鳥取市河原町長瀬
	県	落河内の大キリシマ	昭和 32 年 2 月 6 日	鳥取市河原町北村
	県	落河内のカツラ	昭和 48 年 3 月 30 日	鳥取市河原町北村
	県	桂見の「二十世紀」ナシ親木	昭和 60 年 2 月 22 日	鳥取市桂見
	県	田岡神社のツバキ樹林	昭和 48 年 3 月 30 日	鳥取市佐治町津無
	県	矢矯神社社叢	昭和 31 年 3 月 6 日	鳥取市矢矯
	県	弓河内の大シダレザクラ	昭和 30 年 9 月 6 日	鳥取市河原町弓河内

「とっとり文化財ナビ」（鳥取県 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）

「国土数値情報 指定文化財データ」（国土数値情報 ダウンロードサービス HP、閲覧：平成 29 年 7 月）

より作成

第 3.1-40 表(1) 巨樹・巨木林

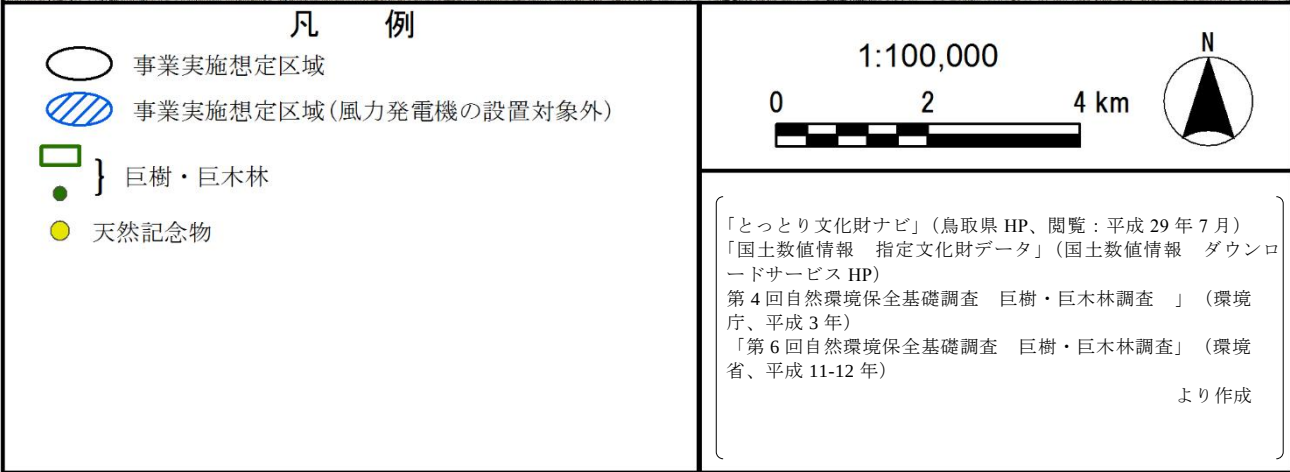
市町村	区分	名称・所在地	樹種	樹幹 (cm)	樹高 (m)
鳥取市	—	荒神むく	ムクノキ	720	30
	—	お富の杉	スギ	390	29
	—	—	スダジイ	330	10
	—	—	エノキ	450	17
	—	—	タブノキ	320	10
	—	—	タブノキ	350	23
	—	—	スダジイ	320	11
	—	—	スダジイ	660	20
	—	荒田神社内	スダジイ	460	20
	—	冬を知らせる木	イチョウ	500	30
	—	荒神さん	タブノキ	580	16
	—	—	タブノキ	330	20
	—	—	タブノキ	380	30
	—	—	タブノキ	400	30
	単木	甲山神社内	タブノキ	500	12
	—	—	スギ	350	20
	—	—	スダジイ	340	20
	単木	河内荒神内	タブノキ	580	16
	単木	正福寺内	イチョウ	500	30
	樹林	高路神社内	タブノキ	380	30
	単木	近藤伝一宅内	ムクノキ	720	30
	単木	玉屋神社内	スギ	390	30
	単木	下味野神社内	スダジイ	330	10
	—	北野神社内	スダジイ	-	-
	—	大野見宿示雨命神社内	スダジイ	-	-
鳥取市 (旧河原町)	単木	落河内	カツラ	1290	30
	単木	北村	ケヤキ	345	30
	単木	曳田	クロマツ	345	25
	単木	曳田	ケヤキ	315	30
鳥取市 (旧佐治村)	—	—	ケヤキ	560	0
	—	—	シロダモ	440	0
	—	—	モミ	360	20
	—	上津無ミイカチ	モミ	370	20
	—	—	シロダモ	380	20
	—	上津無	スギ	390	20
	—	上津無	ケヤキ	480	20
	—	—	シデ	320	20
	並木	上津無山の神	ケヤキ	540	0
鳥取市 (旧気高町)	単木	日光	タブノキ	650	15
	単木	山宮	タブノキ	720	15
	単木	重高	スダジイ	350	20

「第 4 回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査」(環境庁、平成 3 年)
「第 6 回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査」(環境省、平成 11-12 年)
より作成

第 3.1-40 表(2) 巨樹・巨木林

市町村	区分	名称・所在地	樹種	樹幹 (cm)	樹高 (m)
鳥取市 (旧鹿野町)	—	—	スダジイ	320	0
	—	—	スダジイ	305	0
	—	—	スダジイ	560	0
	—	—	スダジイ	450	0
	単木	幸盛寺	イチヨウ	610	34
	—	松泉寺	イチヨウ	380	20
	—	—	イチヨウ	350	25
	—	—	スギ	520	40
	—	—	スギ	415	40
	—	—	スダジイ	400	15
	—	—	スダジイ	330	15
	—	—	スギ	360	25
	—	—	スギ	360	25
	—	—	ケヤキ	390	25
	—	—	スダジイ	320	20
	—	—	イチヨウ	330	20
	—	—	ケヤキ	310	25
	—	—	スダジイ	360	25
	—	—	スダジイ	420	25
	—	—	スダジイ	420	25
	—	—	タブノキ	330	25
	単木	住吉神社	スダジイ	500	20
	単木	住吉神社	スダジイ	305	20
	—	—	トチノキ	0	0
	単木	観世音寺山	スダジイ	310	0
	単木	光輪寺	スダジイ	410	0
	—	殿	タブノキ	-	-
	—	加美美都神社	スダジイ	-	-
	単木	光輪寺	スダジイ	410	0
	単木	観世音寺山	スダジイ	310	0
	単木	二ノ丸	クロマツ	330	25
	—	鷹峰山	トチノキ	-	-
	—	鷹峰神社	スギ	-	-
鳥取市(旧青谷町)	単木	山根	クロマツ	335	25

「第 4 回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査」(環境庁、平成 3 年)
「第 6 回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査」(環境省、平成 11-12 年)
より作成



3. 1-86
(112)

3. 生態系の状況

(1) 環境類型区分

事業実施想定区域及びその周囲の環境類型区分の概要を第 3.1-41 表に、その分布状況を第 3.1-29 図のとおりである。

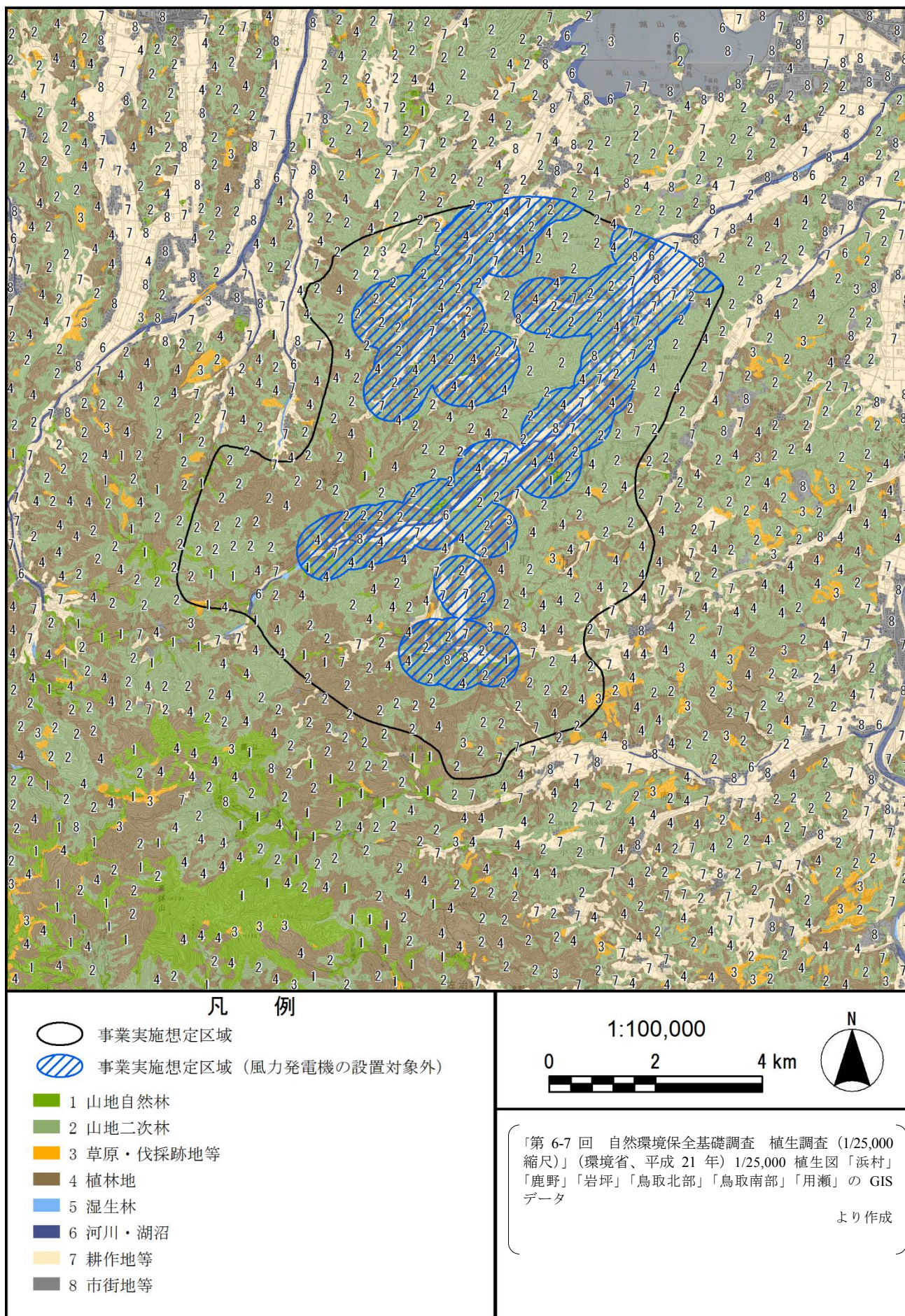
事業実施想定区域及びその周囲の地形は、主に布引山地の山地と谷底平野の低地からなり、植生区分との対応関係より、山地自然林、低地自然林、山地二次林、草原・伐採跡地等、植林地、耕作地等、市街地等の 7 つの環境類型区分に分類される。山地の大部分は、山地二次林、植林地であり、低地は、耕作地等、市街地等が広がっている。

また、事業実施想定区域の環境類型区分は主に山地二次林、植林地であり、一部に草原・伐採跡地等の分布が認められる。

第 3.1-41 表 環境類型区分の概要

類型区分	主な地形	植生区分
山地自然林	山地丘陵地	落葉広葉樹林（日本海型）（クロモジ・ブナ群集）、落葉広葉樹林（太平洋型）（イヌシデ・アカシデ群落）、溪畔林（ジュウモンジシダー・サワグルミ群集、ケヤキ群落（Ⅳ））、常緑広葉樹林（スダジイ群落、タブノキ群落）、落葉広葉樹林（ケヤキ群落（Ⅵ）、イヌシデ・アカシデ群落（Ⅵ））
山地二次林		落葉広葉樹二次林（ブナ・ミズナラ群落、クレーミズナラ群集、コナラ群落（Ⅴ））、常緑針葉樹二次林（アカマツ群落（Ⅴ））、常緑広葉樹二次林（シイ・カシ二次林）、落葉広葉樹二次林（コナラ群落（Ⅶ）、アカシデ・イヌシデ群落（Ⅶ））、常緑針葉樹二次林（アカマツ群落（Ⅶ））、低木群落
草原・伐採跡地等		二次草原（ササ群落（Ⅴ））、伐採跡地群落（Ⅴ）、タケ・ササ群落（タケ・ササ群落、メダケ群落）、低木群落（クズ群落）、二次草原（ススキ群団（Ⅶ））、伐採跡地群落（Ⅶ）
植林地		植林地（スギ・ヒノキ・サワラ植林、アカマツ植林、クロマツ植林、ニセアカシア群落、その他植林、オオバヤシヤブシ植林）、竹林
湿生林	低地	河辺林（ヤナギ高木群落（Ⅵ）、ヤナギ低木群落（Ⅵ））
河川・湖沼		湿原・河川・池沼植生（ヨシクラス、ツルヨシ群集、オギ群集、ヒルムシロクラス）
耕作地等		牧草地・ゴルフ場・芝地（ゴルフ場・芝地、牧草地）、耕作地（路傍・空地雑草群落、放棄畑雑草群落、果樹園、畑雑草群落、水田雑草群落、放棄水田雑草群落）
市街地等		市街地等（市街地、緑の多い住宅地、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等、工場地帯、造成地、開放水域、自然裸地）

注：植生区分は現存植生図（第 3.1-26 図参照）による。



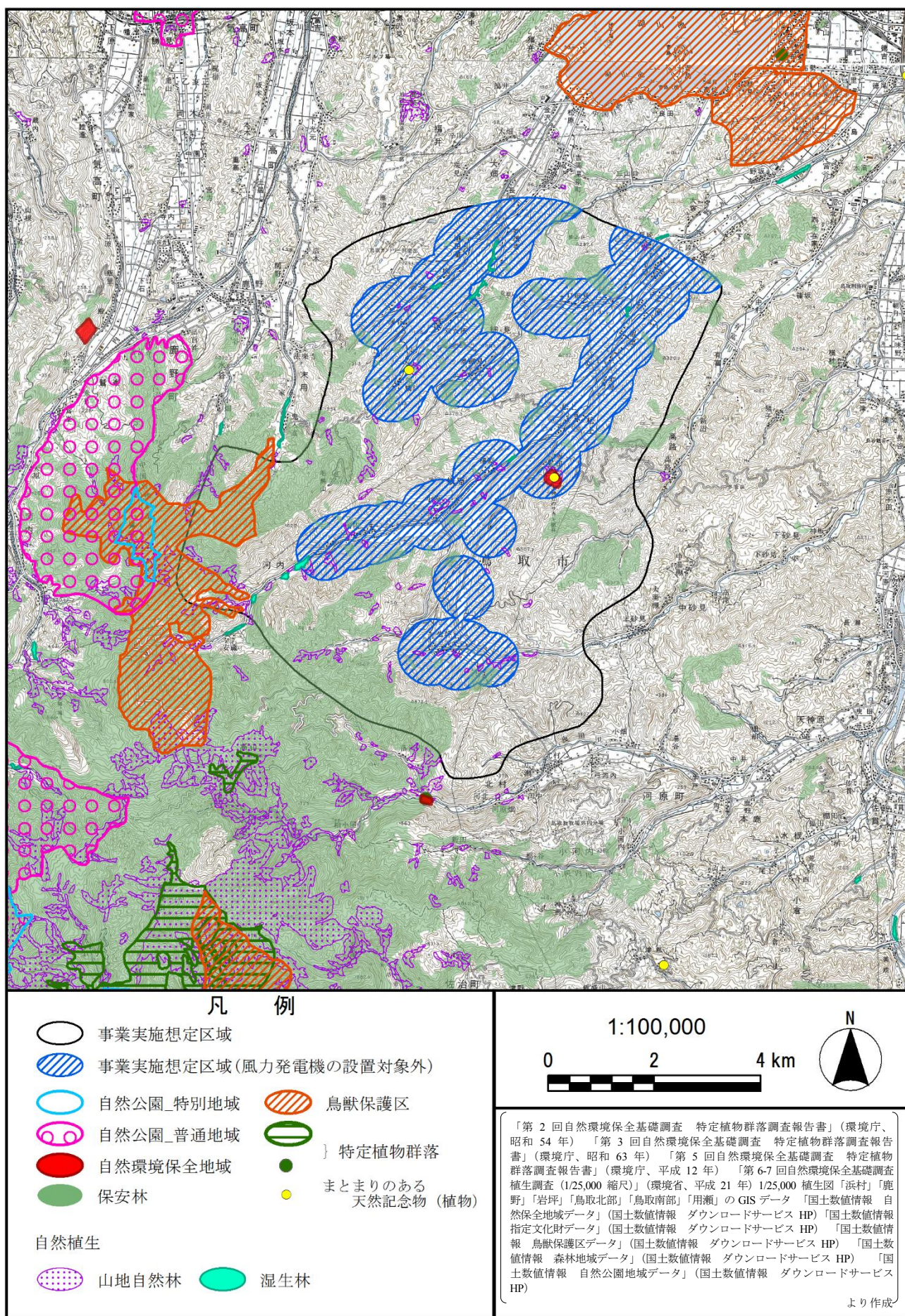
第 3.1-29 図 環境類型区分

(2) 重要な自然環境のまとまりの場

事業実施想定区域及びその周囲の自然環境について、重要な自然環境のまとまりの場の抽出を行った。抽出された重要な自然環境のまとまりの場は第 3.1-42 表、その分布状況を第 3.1-30 図のとおりである。

第 3.1-42 表 重要な自然環境のまとまりの場の概要

No.	重要な自然環境のまとまりの場		抽出理由
1	自然植生	山地自然林	事業実施想定区域には、スダジイ群落、ケヤキ群落（Ⅵ）、イヌシデーアカシデ群落（Ⅵ）が分布しているほか、事業実施想定区域の周囲では、イヌシデーアカシデ群落、ジュウモンジシダーサワグルミ群落、ケヤキ群落（Ⅳ）、タブノキ群落などが分布しており、南西側に多く見られる。このうち高鉢山付近に多く分布しているクロモジブナ群落は、特定植物群落の「高鉢山北谷の自然林」に指定されている。
		湿生林	環境省植生図によるヤナギ高木群落（Ⅵ）及びヤナギ低木群落（Ⅵ）のまとまりがある湿生林である。
2	自然公園	三朝東郷湖県立公園	三朝高原、東郷池を中心に鳥取県中部、倉吉市、三朝町、湯梨浜町の東郷、羽合にまたがる範囲が指定地区となっている。三朝地区の東側は普通地区に指定されている。
		西因幡県立自然公園	因幡地区の日本海沿い及び鷲峯山を中心とした内陸部が指定区域となっている。鷲峰山頂付近のブナ自然林が特別地域に、鷲峰山と因幡地区の市街地などが普通地区に指定されている。また、鷲峰山地区は中国自然歩道のルートとなっている。
3	保安林		水源涵養林や土砂崩壊防止機能を有する緑地等、地域において重要な機能を有する自然環境である。
4	鳥獣保護区		鳥獣の保護を図るため、保護の必要があると認められる地域である。
5	特定植物群落		自然環境保全基礎調査において定められた「特定植物群落選定基準」に該当する植物群落である。
6	鳥取県自然環境保全地域	松上、北村権現、気高殿	自然的社会的諸条件からみてその区域における自然環境を保全することが特に必要な地域として指定された区域である。
7	まとまりのある天然記念物（植物）		学術上価値の高い動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）、植物（自生地を含む。）が指定されている。そのうち単木等を除くまとまりのあるものである。



第3.1-30図 重要な自然環境のまとまりの場

3.1.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況

1. 景観の状況

事業実施想定区域は鳥取県東部に位置しており、東部に鳥取砂丘、南に中国山地、北部には日本海がある。

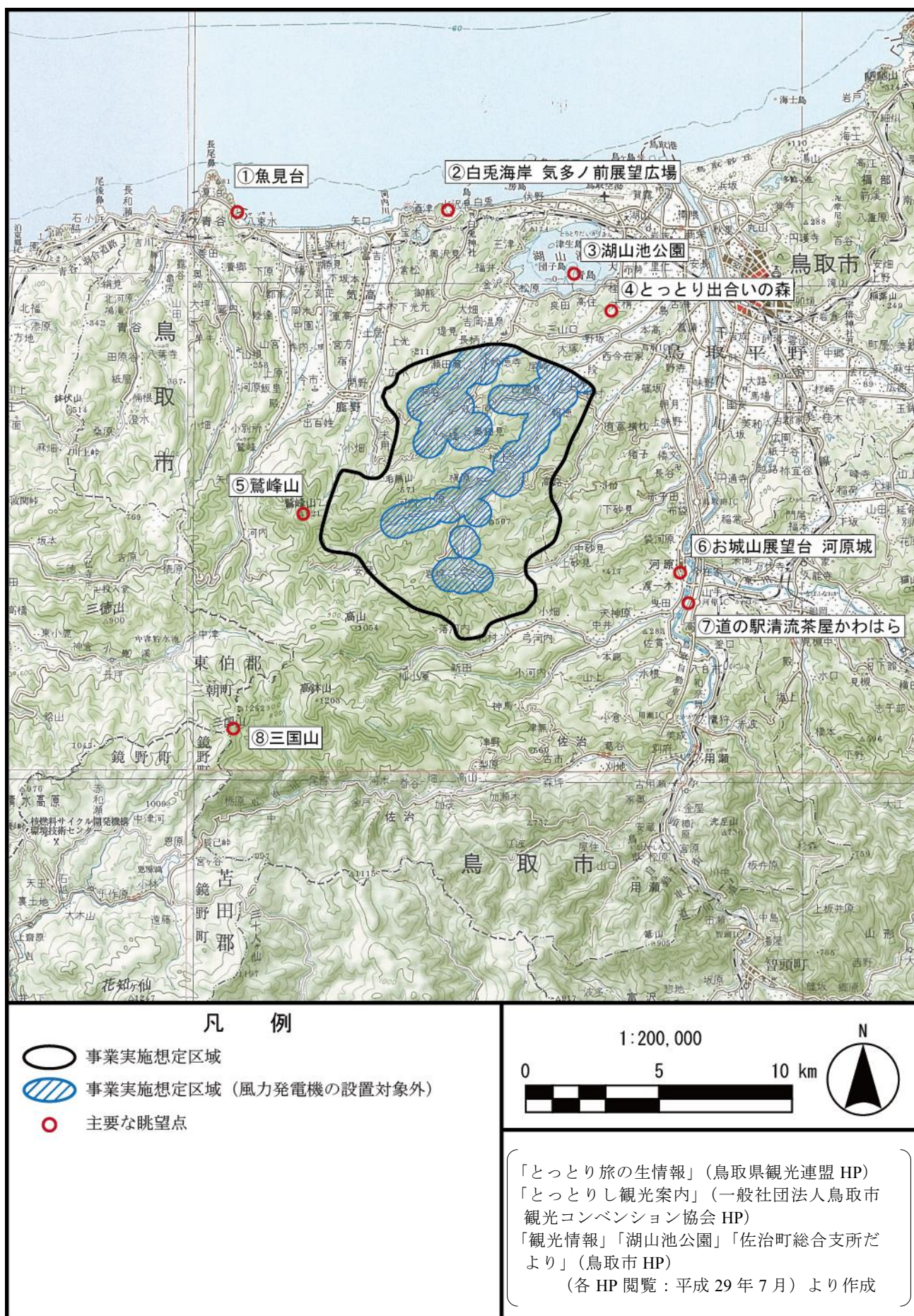
(1) 主要な眺望点の分布及び概要

事業実施想定区域及びその周囲の主要な眺望点は、第 3.1-43 表及び第 3.1-31 図のとおりである。

第 3.1-43 表 主要な眺望点

番号	眺望点	眺望点の概要
①	魚見台	気高町の西境にある高台。昔イワシの大群が押し寄せて来た時に、老漁師が大声で指示していたことから名付けられた。眼下には日本海が広がり、天気の良い日には因幡、但馬の山々や鳥取砂丘方面まで一望できる。西因幡県立自然公園の展望施設に指定されている。
②	白兎海岸 気多ノ前展望広場	白兎海岸の西側にある「気多ノ前（けたのさき）」にある展望広場。東側は白兎海岸から鳥取空港、鳥ヶ島、鳥取港、鳥取砂丘が見渡せ、西側は小沢見海岸から長尾鼻、天候の良い日には島根県の隠岐を見ることもできる。
③	湖山池公園	山陰海岸ジオパーク鳥取砂丘エリア内にある湖山池を取り囲む湖畔にある総合公園。三つのゾーンに分かれて整備されている。湖山池に浮かぶ青島には頂上の展望広場から湖山池が一望でき、正面には日本海、東側を向けば遠くに扇ノ山、河合谷高原の山並みが見え、また市内北部の町並みも見える。
④	とっとり出合いの森	77 ヘクタールの敷地内には様々な植物や樹木、そして自然を楽しむための設備が設置されている。散策コースや水遊びの広場のほか、至るところに展望台や展望デッキがある。
⑤	鷲峰山	鳥取市鹿野町の南部に位置する標高 920.6m の孤立峰。鹿野町殿口バス停から山頂を経て、鹿野町河内へ至る中国自然歩道があり、他にも、鹿野町鷲峰からの登山ルートがある。西因幡県立自然公園の展望施設に指定されている。
⑥	お城山展望台 河原城	天守閣のテラス展望台からは、遠く鳥取砂丘や中国山地の山並みが一望できる。また、城の周辺には桜のほか、約 800 本の梅の木が植えられ、梅林公園として整備されている。
⑦	道の駅 清流茶屋かわはら	鳥取自動車道・河原 IC そばに位置する。食事処、お土産処、休憩処があり、会議・イベント等で利用できる大広間を備えた交流室やコンビニエンスストアも併設されている。
⑧	三国山	登山歩道や展望塔が整備されている。頂上までは登山道入り口（佐治町中）から約 1 時間 30 分ほどで、展望塔からは天候がよければ湖山池や遠くの大山も望める。

「とっとり旅の生情報」（鳥取県観光連盟 HP）
「とっとりし観光案内」（一般社団法人鳥取市観光コンベンション協会 HP）
「観光情報」「湖山池公園」「佐治町総合支所だより」（鳥取市 HP）
（各 HP 閲覧：平成 29 年 7 月）より作成



第 3.1-31 図 主要な眺望点の状況

(2) 景観資源

「第 3 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」(環境庁、平成元年)による景観資源は、第 3.1-44 表及び第 3.1-32 図のとおりである。事業実施想定区域の周囲には「吉岡温泉」等がある。

第 3.1-44 表(1) 景観資源

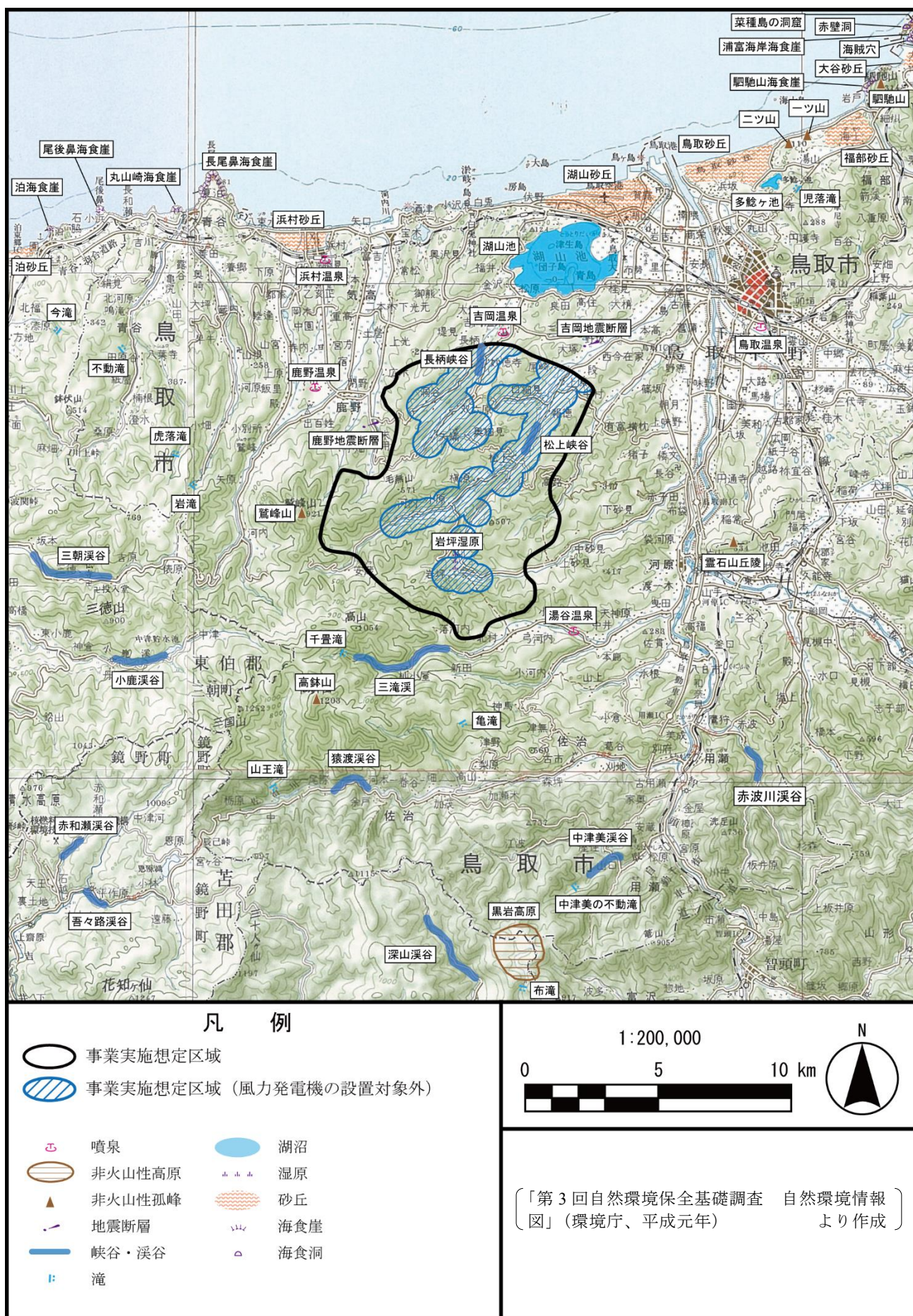
自然景観資源名	名 称
噴泉	浜村温泉
	吉岡温泉
	鹿野温泉
	鳥取温泉
	湯谷温泉
非火山性高原	黒岩高原
非火山性孤峰	駟馳山
	高鉢山
	鷲峰山
	一ッ山
	二ッ山
	霊石山丘陵
地震断層	吉岡地震断層
	鹿野地震断層
峡谷・溪谷	落折峡谷
	吉川川峡谷
	長柄峡谷
	松上峡谷
	三滝溪
	赤波川溪谷
	猿渡溪谷
	中津美溪谷
	三朝溪谷
	小鹿溪谷
	深山溪谷
	吾々路溪谷
	赤和瀬溪谷
滝	児落滝
	千畳滝
	亀滝
	中津美の不動滝
	山王滝
	不動滝
	虎落滝
	岩滝
	今滝

〔「第 3 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」(環境庁、平成元年)より作成〕

第 3.1-44 表(2) 景観資源

自然景観資源名	名 称
湖沼	多鯰ヶ池
	湖山池
湿原	岩坪湿原
砂丘	大谷砂丘
	福部砂丘
	鳥取砂丘
	湖山砂丘
	浜村砂丘
	泊砂丘
海食崖	浦富海岸海食崖
	駟馳山海食崖
	長尾鼻海食崖
	丸山崎海食崖
	尾後鼻海食崖
	泊海食崖
海食洞	菜種島の洞窟
	赤壁洞
	海賊穴

〔「第 3 回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」(環境庁、平成元年)より作成〕



第 3.1-32 図 景観資源の状況

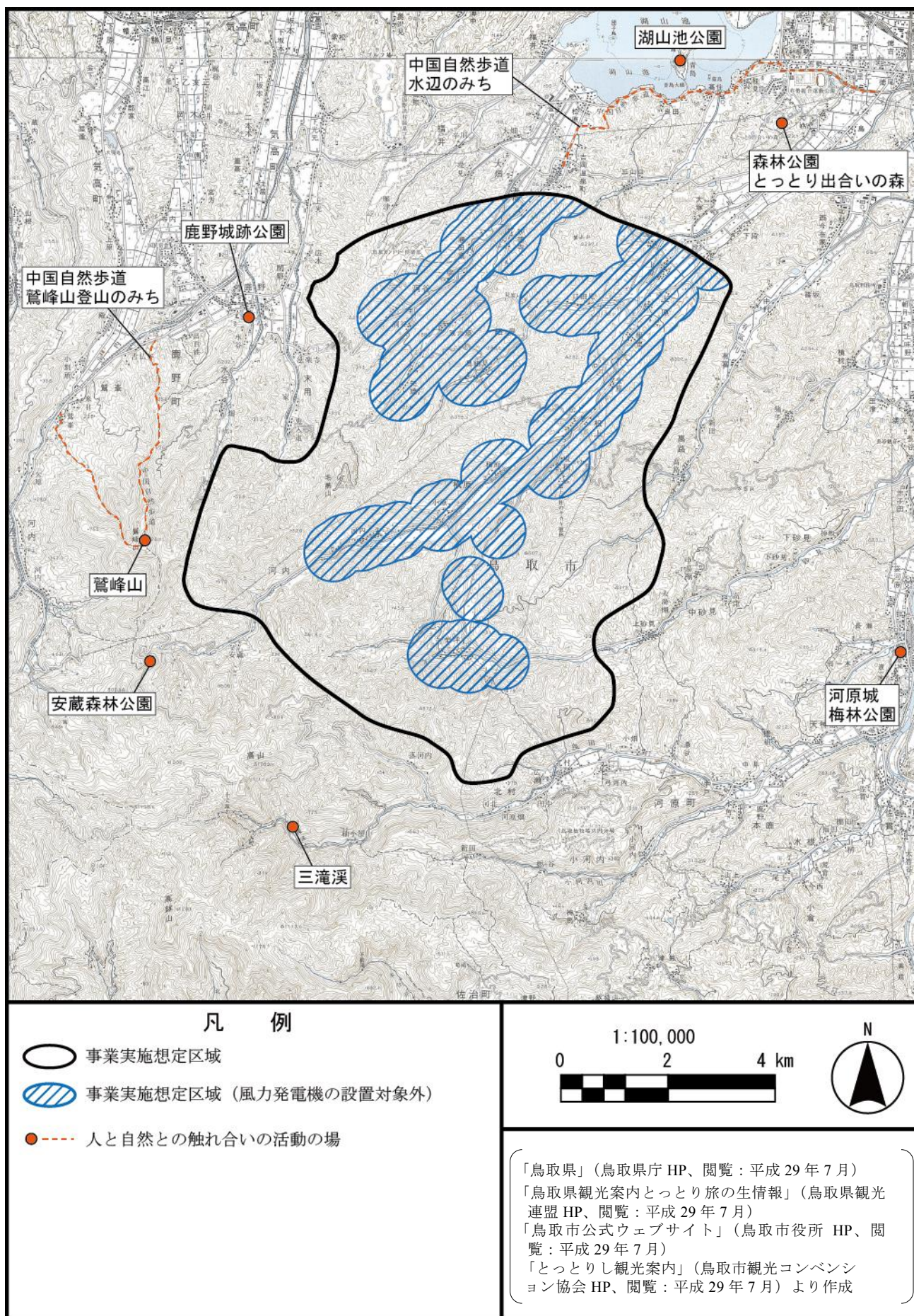
2. 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

事業実施想定区域及びその周囲における人と自然との触れ合いの活動の場の状況は第 3.1-45 表及び第 3.1-33 図のとおりで、湖山池公園、鷺峰山等がある。

第 3.1-45 表 人と自然との触れ合いの活動の場

名 称	概 要
湖山池公園	山陰海岸ジオパークエリアのジオスポットである湖山池を取り囲む総合公園。湖山池の東側には花見広場等の広場やコンセプトガーデンがある「お花畑ゾーン（愛称：湖山池オアシスパーク）」が、南側には青島大橋を渡って青島へ行くこともできる「子どもの遊びゾーン」が、西側にはプレイゾーンやレクリエーションゾーンがある「休養ゾーン」が整備されている。
森林公園 とっとり出会いの森	77ha の敷地内に様々な植物や樹木、自然を楽しむための設備が設置されている森林公園。散策コースや、天然の谷川の水を利用した「水遊びの広場」、自然の植栽を生かした生垣迷路「かくれんぼの広場」等を家族連れで楽しむことができる。
鹿野城跡公園	戦国時代の亀井茲矩公の居城跡で、頂上の石と内堀、外堀の石垣に、当時の面影が残っている。約 500 本のソメイヨシノが植えられており、「鹿野桜祭り」では桜の開花に合わせボンボリやライトアップで桜が演出されている。
鷺峰山	西因幡県立自然公園内に位置する標高 920.6m の孤立峰。名前の由来の一つは、北側から望む山頂部と東西の尾根の形が翼を広げた鷺のように見えるためと言われている。トレッキングができる歩道が整備されており、鷺峰山でしか見るることのできない花や植物も楽しむことができる。
安蔵森林公園	オートキャンプ場、バーベキュー、バンガロー、テニスコート、スキー場等、アウトドアを満喫できる公園。木工房での木工体験学習や、カフェでは安蔵名物ブルーベリーカレーも楽しむことができる。
三滝溪	千丈滝、夫婦滝、虹ヶ滝という三つの大規模な瀑布が見られることに因み、三滝溪という名が付いた。釣り堀やアスレチック、遊歩道の他、バーベキュー施設やバンガロー等も整備されている。
河原城 梅林公園	4 階建ての城内には、写真・パネル・模型を使って歴史・伝説・自然・人物・産業・文化等が紹介されており、最上階の天守閣テラス展望台からは遠く鳥取砂丘や日本海まで見渡すことができる。周辺には桜や約 800 本の梅の木が植えられ、梅林公園として整備されている。
中国自然歩道 「鷺峰山登山のみち」 「水辺のみち」	中国自然歩道は、中国地方を一周する総延長約 2,303km の長距離自然歩道。このうち鳥取県内のコースは、延長約 323.8km ある。本事業の事業想定区域の周囲には、「鷺峰山登山のみち（約 9km）」と「水辺のみち（約 9km）」が設定されている。

「鳥取県」（鳥取県庁 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）
「鳥取県観光案内とっとり旅の生情報」（鳥取県観光連盟 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）
「鳥取市公式ウェブサイト」（鳥取市役所 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）
「とっとりし観光案内」（鳥取市観光コンベンション協会 HP、閲覧：平成 29 年 7 月）より作成



第 3.1-33 図 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

3.1.7 一般環境中の放射性物質の状況

鳥取県では 9 か所にモニタリングポストを設置し、24 時間連続で空間放射線量率を測定している。事業実施想定区域の最寄りの測定地点は東方約 8.4km に位置する鳥取県庁であり、その位置は第 3.1-34 図のとおりである。

「全国の空間線量測定結果」によると、平成 28 年度の鳥取県庁における空間放射線量率は第 3.1-46 表のとおりであり、年平均値は 0.059 μ Sv/h である。

第 3.1-46 表 モニタリングポストによる空間放射線量率測定結果

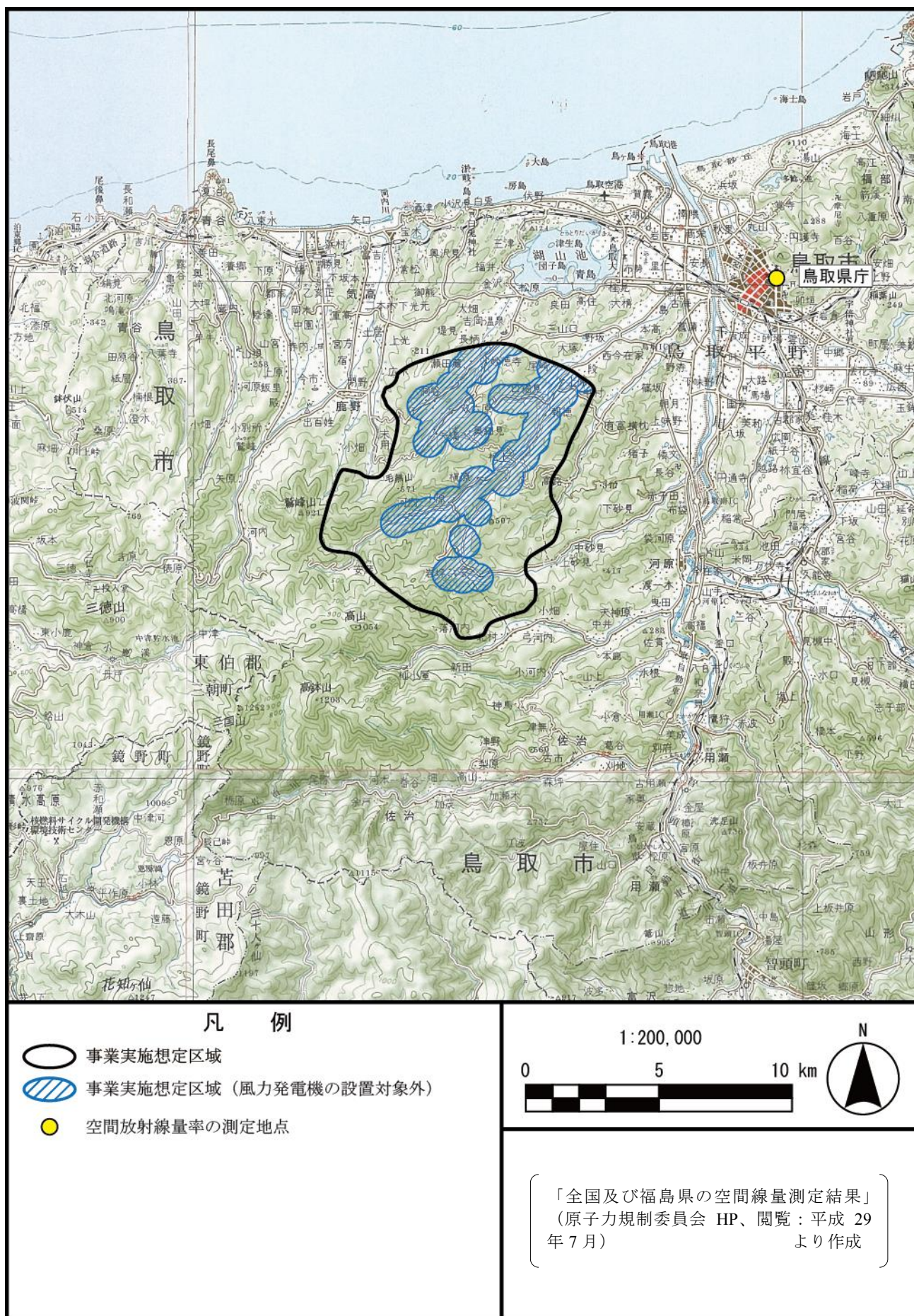
(単位： μ Sv/h)

測定期間		鳥取県庁
平成 28 年	4 月	0.059
	5 月	0.059
	6 月	0.059
	7 月	0.059
	8 月	0.060
	9 月	0.060
	10 月	0.059
	11 月	0.060
	12 月	0.062
平成 29 年	1 月	0.057
	2 月	0.053
	3 月	0.059
年平均		0.059

注：1. モニタリングポスト設置高さは、地上 1m である。

2. モニタリングポストでは空気吸収線量率 μ Gy/h (マイクログレイ毎時) で測定しており、出典元では環境放射線モニタリング指針 (原子力安全委員会) に基づき、1 μ Gy/h (マイクログレイ毎時) =1 μ Sv/h (マイクロシーベルト毎時) と換算し、実効線量を表示している。

〔「全国の空間線量測定結果」(原子力規制委員会 HP)
閲覧：平成 29 年 7 月) より作成〕



第 3.1-34 図 空間放射線量率測定地点